

# 地域活性化のための観光教育推進事業に関する業務 事業実施報告書



**「地域が学校と取り組む観光教育の未来」**

令和6年3月  
観光庁 観光産業課

# 目次

---

## (1) 事業概要

1.概要	P.3
2.採択地域	P.4
3.有識者	P.5

## (2) 観光教育の取り組み

1.ニセコ地域の取り組み	P.7-23
2.釜石地域の取り組み	P.24-42
3.島田地域の取り組み	P.43-66
4.アンケートの結果	P.67-106

## (3) 全国シンポジウムの開催

1.概要	P.108-109
2.告知	P.110
3.実施内容	P.111-112
4.アンケートの結果	P.113-129

## (4) 制作物

1.手引書	P.131
2.ワークブック	P.132

## (5) 総括

事業の成果	P.134-135
-------	-----------

## (1) 事業概要



# (1) 事業概要

## 1. 概要

### 事業名 地域活性化のための観光教育推進事業

### 事業の目的

観光立国の実現に向けては、観光業を支える人材の育成・確保が不可欠であり、現在の観光人材の育成・確保はもとより、未来の観光を支える潜在的な人材の掘り起しと多面的な育成にも取り組む必要がある。

そのところ、地域における観光教育のあり方について、学校内のみで完結するものではなく、地域の産学官関係者が連携した基盤が主体となり、地域が一体となって取り組むことにより、観光業に対する広く深い学習効果を得ることを目的とした「地域全体に開かれた観光教育」をモデル地域において実施する。

また、本実施結果を他地域にも広く周知させることで、地域一体となった観光教育の重要性に対する認知を高め、取り組みを普及させていくことも目的としている。

### 業務の内容

#### ① 地域における観光教育協議会の運営管理

- ◆ 観光庁の公募によって採択されたモデル地域（北海道ニセコ町、岩手県釜石市、静岡県島田市）に設置された観光教育協議会の運営管理を行う。

#### ② 協議会での議論を踏まえた観光教育の取り組みへの伴走支援

- ◆ 観光教育協議会での議論を踏まえ、モデル地域において、初等中等教育機関と連携しながら実施する観光教育の取り組みに対し、伴走支援を行う。

#### ③ 本事業における取り組みの横展開、普及促進

- ◆ 本事業における取り組みを全国の地域や教員等に向けて横展開を行うとともに、地域一体となった観光教育の普及促進を図る。

#### ④ 事業総括

- ◆ 上記①～③を踏まえ、当該事業の成果・課題とそれを解決する方策等を整理し、来年度以降に観光庁及び産学官の各関係者において取り組むべき方向性を、事業総括として報告書に取りまとめる。また、よりよい観光教育の実現に向けた提案を行う。

### 事業実施期間

令和5年8月7日（月）～令和6年3月15日（金）

# (1) 事業概要

## 2.採択地域

### (1) 北海道ニセコ町

協議会名称	ニセコ町国際観光認証会議（観光教育分科会）
地域について	北海道の南西部に位置し、基幹産業は農業と観光業。畑作、酪農や稲作、果樹など、多様な農産物がニセコブランドとして人気を集めている。北に位置するニセコアンヌプリは、降雪量が多く、良質なパウダースノーで有名なスキー場の他、温泉資源が豊富で、泉質の異なる温泉施設が数多くあり、年間を通して多くの観光客が訪れる。近年は、アジア資本など外資系企業や国内資本による大規模なリゾート施設の整備が進められ、外国人観光客が急増していることでも知られている。
取り組みする学校	北海道ニセコ高等学校 在籍生徒72名。道外、海外からも生徒を受け入れており、2年次からはアグリフードコースとグローバル観光コースに分かれて、専門的知識と実践力の育成とともに、キャリア教育にも力を入れている。 希望する生徒は4年生へ進級し、各コースの専門的な学習も可能。
取り組みする生徒合計17名	グローバル観光コース 2年生 7名 科目「観光ビジネス」 単元「観光まちづくり」 グローバル観光コース 3年生 10名 科目「観光Ⅲ」 単元「持続可能な観光地づくり」
その他連携先	ニセコ町、株式会社ニセコリゾート観光協会、一般社団法人サステナビリティ・コーディネーター協会(JaSCA)、株式会社ライオンアドベンチャー、Hakobune Niseko Japan合同会社、株式会社ニセコ風土 等

### (2) 岩手県釜石市

協議会名称	釜石持続可能な観光教育協議会
地域について	岩手県南東部に位置し市の9割近くが山林を占めている他、太平洋に面しており、沖には世界三大漁場である三陸沖が広がり、天然の良港と豊富な漁業資源を有している。水産業が釜石市の第一次産業における基幹産業であり、林業、農業と続いている。また、釜石市は近代製鉄業発祥の地でもあり、「鉄と魚とラクビー」で知られているが、自然、文化などの観光資源の他、体験型コンテンツ、防災関連プログラム、サステナブル・ツーリズムも重視している。
取り組みする学校	岩手県立釜石商工高等学校 在籍生徒201名。商業と工業高校による統合合併。学科は機械科、電気電子科、総合情報科。
取り組みする生徒	総合情報科 2年生5名
その他連携先	釜石市、株式会社かまいDMC、釜石観光物産協会、釜石地方森林組合、御箱崎市民会議、釜石シーウェイブスRFC、中田薬局、JR東日本釜石駅、いのちをつなぐ未来館 等

### (3) 静岡県島田市

協議会名称	島田市観光教育推進協議会
地域について	静岡県の中央に位置し、南アルプスを源流に持つ大井川の恵みを享受してきた自然豊かなまち。日本最大規模を誇る大茶園を有する指折りの緑茶の名産地として知られ、煎茶工場や茶摘機など茶業向け機械器具製造が地場産業として発展。また、世界一長い木造歩道橋の蓬萊橋や、日本で唯一300日以上SLを運行する大井川鉄道など、島田ならではの歴史や文化がたくさんある。
取り組みする学校	静岡県立島田商業高等学校 在籍生徒506名。学科編成としては、1年生・2年生は「商業科」、3年生は「総合ビジネス科」、「情報ビジネス科」のいずれかを選択。
取り組みする生徒合計83名	2年生授業科目「商品開発と流通」（選択履修） 商業科35名 3年生授業科目「広告と販売促進」（選択履修） 総合ビジネス科22名 3年生授業科目「観光ビジネスの課題研究」（全員履修） 総合ビジネス科24名、情報ビジネス科2名
その他連携先	島田市、島田市観光協会、島田市商工会、大井川鉄道株式会社

# (1) 事業概要

## 3.有識者

大学、高校、観光産業、それぞれに知見のある方々を選定し、各分野バランスのとれた有識者をアサインすることで、地域が持つ多様な課題に対応できる体制を整えた。

### 「観光ホスピタリティ教育」

大学



**穴戸 学 氏**  
日本大学 国際関係学部 国際総合政策学科 教授  
観光ホスピタリティ教育学会 会長

専門は観光学、主専攻は観光ホスピタリティ教育（人材育成・産官学連携）。大学教育等のカリキュラムにおける観光人材育成だけでなく、初等中等教育および産官学連携、教育旅行の促進なども含めた観光教育の体系化の研究に取り組む。日本観光ホスピタリティ教育学会評議員（前会長）、日本国際観光学会（理事）、日本観光研究学会会員。日本学生観光連盟顧問、地方自治体等の観光関連委員を兼務。

### 「観光ビジネス」

大学



**鈴鹿 剛 氏**  
四国大学 経営情報学部 経営情報学科 准教授  
観光庁 観光教育協議会委員

専門科目は「観光ビジネス」導入による観光教育推進のための高大連携に関する研究。2022年度から商業科科目「観光ビジネス」が設置されたが、各校の指導教員研修や教授方法など課題も多く、「観光ビジネス」科目の推進に向け、高校と大学が連携して観光教育に取り組むことによる、教育効果等について考察する。

### 「観光教育プロデュース」

高校



**大日方 樹 氏**  
学校法人明昭学園 岩倉高等学校 教諭  
運輸科、就職指導部部長、鉄道模型部顧問

相模鉄道の運転士を経て、2009年より現職。鉄道・観光科目や就職指導を担当。鉄道模型部顧問のほか、国交省・観光庁の協議会委員や全国高等学校鉄道模型コンテスト実行委員としても活動。高校生による地方鉄道活性化や鉄道イベントの企画等にも尽力している。全国高等学校観光教育研究協議会委員。

### 「地域活性プロデュース」

民間企業



**沢登 次彦 氏**  
株式会社リクルート ジャらんりサーチセンター センター長

1993年入社。2002年10月に国内旅行事業部へ。関東近郊観光地の地域活性に携わる。2007年4月より現職。観光庁をはじめ中央省庁や地方自治体の各種審議会委員等を務める。国土交通省観光庁：地域の観光資源の魅力を活かした顧客満足型商品旅行商品推進事業委員、日本観光協会：観光地域プロデューサーモデル事業研究会、他多数。

## (2) 観光教育の取り組み



## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 事業概要

事業を実施する 市区町村	北海道ニセコ町
実施主体	ニセコ町国際観光認証会議（観光教育分科会）
協議会構成員	<ul style="list-style-type: none"><li>・北海道ニセコ高等学校</li><li>・株式会社ライオンアドベンチャー</li><li>・Hakobune Niseko Japan 合同会社</li><li>・一般社団法人サステナビリティ・コーディネーター協会(JaSCA)</li><li>・株式会社ニセコ風土</li><li>・株式会社ニセコリゾート観光協会</li><li>・ニセコ町商工観光課</li></ul>

### 事業目的

「地域観光課題を大人と高校生が協働して、学びのリアリティを高める」を目的に取り組む。  
具体的には、地域全体で継続的かつ実践的な観光教育を進め、地域課題に合わせた活動を行い、地域全体で共有できることを目指す。

ニセコ町は、日本でも先進的に持続可能な観光地づくりに取り組んでおり、グリーンディステーションシルバー賞やベストツーリズムヴィレッジを受賞している。こうした国際的な特色を活かして、高校生が地域と協働し、国際基準に合った観光マネジメントのスキルを身につけることで、持続可能な観光地づくりに貢献するとともに、本校の育成したい資質と能力である「好奇心、思考力、判断力、受容力、発信力、挑戦力」を育むことで、未来の観光や地域づくりの協働に貢献する人材を育成する。

### 事業内容

#### 1. 持続可能な観光教育

協議会の株式会社LOOPORT（ループート）と一般社団法人サステナビリティ・コーディネーター協会（JaSCA）と協働し、持続可能な観光地づくりを協創できる人材育成

#### 2. 持続可能な観光マネジメント視察

- ①岩手県釜石市視察
- ②京都府美山町視察

#### 3. 「まちづくり教育」をテーマとする教育旅行視察

宮崎県の株式会社イツノマ視察

#### 4. 持続可能な観光教育のグループワークで抽出された地域課題を地域と協働して解決（実証実験・フィールドワーク）

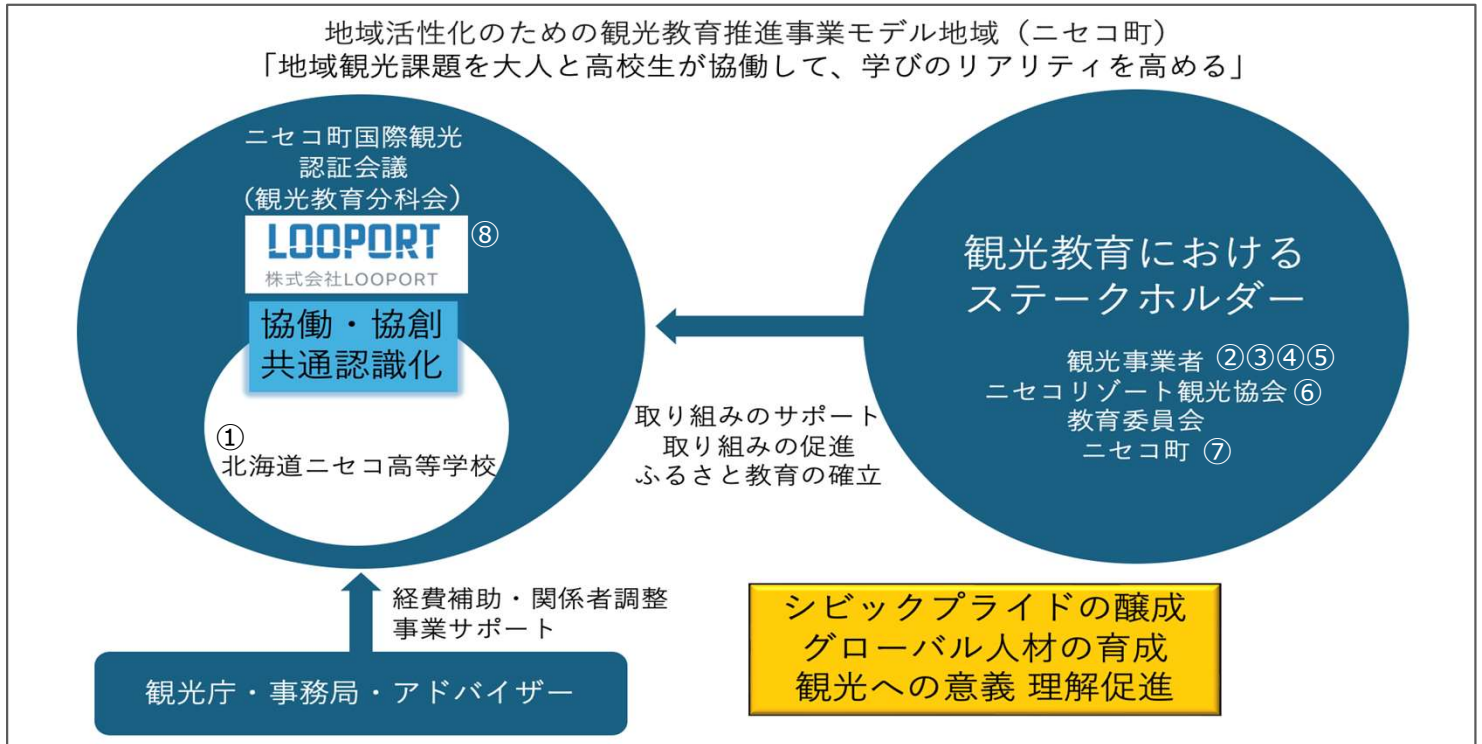
- ①E-Bikeを活用して地域課題を解決
- ②サステナブルツアー企画



## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 事業概要

### 実施体制



### 協議会構成員概要

- ① 北海道ニセコ高等学校  
役割：事業運営・連絡調整 生徒（高校生）指導
- ② 株式会社ライオンアドベンチャー（地域事業者）  
役割：実証実験支援 グループワーク支援 生徒（高校生）へのレクチャー
- ③ Hakobune Niseko Japan 合同会社（地域事業者）  
役割：実証実験支援 グループワーク支援
- ④ 一般社団法人サステナビリティ・コーディネーター協会（JaSCA）  
役割：実証実験支援 グループワーク支援 生徒（高校生）へのレクチャー 視察実施
- ⑤ 株式会社ニセコ風土（地域事業者）  
役割：実証実験支援 グループワーク支援 グループワーク支援 生徒（高校生）へのレクチャー
- ⑥ 株式会社ニセコリゾート観光協会  
役割：実証実験支援 生徒（高校生）へのレクチャー プロモーション支援 ツアー商品化支援
- ⑦ ニセコ町商工観光課（自治体）  
役割：事業運営 実証実験支援 グループワーク支援 生徒（高校生）へのレクチャー
- ⑧ 株式会社LOOPORT（代表・地域事業者）  
役割：事業運営 連絡調整 経費管理 生徒(高校生)へのレクチャー 視察実施

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 事業概要

### 実施スケジュール

項目	8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
① 4～12月：国際観光基準を活用した持続可能な観光を学び、地域課題を考える	第1回協議会																	地域報告会	全国シンポジウム		
	協議会の目的・共通認識化		文化的サステナビリティ	釜石市視察	まとめ・報告		持続可能なマネジメント			美町視察	まとめ・報告		持続可能な観光教育まとめ、アウトプット								
② 生徒が抽出した地域課題を解決する実証実験（二次交通・夏のコンテンツ不足）						第2回協議会			第3回協議会						第4回協議会			地域報告会	全国シンポジウム		
			共通認識・課題共有	課題解決における調査・整理			フィールドワーク・実証実験・検証の確認 意見交換						地域課題の取り組みまとめ	フィードバック	成果・課題まとめ						
③ 生徒が抽出した地域課題の解決する実証実験（サステナブルツアーの企画、商品化）						第2回協議会			第3回協議会						第4回協議会			地域報告会	全国シンポジウム		
			共通認識・課題共有	課題解決における調査・整理			フィールドワーク・実証実験・商品化におけるレクチャー・検証の確認・意見交換						地域課題の取り組みまとめ	フィードバック	成果・課題まとめ						
④ 地域づくりの取り組み先進地視察																					
							宮崎県伊予ノマ視察	まとめ・報告													

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 活動報告①

取り組み項目名称	持続可能な観光教育
実施日・実施期間	令和5年8月～12月
参加者	ニセコ高等学校の生徒 (1) 3学年グローバル観光コース10名 (2) 3学年グローバル観光コース5名 2学年グローバル観光コース4名
実施内容	(1) 持続可能な観光地における国際基準（ニセコ・世界の事例）12時間 一般社団法人サステナビリティ・コーディネーター協会（JaSCA）による講義 (2) 持続可能なマネジメント視察 9月 株式会社かまいしDMC（岩手県釜石市） 11月 一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会（京都府美山町）
場所	(1) ニセコ高等学校観光実習室 (2) 株式会社かまいしDMC（岩手県釜石市） 一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会（京都府美山町）



ニセコ町サステナビリティ・コーディネーターによる講義



持続可能な観光地の先進事例を学ぶ（美山町視察）



持続可能な観光地づくりの地域課題について協議会でグループワーク

#### ▶ 活動実施内容の詳細

「持続可能な観光教育」のキックオフとして、「ニセコ町はなぜ、持続可能な観光地をめざすのか」をテーマにニセコ町長の片山氏が講演を行い、取り組みの目的意義などを生徒に伝えた。その後、JaSCAによる講義で、グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（GSTC）の基準である「環境のサステナビリティ」「社会経済のサステナビリティ」「文化的サステナビリティ」について学んだ。

また、世界基準の観光地の取り組みについて、名城大学の二神教授がオンラインレクチャーを実施し、世界の事例をニセコ町と比較しながらグループワークを行い、課題を共有した。

さらに、岩手県釜石市と京都府美山町の視察研修を実施し、持続可能な観光地の先進事例を学んだ。

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 活動報告①

#### ▶活動実施結果

国際的な特色を活かして、高校生が地域と協働し、国際基準に合った観光マネジメントのスキルを身につけることで、持続可能な観光地づくりに貢献する資質や能力を身につけることができた。

世界基準の「観光マネジメント」については、持続可能な観光地の先進事例を学ぶため、岩手県釜石市と京都府美山町を視察し、講話や体験を通じてリアルな学びを得ることができた。

#### ▶次回以降の課題等

- ・持続可能な観光地づくりについて、高校生や地域の方が理解や関心を高めることで、より効果的な取り組みができる。そのため、地域住民への啓発活動や情報発信を強化し、参加意欲の向上を図る。
- ・講師の調整など、協議会の持続的な運営方法を検討する必要がある。

#### ▶学生・協議会構成員からのコメント

[高校生]

- ・ニセコ町にはまだ問題がたくさんあることを知った。GSTCは、世界全体でも切っても切り離せないものなので工夫して発展させていかないと大変なことになることが分かった。
- ・経済・文化・環境のサステナビリティを学び、ニセコ町の課題や世界の事例を知ることができた。ニセコ町には、改善の余地があると感じたので協議会でディスカッションをしてニセコ町に提案してみたいと思った。
- ・視察で、今までよりもっと持続可能な観光地づくりについて興味・関心が増えた。視察でたくさん質問をする事ができ、自分の知りたいことに積極的に取り組む力を身につけられたと思う。また、ニセコはどうだろうか？この取り組みはできているだろうか？という視点を持つ事ができ、広い価値観、基準を身につける事ができた。
- ・地域のことを知ることが自分の成長につながると実感した。

[協議会メンバー]

- ・ニセコ町が目指す持続可能な取り組みを学ぶ上で、非常に重要な活動であると思う。
- ・生徒たちが自身の地域に誇りと関心を持ち、地域への貢献意識を高めることができると思う。
- ・地域のサステナブルコーディネーターによる資料を活用した学習は、普段の学校教育では学習できない、より現実的な学びとなり、体験的な学びとして有効であった。
- ・地域と学校が密な連携を図ることで、より現実的な学びが実現可能になる。

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 活動報告②

取り組み項目名称	生徒が抽出した地域課題を解決する実証実験（二次交通・夏のコンテンツ不足） 「E-Bikeを活用して地域課題を解決する」
実施日・実施期間	令和5年8月～12月
参加者	ニセコ高等学校の生徒 3学年グローバル観光コース10名
実施内容	「E-Bikeを活用して地域課題を解決する」実証実験 (1)協議会とのグループワーク（課題解決学習） (2)株式会社ニセコリゾート観光協会によるサポート（E-Bikeの使用・活用方法）
場所	ニセコ高等学校観光実習室（協議会とのグループワーク） ニセコエリア（コース選定・フィールドワーク）



協議会と地域課題を解決するためのグループワーク



二次交通の課題解決に向けた実証実験



サステナブルコンテンツの提案に向けた実証実験

#### ▶活動実施内容の詳細

グループワークでは、「ニセコ町のまちづくりをどのように行うのが良いか」をテーマに、各グループで話し合い、スローガンを決めた。ファシリテーターは高校生が担当し、発表は協議会メンバーが担当した。

二次交通の課題解決にむけて生活圏とリゾート地をE-Bikeで試走。

（目的として）

- ①景勝地や施設を拡充し、地域の魅力を広め、消費を活性化し、住民や観光客の満足度を高める。
- ②環境問題や交通渋滞などの解決に貢献する。

（フィールドワークとして）

宿泊者の観光客向けルート、日帰りの観光客向けルート、そして、町民向けルートをそれぞれ試走し、二次交通としてE-Bikeの利用が可能か確認するとともに、観光地から生活圏のルートにある観光スポットを把握した。

E-Bikeを活用したサステナブルコンテンツ（滞在型・広域観光）の提案のため試走。

（目的として）

- ①持続可能なニーズに応えるために、サステナブルなアクティビティを提案する。
- ②長期滞在を促進するために、サステナブルなツアーを企画する。
- ③サイクリングを通じてニセコエリアの魅力を体験し、夏のリピーターを増やす。

（フィールドワークとして）

宿泊客を想定し、ホテル発着の羊蹄山一周コース、通称「エゾイチ」を試走した。

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 活動報告②

#### ▶活動実施結果

E-Bikeは楽に遠くへ行けることや、上り坂もまるで平坦のように軽やかに走ることができる。また、公共交通手段がない素晴らしい観光スポットや郊外のお店に行くことができる。さらに、車を停めるスペースがなくても、写真を撮ることができるなど、移動がより充実したものに感じた。そのような体験から、E-Bikeを活用することは二次交通の課題解決に有効だと判断できる。

E-Bikeを活用することで、環境に配慮した観光だけではなく、滞在日数の延長による地域経済への貢献や、地域交流による共感を通して、ニセコへのファンを増やす効果がある。

#### ▶次回以降の課題等

E-Bikeの利用促進がニセコ町にとって有効だと考えるため、今後、協議会と協働して「サステナブルなアクティビティとしての価値」「E-Bikeを使用しなければ実現できない価値」など、ニセコでE-Bikeを活用する価値を提示し、引き続き、地域課題の解決に取り組んでいく。

#### ▶学生・協議会構成員からのコメント

[高校生]

- ・E-Bikeを使用したツアーは、環境への配慮とニセコの特徴である自然を存分に満喫できるという点で、これからの時代に特に利益が見込めそうだった。今回、生産元の企業理念などを調べたことは、今後私たちがツアーを計画するときにも参考にしたいと思った。
- ・持ち運びのメリットなど、今後はE-Bikeの魅力・可能性をもっとアピールすることで、E-Bikeの普及につながると思う。
- ・サイクリングは観光客と地域住民の交流を深め、ニセコの大自然を肌で感じられるという利点がある。また、体力面でも安心なため、リピート客の増加も期待できる。さらに、エコ意識の向上にもつながると感じた。
- ・二次交通はニセコ町で特に問題視されているので、気軽に乗れる自転車を活用していくことや、坂道の多い地域であることを考慮し、町内全体にE-Bikeを導入するなど、乗って魅力を知ってもらうことが重要だと思った。
- ・E-Bikeの認知度やニーズを把握するため、まずは町民へモニタリングを実施したいと考えている。さらに、マップ作成など、E-Bikeツアーの需要喚起につなげていくことを目指していきたい。

[協議会メンバー]

- ・安全性やルート設計、ガイドの安全教育の課題を対応することで、環境に対してエコサイクリングツアーはより魅力的なものになる。
- ・E-Bikeを使用したツアーの魅力やメリットを、広く、正確に情報提供することが大切だと考える。
- ・地域の自治体や観光協会、自転車関連の団体などと協働し、コミュニケーションを円滑に進めることで、E-Bikeの普及につながると考えられる。

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 活動報告③

取り組み項目名称	生徒が抽出した地域課題の解決する実証実験 「サステナブルツアー企画（地域の魅力的な商品化）」
実施日・実施期間	令和5年8月～12月
参加者	ニセコ高等学校の生徒 (1) 3学年グローバル観光コース4名 (2) 2学年グローバル観光コース7名
実施内容	「サステナブルツアー企画（地域の魅力的な商品化）」実証実験 株式会社ニセコリゾート観光協会によるサポート（ツアー商品化のサポート）
場所	ニセコ高等学校観光実習室（協議会とのグループワーク） ニセコ町内（ツアー企画）



麗澤大学にサステナブルな  
モニターツアーを実施



筑波大学留学生にサステナブルな  
施設を英語でガイド



サステナブルツアーを商品化し  
札幌国際大学に提供

#### ▶活動実施内容の詳細

地域の課題であるサステナブルコンテンツ不足を解決するため、東京の品川女子学院と協働し、ニセコ町のサステナブルツアーを企画した。麗澤大学、筑波大学留学生にモニターツアーを実施し、商品化を目指した。

さらに、岩手県釜石市や京都府美山町のように、地域をマネジメントしながらサステナブルツアーを推進している先進的な取り組みを視察した。

協議会メンバーが、「まちづくり教育」をテーマとする教育・探求旅行をスタディツアーとして企画している宮崎県の株式会社イツノマを視察。協議会のワークショップで共有し、それを参考としてサステナブルツアーを企画・立案した。企画ツアーは、ニセコリゾート観光協会の協力のもと商品化し、札幌国際大学に提供した。

## (2) 観光教育の取り組み 1.ニセコ地域

### 活動報告③

#### ▶活動実施結果

地域課題を通して持続可能な観光地づくりに協働し、実践的に学ぶことができた。参加者が「持続可能な観光」についてイメージを持ち帰り、実践することで、このような取り組みが広がる効果も期待できる。また、持続可能な観光地づくりを学ぶ目的として、再びニセコに来訪するきっかけにもなる。

ツアー企画を通じて、地域の課題を地域の方々や参加者と協働・連携することで、日頃では得られない学びや、地域のことを自分ごととして考えるようになった。

#### ▶次回以降の課題等

今後はツアー内容をブラッシュアップし、魅力的な商品として海外の観光客にも提供できるように検討する。また、プロモーションにあまり取り組めなかったので、継続的に、協議会と協働して取り組む。

#### ▶学生・協議会構成員からのコメント

[高校生]

・協議会の方から、「閑散期が発生する理由」「閑散期だから来てくださいという訴求が旅行者にとってメリットとなるのか、満足度向上に繋がるのか」「サステナブルとは何か」をもう一度深掘りしてみようという提案があった。この提案を受け、ニセコの現状をツアー商品として提供する立場から、より深く原因を把握する必要があると考えた。

・今回のツアーで話し合った閑散期解決のためのアイデアを実行し、モニタリングを行い、見える化しながら進めていきたいと思う。

・ニセコ町の11月を充実させるために、どのようなことが可能か調査したいと考えている。具体的には、イベント開催や、シーズンを問わず楽しめるアクティビティの探索など。

・サステナブルと何かを組み合わせ、活動することによって新たな魅力に出会えると感じた。日本だけではなく世界も共通していると思うので、非常に重要なことだと思った。

[協議会メンバー]

・地域と高校生がサステナブルツアーの取り組みを進めることで、より良い観光コンテンツが提供されることを期待したい。

・サステナブルツアーは、観光客のみならず地域住民や環境にもポジティブな影響を与えることができる取り組みなので、持続可能な体制を構築していくことが必要だと考える。

・旅行者にとってサステナブルツアーがどのような意味を持つのか、どのような価値があるのかを伝えることが重要であると思った。



## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 活動報告④

取り組み項目名称	イツノマ視察
実施日・実施期間	令和5年10月15日～16日
参加者	株式会社LOOPORT 青木みのり 一般社団法人サステナビリティ・コーディネーター協会 澤田健人
実施内容	株式会社イツノマによる「まちづくり教育」の視察
場所	宮崎県都農町



廃校活用が検討されている  
都農高等学校



地域クラブ「まちづくり部」の  
活動スペース



株式会社イツノマ代表取締役と  
の意見交換

#### ▶活動実施内容の詳細

宮崎県都農町に本社を構える株式会社イツノマを訪問し、地域創生や人材育成について理解を深めることを目的とする。ニセコ町における持続可能な観光を絡めたスタディツアーの開発に向けた視察である。

後日、協議会で視察報告を実施。

#### 1日目

- ・都農町内の施設見学。
- ・株式会社イツノマ代表取締役中川氏による事業説明。
- ・株式会社イツノマ代表取締役中川氏との意見交換。

#### 2日目

- ・都農ペレット工業株式会社見学、意見交換。

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 活動報告④

#### ▶活動実施結果

株式会社イツノマによるまちづくり事業の全体像を把握することができ、地域の小中学生を巻き込んだまちづくり教育や、他地域からの学生や企業を受け入れるスタディツアーの運営に関する理解を深めることができた。

視察全体を通して、ニセコ町でのスタディツアーにおいても活用できる仕組みやビジョンが多くあり、視察で得たノウハウを地元サイドで共有することで、今後の活動をブラッシュアップすることができる貴重な機会となった。

#### ▶次回以降の課題等

- ・ニセコ町にマッチしたスタディツアーのコンセプトやカリキュラムのすり合わせを行っていく。
- ・地元サイドの受け入れ体制、スタディツアーの企画運営母体を明確にする必要がある。

#### ▶学生・協議会構成員からのコメント

[高校生]

- ・宮崎県の視察で、中学生が主体となって町の会議を行っているという話を聞き、とても興味を持った。
- ・都農市のランドデザインを記したパンフレットを全家庭に配布していることも知ることができ、非常に勉強になった。
- ・宮崎県では、地元に戻ってくる若者が少なく、地元で働く若者が減っているという課題がある。この課題に対する施策として、地域のこどもが町づくりに参加していた。これは、ニセコ町が行っている取り組みと似ており、身近に感じられる内容であった。

[協議会メンバー]

- ・高校生は「まちづくり」「観光地づくり」を絡めたコンテンツづくりに関心を示しており、ニセコ町の課題を抽出しながらオリジナルのプログラムを企画していきたい。

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 活動報告⑤

取り組み項目名称	地域活性化のための観光教育推進事業 ニセコ地域協議会
実施日・実施期間	①第1回協議会：令和5年8月23日（水）13：30～15：00 ②第2回協議会：令和5年9月25日（月）11：10～12：30 ③第3回協議会：令和5年10月30日（月）11：10～12：30 ④第4回協議会：令和5年12月21日（木）11：10～12：30
参加者	①第1回協議会：協議会メンバー ②第2回協議会：協議会メンバー、生徒 ③第3回協議会：協議会メンバー、生徒 ④第4回協議会：協議会メンバー
実施内容	協議会の開催
場所	①第1回協議会：ニセコ高校多目的ホール ②第2回協議会：ニセコ高校観光実習室 ③第3回協議会：ニセコ高校観光実習室 ④第4回協議会：ニセコ高校観光実習室



第1回協議会の様子



第2回協議会の様子



第3回協議会の様子

#### ▶活動実施内容の詳細

##### 第1回協議会

- ①自己紹介
- ②本事業について（観光庁）
- ③本事業の進め方・協議

##### 第2回協議会

- ①持続可能な観光教育の取り組み（地域課題共有）・岩手県釜石市視察報告
- ②地域課題についてグループワーク
- ③活動報告

##### 第3回協議会

- ①実証実験の報告(E-Bikeを活用したフィールドワーク・サステナブルツアー)
- ②宮崎県視察について報告
- ③情報交換・質疑応答・有識者の方からコメント

##### 第4回協議会

- ①持続可能な観光地域づくり「京都府美山町視察」について報告
- ②実証実験の報告(E-Bikeを活用したフィールドワーク・サステナブルツアー)
- ③情報交換（事業実施結果・次年度の取り組みに向けた課題や取り組んでみたい事業）
- ④有識者の方からコメント

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 活動報告⑤

取り組み項目名称	地域発表会
実施日・実施期間	令和6年1月26日（金）18：10～18：40
参加者	町民、保護者、生徒、学校関係者、（38名）
実施内容	地域発表会
場所	ニセコ町民センター（2階研修室1）



活動報告



発表を聞く町民の皆さん



質問に答える生徒

#### ▶活動実施内容の詳細

[地域発表会の内容]

地域活性化のための観光教育推進事業 ニセコ地域の取り組み

- 1 取り組みの目的と内容
- 2 協議会構成員それぞれの役割と体制作り
- 3 生徒による発表（E-Bikeを活用したフィールドワーク・サステナブルツアー）
- 4 事業の成果、反省と課題
- 5 来年度の取り組み

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 事業実施結果

#### ① 全体の成果

「地域課題を大人と高校生が協働して、学びのリアリティを高める」ことを目的に取り組むために、協議会を設立し、目的や地域における観光教育のあり方を共有し、協働・協創しながら、目的達成に取り組むことができた。協議会は4回開催し、目的と意義について共通の理解を深め、生徒の報告やグループワーク、課題や成果について意見交換を実施した。また、地域の観光関連事業者や教育委員会のサポート、有識者や観光庁のアドバイスをいただきながら、協働する重要性を実践的に学ぶことができた。観光教育を高校と実施する協議会があるため、すぐに相談することができ、実践的に課題を解決する方法を考えることができた。地域の方々と一緒に地域のことを考えることで、観光教育やふるさと教育の重要性を認識し、将来の観光や地域づくりについて、シビックプライドを持って進めることができると考える。

本事業を通して、生徒たちは、地域と協働することで、主体的に地域課題を考える資質や能力を育成することができた。特に、「未来に向かって考える力」は、未来の課題について問いを立て、思考・判断し、行動する「挑戦力」であり、この力は変化に溢れる時代に重要な力だと考える。地域に開かれた観光教育は、地域社会の発展に貢献する重要な要素である。観光教育を地域全体で推進することで観光の理解が進み、高校生や地域住民が誇りや愛着を持つことで、地域が活性化されると考える。

#### ② 産官学の連携について

本事業の協議会は、産（ニセコリゾート観光協会をはじめとした観光事業者）、官（ニセコ町役場（地方自治体））、学（北海道ニセコ高等学校）で構成した。また、麗澤大学や筑波大学、札幌国際大学と協働し、取り組んだ。

（産）ニセコリゾート観光協会をはじめ観光事業者としては、自治体や高校と協働することで新たな価値を生み出すことができる。また、未来の観光人材の確保につながる。本事業では、高校生が提供するサステナブルツアーが該当する。

（官）ニセコ町役場としては、ふるさと教育の確立や、地域の高校生の意見を意識することで地域住民の目線で考えることができる。さらに、（産）と連携することで、行政サービス（教育・交通課題・イベント企画）の質の向上が期待できる。

（学）ニセコ高等学校としては、高校生が実践する場を得ることができるため、効果的に成果を上げることができる。これにより、課題解決へのモチベーションも高まり、未来への思考力や能力を育むことも可能。また、観光教育を通じて、地域への愛着や誇りも育まれ、地域の活性化にも貢献できる。

そのため、地域課題を解決するためには産官学の連携が不可欠で、地域の活性化にも重要な要素となる。

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 事業実施結果

#### ③ 地域で観光教育を進める上で課題となることは何か

- ・地域の魅力が伝わっていないと、目的や教育内容が明確にならないことがあるので、学校が地域と連携し、共通認識を持つ必要がある。つまり、観光事業者や自治体、学校などの連携が上手くいかないと、効果的な観光教育が実施できない。
- ・学校の関心やニーズに合わせたカリキュラムの考案が必要。観光に関する内容を社会の変化に対応するため、多様化する必要がある。
- ・地域全体で観光教育の体制を構築しないと、持続可能な取り組みが難しくなる。
- ・予算や人的リソースを確保しないと、持続可能な観光教育の実施が難しくなる。

#### ④ 持続的に取り組むために求められることは何か

- ・持続的に取り組むために、地域一体となって地域活性化における観光教育を実施する主体的な組織（協会・地域教育DMO）が求められる。
- ・持続的に取り組むために、体制の構築に加えて、予算や人的リソースの確保が求められる。
- ・環境に配慮した観光活動や教育プログラムの推進が求められる。
- ・地域内外との連携を深めることで、異なる文化や視点を学ぶ機会を提供することが重要であり、地域間の交流や情報の共有を通じて、観光教育のネットワークを広げることが求められる。

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 事業実施結果

#### 次年度の取り組みに向けた課題や取り組んでみたい事業内容

##### (1) プログラムテーマ

地域と協働した観光教育・研修事業のマネジメントを通して地域活性化に貢献する

##### 目的

- I 持続可能な観光教育を通して、国際基準の観光地づくりに貢献できる考えと行動力を養う。
  - II 今年度の事業で実施した観光教育の成果を活かし、地域教育DMOを設立することで、地域における観光教育を持続的に推進する。
- ※今後協議会で、「国際認証を活用した持続可能な観光教育」、「サステナブルツアー」、「E-Bikeを活用した地域活性化」など、地域や国内外の組織と連携して多様で特色ある教育を展開する場合、必要とされる専門性や運営ノウハウは多岐にわたり、限られた協議会だけのリソースでそれらに対応していくのは現実的ではない。ニセコに根を下ろし、継続的にサポートする専門的組織が必要となるため、地域教育DMOを設立する。

##### (2) プログラム体制

地域体制：ニセコ町国際観光認証会議（観光教育分科会）

メンバー：北海道ニセコ高等学校担当者（3名＋本校4年生2名）

地域事業者担当者

ライオンアドベンチャー（1名）

一般社団法人サステナビリティ・コーディネーター協会（1名）

ニセコ風土（1名）・LOOPORT（2名）

エコモビリティ北海道（1名）

ニセコリゾート観光協会担当者（1名）

自治体担当者（ニセコ町商工観光課（1名）

ニセコ町企画環境課（1名）

ステークホルダー：観光事業者・ニセコリゾート観光協会・教育委員会・ニセコ町

アキボウ（大阪：自転車サポート）・小樽商業科大学（予定）

高校体制：2学年グローバル観光コース11名：観光ビジネスで実施

3学年グローバル観光コース15名：観光総合で実施

※観光英語（2年）・課題研究（全学年）の授業で双方に共有

4年生（2名）：海外研修後、協議会のメンバーとして参加

## (2) 観光教育の取り組み 1. ニセコ地域

### 事業実施結果

#### 次年度の取り組みに向けた課題や取り組んでみたい事業内容②

##### (3) プログラムの内容・特徴

###### I 持続可能な観光教育を通して、国際基準の観光地づくりに貢献

- ①ニセコ町の取り組みである持続可能な観光の国際基準※について、ニセコ町サステナブルコーディネーターや地域の観光に関するステークホルダーと連携し、プログラムを行う。  
※GSTCクライテリア（グローバル・サステナブル・ツーリズム・カウンシル基準）と呼ばれる持続可能な旅行と観光のための国際基準。
- ②国際的な「サステナブル・ツーリズム」に取り組む地域や大学（京都府美山町・神戸大学）を視察し、持続可能な観光地づくりのプロセスやDMOの役割について学ぶ。
- ③持続可能な観光教育プログラムや視察を通し、地域課題に対して、国際基準を意識しながら取り組み、シビックプライドを高めるだけでなく、世界に選ばれる観光地づくりに取り組む。そのことで、地域の活性化に貢献することを目指す。

###### II 地域教育DMOの活動を中心とした観光プログラムをプロデュースし、協働・創造できる人材を育成

- ①地域教育DMOの設立に向けて、協議会やステークホルダーと協働しながら取り組む。
- ②地域教育DMOを運営するため、ビジョンを共有し、地域の価値を高めるための計画を作成する。
- ③今年度商品化したサステナブルツアーやE-Bikeを活用した地域活性化の取り組みを充実させ、ニセコ町の環境に配慮した観光の取り組みを主体的に学習し、ホスピタリティの姿勢や企画力を身につける。また、地域教育DMOやニセコ観光リゾート協会と連携して、研修旅行でニセコ町を訪れる大学生や高校生にサステナブルツアーを提供する。
- ④地域の魅力を高めるために、教育プログラムや研修事業のプロデュースを通じて活動する。
- ⑤地域教育DMOの持続可能な運営を目指すために、地域の観光環境や組織のニーズに合わせて、運営方法や内容を調整する。

#### 次年度の取り組みに向けた課題や取り組んでみたい事業内容③

##### (4) その他

今年度実施したプログラムをさらに充実させ、観光教育を地域全体で推進し、高校生や地域住民が誇りや愛着を持つことにより、地域の活性化を実現する。さらに、地域や観光関連事業者、国内外の高校や大学などと連携して観光教育を行うことで、今年度事業で得られた成果を他地域に普及、横展開することにより、観光地づくりに貢献していきたいと考えている。



## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 事業概要

事業を実施する 市区町村	岩手県釜石市
実施主体	株式会社かまいしDMC
協議会構成員	岩手県立釜石商工高等学校 釜石市産業振興部商工観光課 釜石市総務企画部総合政策課オープンシティ推進室 釜石観光物産協会 釜石地方森林組合 NPOおはこざき市民会議 日本製鉄釜石シーウェイブス 中田薬局 東日本旅客鉄道（株）釜石駅

### 事業目的

#### 1. 釜石の観光教育の目的



##### 地域の課題

##### 担い手の不足

一次産業をはじめとして、地域の未来を担う人材不足による産業の衰退

##### 観光への理解不足

釜石のサステナブルツーリズムが高く評価されて、観光需要が高まっている中、若い世代を中心に、まだ観光への取組があまり知られていない

##### 地域への愛着

地域の仕事や地域資源に触れる機会が少なく、地域への愛着や誇りの醸成が不十分となっている

##### 観光教育の目的

##### <地域の未来を担う人材>

観光教育を通じて、多くの人と触れ合い、地域の仕事やその面白さを知ること、市内での就職を希望する学生を増やす。

##### <地域に対する誇り>

地域の価値を再認識し、地域への愛着や誇りの醸成を促進。釜石の魅力を外に伝えていく人を増やす。

##### <生徒の探究心向上>

「地域を学ぶ面白さ」を実感してもらうことで、探究心溢れる人材へ。

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 事業概要

### 事業内容

## 2. 持続可能な観光教育に向けて



方針

①地域事業者を巻き込んだ観光教育推進体制の確立

②学生が主体的に学べる環境整備

③釜石出身でない先生も観光を教えることができる

具体的施策

### 釜石持続可能な観光教育協議会の設立

- 観光教育の持続化に向け、観光教育の在り方を検討する協議会を設立。
- 行政・高校・市内事業者併せて10団体で構成。
- これまで3回の協議会を実施。



岩手県釜石市

### 地域を学ぶフィールドスタディの実践

- 地域の人から、仕事やこれまでの経験を学ぶことで、釜石を改めて理解することを目的として、実際に訪問するフィールドスタディを実施。
- 発表の場を設けることで、観光教育のゴールを明確化。



### 理解促進につながる教材の制作

- 「観光ビジネス」の教科書で学んだことを、釜石に置き換え、地域の理解につながる副読本の制作
- 学生だけでなく、新たに赴任した先生も、釜石の観光について理解を深められる動画教材を制作



Copyright © Kamaishi DMC Ltd. All Rights Reserved.

## 3. 地域を学ぶフィールドスタディ（令和5年度）



受講生

学校名：岩手県立釜石商工高等学校  
受講生：総合情報科 2年生 5名

フィールドスタディの目的

- ✓ 多くの方と触れ合い、釜石の観光資源を知ること
- ✓ マーケティング知識の実際の活用を学ぶ



釜石オープン・フィールド・ミュージアム

地域の文化・自然・施設・住まう人々・生業を「展示物」と見立て、まち全体が「屋根のない博物館」

フィールドスタディの内容（1授業：約50分）

初回オリエンテーション



フィールドスタディ（全6回）



学習成果発表

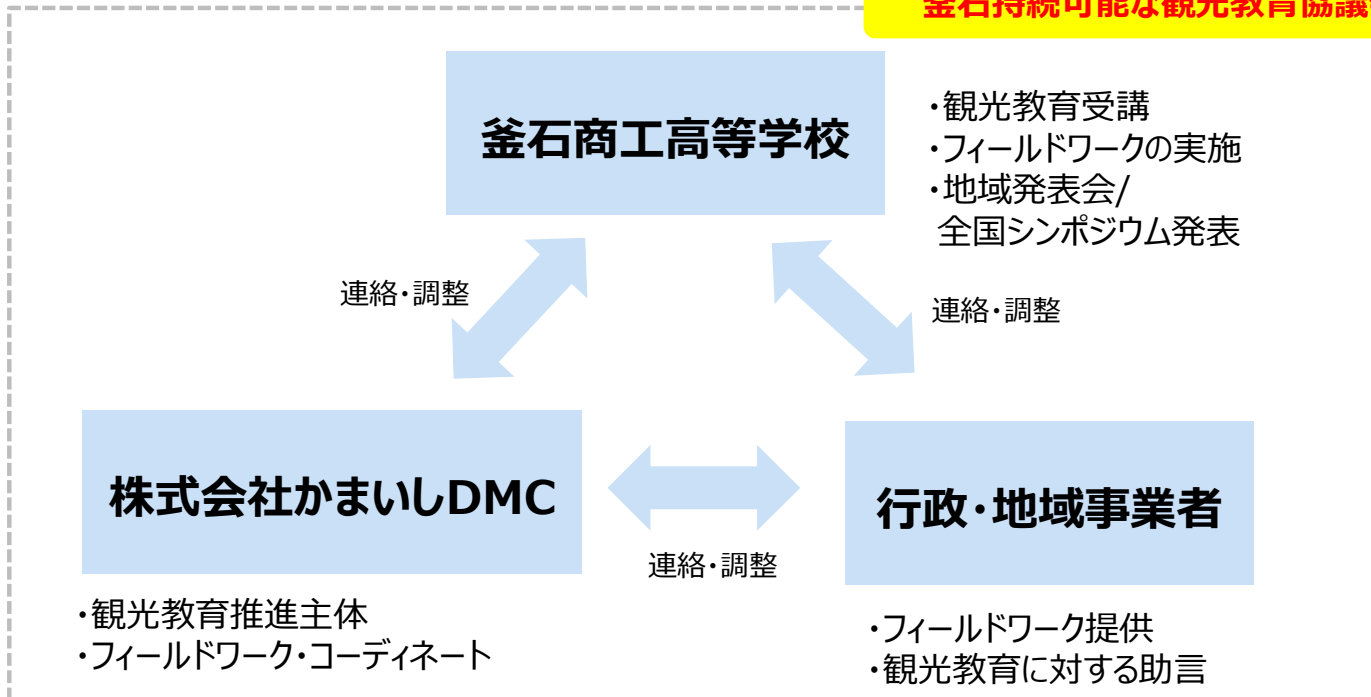


## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 事業概要

### 実施体制

#### 釜石持続可能な観光教育協議会



### 協議会構成員概要

#### ① DMO

団体	役割
(株) かまいしDMC	観光教育推進主体

#### ② 学校

団体	役割
岩手県立釜石商工高等学校	観光ビジネスの実践

#### ③ 地域事業者

団体	役割
釜石市産業振興部商工観光課	観光行政のとりまとめ
釜石市総務企画部総合政策課 オープンシティ推進室	学校コーディネーター配置
釜石観光物産協会	観光案内所の運営および市内観光イベント開催
釜石地方森林組合	グリーンツーリズム担当
釜石シーウェイブスRFC	ラグビーによる観光地域おこしコンテンツ
(有) 中田薬局	高校生のボランティア参加推進
東日本旅客鉄道(株)釜石駅	運輸業、JR釜石線の活用
NPOおはこざき市民会議	漁業者で構成するNPOのブルーツーリズム担当

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 事業概要

### 実施スケジュール

項目	8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
①釜石持続可能な観光教育協議会の設立による、釜石での観光教育持続化に向けた体制構築			8/29 第1回協議会							11/9 第2回協議会								1/29 第3回協議会			
②釜石商工高等学校での「観光ビジネス」授業サポート								① 10/25 オリエンテーション	②11/8	③ 11/20 ④ 11/22 ⑤ 11/27 ⑥ 11/30	⑦ 12/11 まとめ										
③観光教育に係る副読本の制作							副読本 構成案 検討開始			第2回 協議会 にて、 副読本 へのア ドバイ ス			具体的 な文章 作成	掲載写 真検討	掲載 情報 (デー タ)等 検討			構成・ 文章・ 写真最 終調整			制作完 了
④釜石の観光への理解を深める動画制作							構成案 検討			ナレー ション 文章検 討			動画素 材検討					動画 最終 チェック	動画制 作完了		
⑤事業成果発表																		1/29 地域発 表会(釜 石持続 可能な 観光 フォー ラム内)	2/8 全国シ ンポジ ウム		

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 活動報告①

取り組み項目名称	観光教育フィールドワーク①：オリエンテーション
実施日・実施期間	令和5年10月25日（水） 9:00～10:00
参加者	釜石商工高等学校 総合情報科1・2年生（観光教育受講者5名を含む） 講師：株式会社かまいしDMC 代表取締役 河東 英宜 氏
実施内容	釜石が進めている観光（サステナブルツーリズム、オープン・フィールド・ミュージアム釜石）に関する講話
場所	釜石商工高等学校



講話の様子①



講話の様子②



講話の様子③

#### ▶活動実施内容の詳細

株式会社かまいしDMCの河東氏が、釜石が進めるサステナブルツーリズムや、釜石オープン・フィールド・ミュージアムについて、学生に向けた講話を実施した。

（講話内容）

- ・これまでの観光
- ・サステナブルツーリズム
- ・釜石オープン・フィールド・ミュージアム
- ・今後の観光について

#### ▶参加者の感想/学び

- ・これまで釜石の観光について知る機会がなかったので、勉強になった。
- ・釜石は観光で有名でないと思っていたので、いろいろな取り組みをしていることを初めて知った。

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 活動報告②

取り組み項目名称	観光教育フィールドワーク②：「漁業×観光、キャンプ場での観光振興」講話
実施日・実施期間	令和5年11月8日（水） 9:00～10:00
参加者	釜石商工高等学校 観光教育受講者5名、引率教員2名 講師：株式会社かまいしDMC 根浜シーサイド 佐藤 奏子 氏
実施内容	サステナブルツーリズムの実践、漁業の観光活用等に関する講話
場所	根浜シーサイド 根浜レストハウス



キャンプ場案内の様子①



キャンプ場案内の様子②



講話の様子

#### ▶活動実施内容の詳細

根浜シーサイド運営責任者の株式会社かまいしDMC佐藤氏より、環境に配慮したキャンプ場運営や体験プログラムの実施、根浜地域のこれまでとこれからについて講話を実施した。

(講話内容)

- ・根浜キャンプ場について
- ・環境に配慮したキャンプ場運営
- ・根浜地域のこれまで
- ・サステナブルツーリズムの実践について

#### ▶参加者の感想/学び

・震災後に住民の意見をもとに、自然を守るために低い防潮堤を選んだこと、持続可能な観光を目指すために、GSTCの4つの観点（持続可能なマネジメント、環境のサステナビリティ、社会経済のサステナビリティ、文化的サステナビリティ）から見つけた課題を多くの人と話し合い、課題解決に取り組んでいること知った。

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 活動報告③

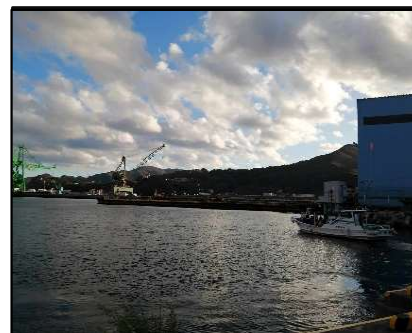
取り組み項目名称	観光教育フィールドワーク③：釜石湾漁船クルーズ
実施日・実施期間	令和5年11月20日（月） 15:00～16:30
参加者	釜石商工高等学校 観光教育受講者5名、引率教員2名 ガイド：佐々木 剛 氏（漁師）
実施内容	釜石湾漁船クルーズ
場所	魚河岸テラス集合（釜石湾へ出航）



漁船クルーズの様子①



漁船クルーズの様子②



漁船クルーズの様子③

#### ▶活動実施内容の詳細

サステナブルツーリズム体験プログラムとして、人気プログラムのひとつである「釜石湾漁船クルーズ」を体験した。地元漁師から、釜石の漁業の話を聞きながら、海から見る釜石の自然を体感し、改めて釜石の魅力について考えた。

#### ▶参加者の感想/学び

漁師の佐々木氏が操縦する漁船に乗せていただき、釜石湾の説明を聞きながら普段は行けないところを見て回った。ギネスに認定された世界で一番深い防波堤や、復興支援で大阪府から寄付されたコンテナの荷役に使用するガントリークレーンという装置、釜石のシンボルである釜石大観音、地元の漁師さんたちがお祭りする神社や石像なども間近で見て、釜石湾の自然豊かな部分と工業港の性質の両面を知ることができた。

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 活動報告④

取り組み項目名称	観光教育フィールドワーク④：森林組合の取り組みに関する講話
実施日・実施期間	令和5年11月22日（水） 9:00～10:00
参加者	釜石商工高等学校 観光教育受講者5名、引率教員2名 講師：釜石地方森林組合 高橋 参事、坂本 氏
実施内容	釜石地方森林組合の林業の未来に向けた取り組み
場所	釜石地方森林組合



釜石地方森林組合



講話の様子①



講話の様子②

#### ▶活動実施内容の詳細

釜石地方森林組合の高橋参事、坂本氏より、普段なかなか知ることができない森林組合の業務や、林業の未来に向けた取り組みについて講話いただき、地域や環境問題に配慮した林業に在り方について学んだ。

#### ▶参加者の感想/学び

- ・楽しく学べるように、クイズ形式で木の種類や地球温暖化について学んだ。
- ・森林組合と森の所有者が協力して森林を保護する取り組みとして、所有者の代わりに森の手入れをしていること、震災をきっかけに事業を諦め解散しようと思っていたところ、「震災後でも続けて欲しい」という被災者家族からの声があり続けることを決意したことなど、森林組合の仕事内容や、林業従事者の想いや熱意を知った。
- ・地球温暖化を防ぎ、海を豊かにするためにも森林環境を守っていくことが大切であるということを知った。



## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 活動報告⑤

取り組み項目名称	観光教育フィールドワーク⑤：漂着物調査プログラム
実施日・実施期間	令和5年11月27日（月） 10:00～12:00
参加者	釜石商工高等学校 観光教育受講者5名、引率教員2名 講師：株式会社かまいしDMC 根浜シーサイド 佐藤 奏子 氏
実施内容	漂着物調査プログラム
場所	根浜海岸



オリエンテーションの様子



漂着物採集の様子



漂着物分類の様子

#### ▶活動実施内容の詳細

東京大学大気海洋研究所大槌センターと連携して、かまいしDMCが毎月実施している漂着物調査プログラムを（海洋環境の変化を考えるプログラム）実施した。

#### ▶参加者の感想/学び

- ・漂着物調査を行う前に、漂着物には自然物と人工物の二つの種類に分けられることを知った。
- ・実際に漂着物を種類ごとに分けて拾っていくと、自然物の中ではアマモ・貝殻・鳥の羽・木などが多くあった。人工物では、マイクロプラスチック・発泡スチロール・ビニール・人の手加えられている木材、漁業で使われる網などが多くあった。
- ・実際に漂着物を分類してみると自然物のほうが圧倒的に多いという意外な結果になった。海洋汚染が問題になっているが、釜石の海はまだきれいだと感じる一方、もっときれいに自然を守っていかなければならないと思う。

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 活動報告⑥

取り組み項目名称	観光教育フィールドワーク⑥：畜養ウニ剥き体験
実施日・実施期間	令和5年11月30日（木） 13:00～15:00
参加者	釜石商工高等学校 観光教育受講者5名、引率教員2名 講師：唐丹町漁業協同組合 千葉 参事、地域おこし協力隊 清原 氏
実施内容	ウニの畜養に関する講話、畜養ウニ剥きプログラム
場所	唐丹湾（小白浜漁港）、根浜キャンプ場



講話の様子



ウニ剥きの様子①



ウニ剥きの様子②

#### ▶活動実施内容の詳細

「磯焼け」という漁業の課題に対して、釜石が近年取り組んでいる「ウニの畜養」をテーマとしたプログラムを受講した。唐丹漁協の千葉参事からウニの畜養の課題や現状、取り組みについて講話をいただき、その後根浜キャンプ場に移動して、ウニ剥きを体験した。環境の変化が漁業に与える影響を学んだ。

#### ▶参加者の感想/学び

ウニ剥きプログラムを体験したなかで、実際に手に取り剥いてみると磯焼けの影響や食べごろの季節から外れていることもあり中身はあまり入っていなかった。しかし、ウニ剥きは初めてで、なかなかできる体験ではないので面白かった。

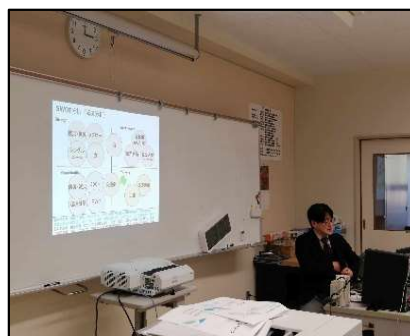
## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 活動報告⑦

取り組み項目名称	観光教育フィールドワーク⑦：フィールドワークまとめ
実施日・実施期間	令和5年12月11日（水） 14:40～15:30
参加者	釜石商工高等学校 観光教育受講者4名、引率教員1名 講師：株式会社かまいしDMC 代表取締役 河東 英宜 氏、大杉 尚也 氏
実施内容	フィールドワークまとめ、釜石の観光SWOT分析、発表会に向けた課題
場所	釜石商工高等学校



説明の様子①



説明の様子②

#### ▶活動実施内容の詳細

これまでのオリエンテーションを含めた6回の活動を、地域発表会及び全国シンポジウムにて発表することを説明。また、参考として、釜石のSWOT分析について説明したうえで、生徒の自由な発想でSWOT分析を行い、釜石の観光に必要なことを考えてもらう課題を与え、検討した。

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 活動報告⑧

取り組み項目名称	釜石持続可能な観光教育協議会
実施日・実施期間	①第1回協議会：令和5年8月29日（火）10：00～11：00 ②第2回協議会：令和5年11月9日（木）10：00～11：00 ③第3回協議会：令和6年1月29日（月）14：30～16：00 （釜石持続可能な観光フォーラム内で開催）
参加者	①第1回協議会：協議会メンバー ②第2回協議会：協議会メンバー ③第3回協議会：協議会メンバー、市民、DMO（約60名）
実施内容	釜石持続可能な観光教育協議会の開催
場所	①第1回協議会：釜石PIT ②第2回協議会：釜石情報交流センター ③第3回協議会：釜石PIT



第1回協議会の様子



第2回協議会の様子



第3回協議会の様子

#### ▶活動実施内容の詳細

協議会では、観光教育の方向性や今年度の取り組みについてメンバー間で協議するほか、釜石が進める観光を共有した。

##### 第1回協議会

- ①釜石の観光教育の共通認識（釜石の観光の現状の取り組み紹介）
- ②釜石の観光教育の目的と方向性の相互共有・理解
- ③観光教育の推進に向けた効果的な取り組みの検討
- ④今後のスケジュール

##### 第2回協議会

- ①釜石商工高等学校での観光教育の実施状況
- ②観光教育副読本案の共有・協議

##### 第3回協議会

- ①釜石商工高等学校生徒による取り組み内容の発表

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### ▶活動実施結果

協議会の設立・開催、観光教育フィールドワークのほかに、生徒が観光をより深く学ぶための教材として、観光動画および副読本を制作した。これらは、以下を目的として制作。

#### (1) 釜石の観光への理解を深める動画制作

釜石の観光資源について、学生及び先生、そして地域の観光関連事業者が学べる動画を制作。観光資源とは、景勝地・観光スポットだけでなく、「地域の人」もまさに重要な観光資源であり、釜石の観光を視覚的に学び、理解を深められる動画を制作。新任の先生が、釜石の出身者であるケースは少なく、観光ビジネスを教える先生の理解促進を目的として制作。

#### (2) 観光教育に係る副読本の制作

「観光ビジネスの教科書に記載されている概念が、自分の地域では何に当たるのか」「自分の地域は、どのような観光を推進しており、他と何が違うのか」など、具体的な観光ビジネスを学生に学んでもらうため、「釜石の観光」をテーマとした副読本を制作。



【教材動画】『釜石オープン・フィールド・ミュージアム～サステナブル・ツーリズムの推進～』（高等学校「観光ビジネス」副教材動画/かまいしDMC）

項目	副読本	教科書	学習活動	備考
1. 観光の意義	観光の意義と役割	観光の意義と役割	観光の意義と役割を理解する	
2. 観光資源	観光資源の種類と特徴	観光資源の種類と特徴	観光資源の種類と特徴を理解する	
3. 観光客の行動	観光客の行動パターン	観光客の行動パターン	観光客の行動パターンを理解する	
4. 観光産業	観光産業の構造と特徴	観光産業の構造と特徴	観光産業の構造と特徴を理解する	
5. 観光政策	観光政策の種類と特徴	観光政策の種類と特徴	観光政策の種類と特徴を理解する	
6. 観光と地域	観光と地域の関係	観光と地域の関係	観光と地域の関係を理解する	
7. 観光と環境	観光と環境の関係	観光と環境の関係	観光と環境の関係を理解する	
8. 観光と文化	観光と文化の関係	観光と文化の関係	観光と文化の関係を理解する	
9. 観光と経済	観光と経済の関係	観光と経済の関係	観光と経済の関係を理解する	
10. 観光と社会	観光と社会の関係	観光と社会の関係	観光と社会の関係を理解する	

### ▶次回以降の課題等

#### (1) 観光動画

学生だけでなく、新たに赴任した先生にも、釜石の観光について理解を深められる本動画を視聴し、釜石の観光の全体像を理解してもらうことで、一緒に観光教育を進めていく。

#### (2) 副読本

釜石の観光は日々アップデートしているため、副読本も、アップデートしていく必要がある。このアップデートを生徒と共に行うことで、生徒の学びにもつながる。

### ▶学生・協議会構成員からのコメント

#### 【高校生】

- ・釜石の観光について知る機会がなく、地域について改めて考えるきっかけになった。
- ・森林組合など、普段の生活ではなかなか触れることがなかったので勉強になった。

#### 【協議会メンバー】

- ・観光教育を通じて、地域を知ってもらうことが、地域人材の確保にもつながり、将来釜石を支えていく若い世代の地域に対する愛着の醸成にもつながる良い取り組みである。この取り組みを続けるとともに、取り組み自体を市民に知ってもらうことで、より持続的かつ効果的な観光教育が可能になると考える。

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 事業実施結果

#### ① 全体の成果

### 2. 持続可能な観光教育に向けて



方針

①地域事業者を巻き込んだ観光教育推進体制の確立

②学生が主体的に学べる環境整備

③釜石出身でない先生も観光を教えることができる

具体的施策

#### 釜石持続可能な観光教育協議会の設立

- 観光教育の持続化に向け、観光教育の在り方を検討する協議会を設立。
- 行政・高校・市内事業者併せて10団体で構成。
- これまで3回の協議会を実施。



岩手県釜石市

#### 地域を学ぶフィールドスタディの実践

- 地域の人から、仕事やこれまでの経験を学ぶことで、釜石を改めて理解することを目的として、実際に訪問するフィールドスタディを実施。
- 発表の場を設けることで、観光教育のゴールを明確化。



#### 理解促進につながる教材の制作

- 「観光ビジネス」の教科書で学んだことを、釜石に置き換え、地域の理解につなげる副読本の制作
- 学生だけでなく、新たに赴任した先生も、釜石の観光について理解を深められる動画教材を制作



Copyright © Kamaishi DMC Ltd. All Rights Reserved.

本事業では、以下の取り組みを実施した。

- ①地域事業者を巻き込んだ観光教育推進体制の確立のため、「釜石持続可能な観光教育協議会の設立」
- ②学生が主体的に学べる環境整備として、「地域を学ぶフィールドスタディの実践」
- ③釜石出身でない先生も観光を教えることができるように、理解促進につながる教材を制作。

釜石持続可能な観光教育協議会の設立によって、釜石の観光教育の目的・方針を地域事業者を含めて、議論・検討できたほか、釜石の観光についても共有を図ることができた。これからの地域の未来を担う学生に地域を知ってもらい、地域の良さをさらに引き出してもらうため、地域事業者もさらなる連携を図っていきたい。

今年度はオリエンテーションも含め、7回のフィールドスタディを実施した。学生にとってどのプログラムも新鮮で、釜石ならではの観光（サステナブルツーリズム）を知る機会を提供した。通常の観光とは異なり、「学び」を中心としたプログラムであったものの、学生は楽しみながら地域を知ることができたと感じる。

学生及び先生に対する理解促進ツールである動画および副読本についても、本事業では制作にとどまったため、次年度以降はこれらを活用して、より深い学びを提供していきたい。

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 事業実施結果

#### ② 産官学の連携について

本事業で設立した「釜石持続可能な観光教育協議会」は、以下のメンバーで構成される。

	団体	役割
1	岩手県立釜石商工高等学校	観光ビジネスの実践
2	釜石市産業振興部商工観光課	観光行政のとりまとめ
3	釜石市総務企画部総合政策課オープンシティ推進室	学校コーディネーター配置
4	釜石観光物産協会	観光案内所の運営および市内観光イベント開催
5	釜石地方森林組合	グリーンツーリズム担当
6	釜石シーウェイブスRFC	ラグビーによる観光地域おこしコンテンツ
7	(有) 中田薬局	高校生のボランティア参加推進
8	東日本旅客鉄道(株)釜石駅	運輸業、JR釜石線の活用
9	NPOおはこぎき市民会議	漁業者で構成するNPOのブルーツーリズム担当
10	(株)かまいしDMC	観光教育推進主体

この協議会では、行政・民間事業者・学校が参画しており、協議会にて観光教育の方向性や目的について意見をいただいたほか、今年度学生に実施したフィールドワークでは、協議会メンバーにも参加いただき、現地での講話等のご協力をいただいた。

行政、民間事業者、学校が密に連携することで、今後も、釜石の観光教育を持続的に実施していく。

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 事業実施結果

#### ③ 地域で観光教育を進める上で課題となることは何か

地域で持続的に観光教育を進めるうえでの課題は、以下の2つが挙げられる。

##### (1) 生徒の自主性を伸ばす仕組みづくり

今年度の観光教育では、地域を学ぶフィールドスタディの実践として、学生がフィールドスタディにて体験プログラムを受講し、発表するという形式をとった。地域発表会および全国シンポジウムでの発表を目標として設定しており、学生はこれらの発表に向けて真摯に取り組んでいたため、改めて目標設定の重要性を認識した。

観光教育をより効果的にするためには、学生の主体性を伸ばす必要があり、自ら地域に触れるような目標設定が必要と考える。

例えば、地域事業者と連携し、商品販売でのイベントの出店や、イベントでの観光に関する発表、体験プログラムの造成・ガイド、観光プロモーションの実施等が挙げられる。観光教育の高度化は、若い世代の地域への愛着醸成にも寄与する。

##### (2) 学校・行政・地域事業者・観光教育推進主体の連携

観光教育の目的は、観光を通じて地域を知ってもらい、魅力を感じ、最終的には地域に対する愛着を持ってもらうことである。

地域を伝えることは、観光産業だけでなく、一次産業や様々な業種の事業者を知ることでもあるため、観光教育の目的を達成するためには、観光教育推進主体を軸として、行政および地域事業者の協力・連携が不可欠である。



## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 事業実施結果

#### ④ 持続的に取り組むために求められることは何か

持続的に観光教育に取り組むために必要なことは、「観光教育推進主体をハブとした、学校・地域事業者との連携」構築であるとする。

観光教育の目的は、学生に地域を知ってもらい、愛着を持ってもらうことで、地域を担う人材の確保につなげていくことである。

本事業でも、様々な事業者の協力の元、普段の生活では関わる機会が少ない業種の方から、講話やプログラムを提供いただき、学生にとって貴重な経験となった。このようなフィールドワークを充実させ、学生により深い学びを提供するためには、地域事業者の協力・連携は不可欠である。

それゆえ、地域事業者と連携したプログラムをコーディネートする推進主体（本事業では、かまいしDMCが担当）がハブとなって、学校と地域事業者をつなげ、学生に興味を持ってもらえるプログラムを提供していくことで、学生の地域への愛着醸成を図っていく。

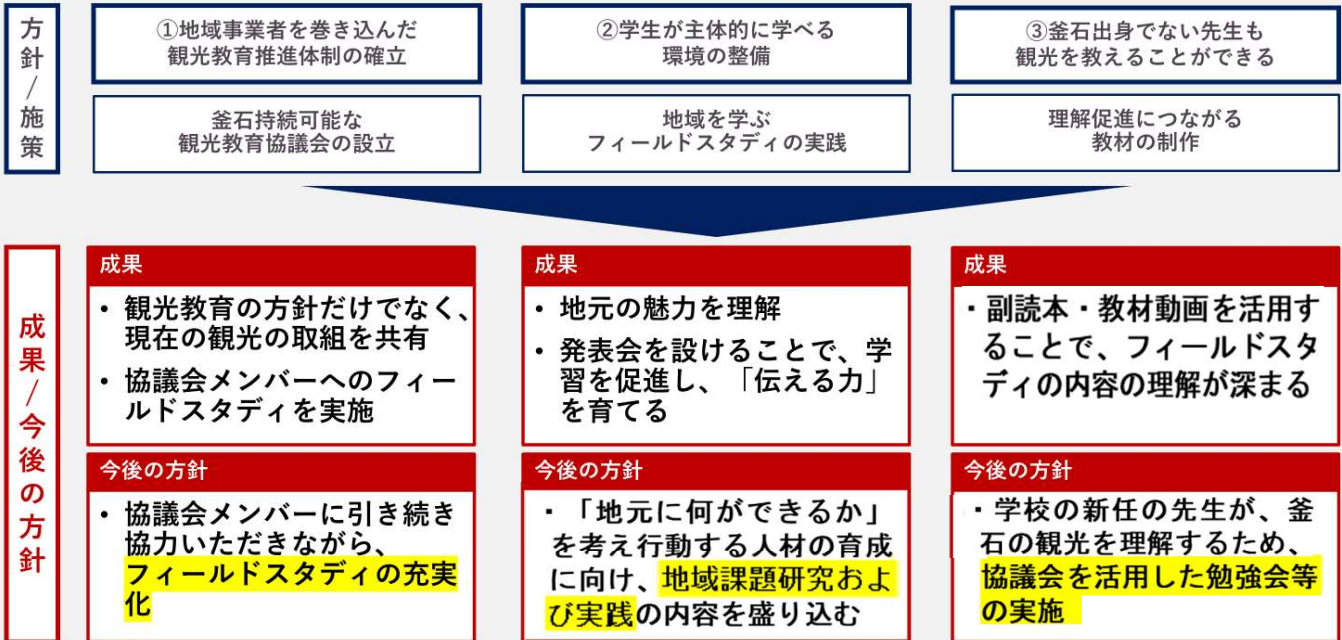


## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 事業実施結果

#### ⑤ 本事業を通じて得られた効果や、事業前と事業後の変化

### 4. 今後の観光教育の推進について



岩手県釜石市

Copyright © Kamaishi DMC Ltd. All Rights Reserved.

#### 本事業を得られた効果は、以下が挙げられる。

- ・行政および地域事業者と、観光教育の方針だけでなく、現在の観光の取り組みを共有することができた。
- ・釜石持続可能な観光教育協議会の開催や、観光教育フィールドワークにより、協議会メンバーとの連携体制を強化することができた。
- ・観光教育フィールドワークを通じて、学生にとって、普段の生活では触れることができなかった「人」と関わりを持つことができ、地元の魅力を改めて理解することができた。
- ・地域発表会および全国シンポジウムを開催することによって、学生の学習を促進し、「伝える力」を育てることができた。
- ・観光教育教材として、動画や副読本を制作することで、次年度以降のフィールドスタディの理解促進につなげられる環境を整備できた。

## (2) 観光教育の取り組み 2. 釜石地域

### 事業実施結果

### 次年度の取り組みに向けた課題や取り組んでみたい事業内容



#### 4. 今後の観光教育の推進について

方針 / 施策	①地域事業者を巻き込んだ 観光教育推進体制の確立	②学生が主体的に学べる 環境の整備	③釜石出身でない先生も 観光を教えることができる
	釜石持続可能な 観光教育協議会の設立	地域を学ぶ フィールドスタディの実践	理解促進につながる 教材の制作

成果 / 今後の方針	<b>成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光教育の方針だけでなく、現在の観光の取組を共有</li> <li>協議会メンバーへのフィールドスタディを実施</li> </ul>	<b>成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地元の魅力を理解</li> <li>発表会を設けることで、学習を促進し、「伝える力」を育てる</li> </ul>	<b>成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>副読本・教材動画を活用することで、フィールドスタディの内容の理解が深まる</li> </ul>
	<b>今後の方針</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>協議会メンバーに引き続き協力いただきながら、<b>フィールドスタディの充実化</b></li> </ul>	<b>今後の方針</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地元になにができるか」を考え行動する人材の育成に向け、<b>地域課題研究および実践</b>の内容を盛り込む</li> </ul>	<b>今後の方針</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の新任の先生が、釜石の観光を理解するため、<b>協議会を活用した勉強会等の実施</b></li> </ul>

岩手県釜石市

Copyright © Kamaishi DMC Ltd. All Rights Reserved.

次年度計画は、以下を予定している。

#### ①フィールドスタディの充実

今年度は、オリエンテーションを含め、7回のフィールドスタディを実施した。海、林業、環境など観光だけでなく様々なテーマを扱った。次年度も観光という枠を取り外し、地域を知り、これからの地域を考えるきっかけとなるテーマのフィールドスタディを実施していく。

例えば、外来種の活用や公害といった環境課題、水産加工や漁業・林業といった産業、さらに、防災や伝統といった釜石の様々な取り組みを考えるテーマを取り扱う。

#### ②地域課題探究および実践

今年度は、学生がフィールドスタディにて体験プログラムを受講し、発表するという形式をとった。次年度以降は、生徒が主体性をもって取り組めるように、授業のゴールを明確にし、それに対し、取り組めるよう工夫する。

例えば、地域事業者と連携し、商品販売でのイベントの出店や、イベントでの観光に関する発表、体験プログラムの造成・ガイド、観光プロモーションの実施等を予定している。

#### ③協議会を活用した勉強会等の実施

学校の先生は異動があるため、新しく赴任した先生は必ずしも釜石出身とは限らない。そのため、観光教育動画や副読本を活用するほか、協議会開催に合わせた勉強会を実施することによって、先生が観光を知る機会を創出する。

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 事業概要

事業を実施する 市区町村	静岡県島田市
実施主体	一般社団法人 島田市観光協会、島田市観光課、静岡県立島田商業高等学校
協議会構成員	・観光協会：一般社団法人 島田市観光協会 ・地方公共団体：島田市観光課 ・学校：静岡県立島田商業高等学校

### 事業目的

第2次安倍内閣によって開始された地方創生には、観光資源の活用も重要な取り組みとして位置づけられている。島田市は自然豊かで、古くからの伝統が受け継がれている地域もあり、様々な魅力を持つ地域がある。しかし、少子高齢化・人口減少が進み、知名度も高くない。そんな地方都市が今後も存続するためには、地域の独自の魅力を掘り起こし、内外の人に発信する「地域ブランディング」が重要になると考える。そこで、将来を担う高校生が、持続可能な地方創生活動を行うために、

- I：伝統芸能の継承、イベントの継続実施に向けた地域と高校生の協働する機会の創出
- II：高校生の発想を採用した島田ならではの銘産・オリジナル商品・体験メニューの開発
- III：「同世代が考える島田を味わう体験・食事を盛り込んだ修学旅行プラン」の実現可能性の調査

を地域と連携して行い、地域で活躍する人材の育成を目標として取り組んだ。

近年少子高齢化による影響は、企業だけでなく「島田大祭」や「金谷茶まつり」などの伝統芸能にも影響していることから、地方創生「まちづくりの前のまち残し」の活動として、高校生によるイベントや祭典の、企画・運営段階からの関わりを重要視している。

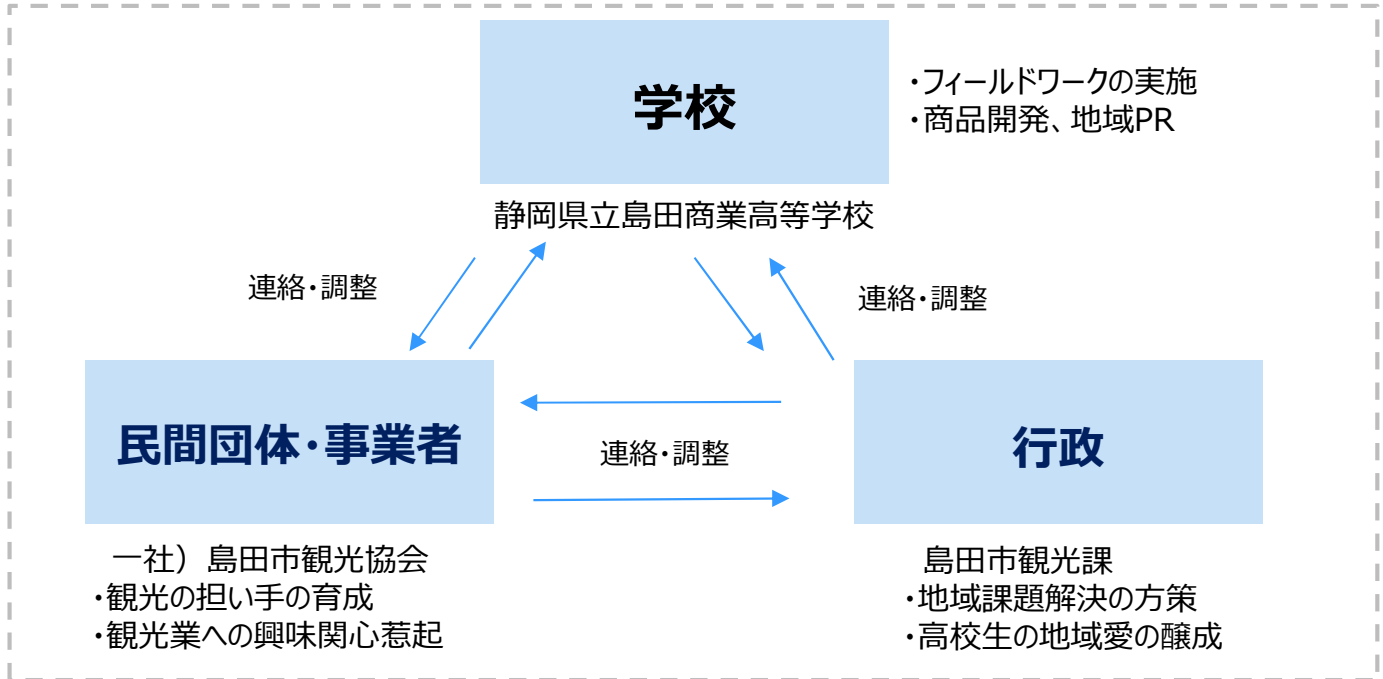
歴史ある蓬莱橋を後世に残すため、蓬莱橋の魅力を紹介するイベントを定期的実施するとともに、点在している観光地や商店街を周遊できる観光プランを策定し、島田市の滞在時間の延長や再訪を促すプランが必要と考える。そのため、モデルコースの作成や観光地・商店街マップを作成し、滞在時間の延長や再訪を促す。イベントの告知については、ポスター・チラシの作成と合わせ、学校や公共施設への送付、近隣市町村への配布、主要駅でのビラ配り、静岡空港から発着している九州・四国・北海道の空港のある都市を訪問し、観光協会や旅行会社、教育委員会を訪問し、島田の魅力を発信し、反応によるニーズの調査を行い、遠足や修学旅行プランの作成に反映させる。

以上により、生徒の知識向上や郷土愛を育み、10年後の種まきに向けた地方創生として、「まちづくりの前のまち残し」の活動を行い、高校生による活動を重要視している。

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 事業概要 島田市観光教育推進協議会について

#### 実施体制



#### 協議会構成員概要

①	(一社) 島田市観光協会
運営方針・観光の担い手の育成に向け	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と一体となった観光地経営</li> <li>・地域の伝統あるイベントの継承、運営支援</li> </ul>	
②	島田市観光課
総合計画、観光戦略プラン他	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題の克服</li> <li>・観光戦略プランに基づく、地域一体となった観光の振興</li> <li>・観光地域づくり法人の体制強化</li> <li>・シティプロモーション</li> </ul>	
③	静岡県立島田商業高等学校
校訓、教育方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動を通じて、地域社会で活躍できる生徒の育成</li> <li>・地域の自治体・産業界等と連携し、体験的・実践的な学習活動を実施</li> </ul>	

#### - 共通ミッション -

- ・地域課題解決のために、
  - ・地域づくりのために、
  - ・人材育成のために、
  - ・地域活性化のために、
  - ・観光地経営のために、
- 地域が一体となって  
取り組む**

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 事業概要

### 事業内容

I : 伝統芸能の継承、イベントの継続実施に向けた地域と高校生の協働する機会の創出  
II : 高校生の発想を採用した島田ならではの銘産・オリジナル商品・体験メニューの開発  
III : 「同世代が考える島田を味わう体験・食事を盛り込んだ修学旅行プラン」の実現可能性の調査  
これらを地域と連携して実施し、地域で活躍する人材を育成する。

そのため、地域独自の魅力を掘り起こし、内外の人に発信する「地域ブランディング」が重要となるため、地域と学校が連携し、将来を担う高校生が、持続可能な地方創生活動に取り組んだ。



[課題研究「地域経済観光」]

### 本事業の狙い

#### 一社) 島田市 観光協会

観光の担い手の育成に向け、地域と一体となった観光地経営や地域の伝統あるイベントの継承、運営支援に取り組むため、若き観光の担い手の育成を目指す。

今後も継続して取り組むため、高校生の自由な発想や着眼点を具現化し、地域事業者等と連携した取り組みを行うことで、観光業への興味関心惹起を図る。

#### 島田市

総合計画や観光戦略プラン等に基づき、地域課題の克服や観光戦略プランに基づく地域一体となった観光の振興を目指す。

観光地域づくり法人の体制強化やシティプロモーション活動により、高校生の地域愛の醸成を行う。そのためには、地域事業者等と連携した取り組みを行い、将来の観光人材の育成を行う。

#### 島田商業 高等学校

校訓や教育方針にも続き、教育活動を通じて、地域社会で活躍できる生徒の育成を図る。そのために、地域の自治体・産業界等と連携し、体験的・実践的な学習活動を実施。

生徒のアイデアを実現させられる体制や、様々な地域との事業連携における受け皿となる体制を確立。

# (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

## 事業概要

### 静岡県立島田商業高等学校

#### 1 スクール・ミッション

志太・榛原地区の商業教育の拠点校として、身近な課題を発見し、解決に向けて主体的にチャレンジする教育活動を通して、地域社会で活躍できる生徒の育成を目指す。

#### 2 目指す学校像

##### (1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
商業の専門高校として「身近な課題を発見し、解決に向けて主体的にチャレンジすることで、地域社会で活躍する生徒」を育成します。 (1) ビジネスマナーを習得し、社会のルールや人との約束を守る規律性、他者と円滑な人間関係を築き、課題解決に向けて協調して取り組むことができるコミュニケーション能力を育成します。 (2) 商業に関する専門性を深め、身に付けた知識・技術を活用しながら、それを地域や社会に応用・実践できる能力と態度を育成します。 (3) より良い地域社会の構築を目指して主体的に学び、部活動、特別活動、商業教育、キャリア教育を通して豊かな人間性を育成します。	基礎学力の定着を図るとともに、専門教科の協働的で実践的な学びを通して、これからのビジネス社会に必要な力を育成します。 (1) 基礎学力の定着を図り、商業の専門性を進化させ、生徒の適正・特性に応じた進路実現に応じた教育課程を実現します。 (2) 地域の産業界や各機関と連携し、体験的・実践的な学習活動を実施します。 (3) ICT等の学習環境・指導体制を整備し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を実施します。 (4) 部活動・特別活動・課題研究・キャリア教育を通じて、豊かな心と健やかな体を育成する教育活動を実施します。	本校では、入学時に次のような生徒を求めます。 (1) 自分自身の存在を肯定し、途中であきらめず、失敗を恐れず自分で考え、行動しようとする生徒。 (2) 身近な課題に主体的にチャレンジし、地元で活躍したいと考えている生徒。 (3) 商業（ビジネス）活動に関する興味・関心と意欲を持ち、粘り強く資格取得を目指し、自分の夢に向かって邁進できる生徒。 (4) 生徒会や部活動、地域ボランティア活動などに積極的に取り組み、学校生活を活気あふれる有意義なものにしていきたいと考えている生徒。

生徒人数

1年生

150名

2年生

185名

3年生

総合ビジネス科

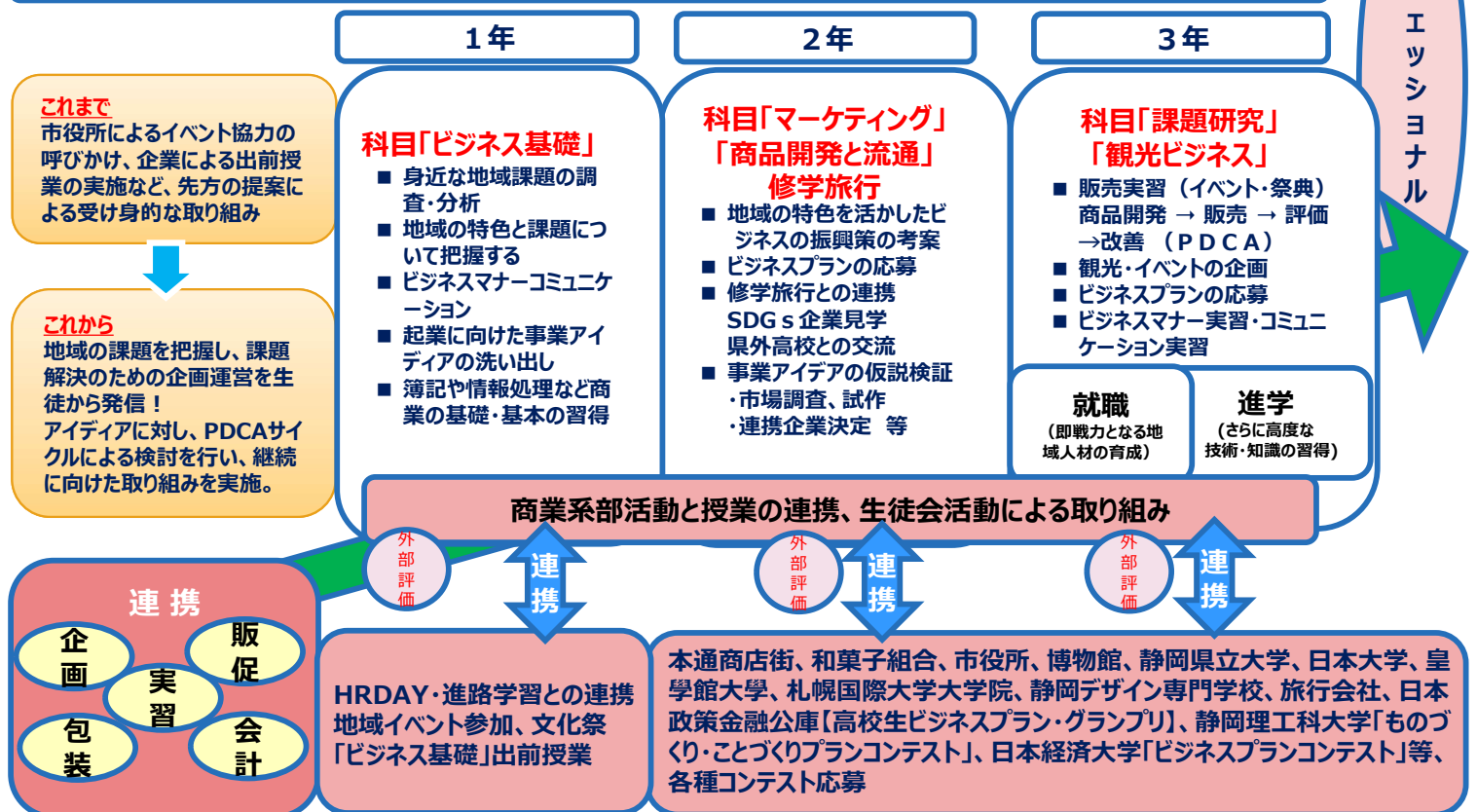
141名

情報ビジネス科

35名

## 産業界との連携進化

研究テーマ：住み続けたい街の創出（地域の課題を見つめ、高校生が自ら解決する）



## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 事業概要

### 実施スケジュール

項目	令和5年															令和6年					
	8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
島田地区協議会 地域団体との 打ち合わせ	3日					27日	3日	19日	21日	2日	16日					13日	31日	7・8日	20日		
	市役所					静岡 空港	第2回 協議会	3校 協議	実学 発表	打合せ	第3回 協議会					TGC 紹介	地区 発表 おあるり	全国 発表会	まとめ会議 宍戸教授		
「課題研究」 調査研究・講師招請 フィールドワークの 実施	11日			7日	14日	21日	12日	12日 19日	29日	3~5・ 9日	16日	26日	1日	5日 7・8日		18日	31日	7・8日			
	岡山 受入			講師	里山 見学	竹 細工	竹玩具製作	奉仕 作業	竹あかり お茶淹れ 方	第3回協議会	地域研究 校外学習	伝統芸能			課題 研究 発表会	地区 発表 おあるり	全国 発表会				
1年生 「ビジネス基礎」 「地元企業と語る会」	11日			4日		29日 30日						21日 22日	1日	冬課題	週2回					5日	
	夏 まつり			企業 講話		文化祭					起業家教育	地域 研究	地域 MAP	ブランディング						地元企業と語る会 (3月13日に延期)	
2年生 「マーケティング」 「商品開発と流通」	11日		26日			29日 30日						21日	1日								
	夏 まつり		名産 大学			文化祭					起業家 教育			観光地経営							
3年生 「課題研究」	11日		26日	7日	14日	21日 30日	5日	12日 19日		3~5 6日	16日	22日	4日							1・6日	
	岡山 受入		名産 大学		里山 見学	文化祭				イベント 実施・評価		起業家 教育	班発表								練習
3年生 「広告と販売促進」			26日					17日 19日				21日		16 17日				29日	7・8日	17日	
			名産 大学		広報	広報		ツアー企画				起業家 教育	岡山 訪問					視察	発表 東京	コンテスト 特別賞	
長期休業中における 県外視察、PRの実 施、 モニタリング	11日								22日			24日		16 17日						7・8日	18日
	岡山 受入								大阪			起業家 教育	岡山 訪問						発表 in東京	コンテスト	
仮説検証			21日						21~ 22日	6日		25日		16 17日				29日		19日	
			ヒヤリング						実学 発表	イベント 検証		起業家 教育	岡山 訪問					視察		コンテスト	
商業系部活動 地域ボランティア	1・ 11日	19 20日	21日			29日 30日		22日	28~ 30日					16日 17日							17日
	夏 まつり	SBP 発表	旅行社 訪問			文化祭		大阪 販売会	県外 視察					岡山 訪問							コンテスト 特別賞



## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告 I - ①

取り組み項目名称	I 伝統芸能の継承、イベントの継続実施に向けた地域と高校生のかかわり 「岡山県笠岡市 白石島に800年続く 白石踊継承に向けた高校生との交流」		
実施日・実施期間	令和5年8月11日（金） 島田地区開催		
参加者	地方創生SHIMASHOチーム（課題研究・珠算部） 島田市観光課・一社）島田市観光協会・島田大祭実行委員会		
実施内容	岡山県笠岡市で白石踊継承に取り組む高校生を島田市に招き、相互の取り組みを紹介し、高校生同士が交流した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・島田市フィールドワーク（蓬莱橋・川越遺跡・大井神社） 3時間</li> <li>・伝統芸能の取り組み紹介（島田地区と笠岡地区相互発表） 1時間</li> <li>・島田市緑茶 化縁日の見学・体験 1時間</li> </ul>		
場所	蓬莱橋・川越遺跡・KADODE OOIGAWA		



フィールドワークの様子  
(川越遺跡)



伝統芸能の紹介の様子  
(島田大祭について)



緑茶化縁日の見学  
(KADODEOOIGAWA)

#### ▶活動実施内容の詳細

岡山県白石島で800年続く「白石踊」の継承に取り組む高校生との交流を実施。お互いの伝統芸能の取り組みを紹介するほか、初めて島田市を訪れた岡山県のみなさんとフィールドワークを行い、蓬莱橋や川越し遺跡、KADODE OOIGAWAなど、島田市の名所・旧跡を案内した。

KADODE OOIGAWAでは、島田商業高等学校の生徒が観光協会と連携し企画・運営を行った「KADODE夏祭り」を案内した。KADODE夏祭りでは、島田市緑茶化計画に因み、島田市の名所旧跡をちりばめた大井川スマートボールや蓬莱橋射的など、緑茶化縁日を見学してもらい、島田商業高等学校の生徒と観光協会が一緒に取り組むプロジェクトについてPRを行った。

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告 I - ①

#### ▶活動実施結果

#### ○伝統芸能の継承について、岡山県笠岡市高校生との交流

8月11日に岡山県の「白石踊800年の伝統を受け継ぐ会」の高校生・大学生が島田市を訪問し、本校生徒や地元の方々及び行政の皆様と交流し、少子高齢化の影響や後継者不足により、全国各地にある伝統芸能の継承が厳しい状況の中で、地域振興の施策や高校生の地域と密着した活動の情報交換を行った。

本校の珠算部及び地方創生SHIMASHO（3年課題研究）の生徒が、訪問受け入れに向けて「蓬莱橋」「川越遺跡」「大井神社」についてあらためて調べ理解を深める機会となった。また、川越遺跡「仲間の宿」では島田市大祭保存会の皆さんによる「島田大祭の歴史や継承に向けた取り組み」と「白石踊の歴史や継承活動」について触れることができた。

さらに、茶処「島田市」を訪問していただいていることから、市役所観光課より島田のお茶や「島田市緑茶化計画」について学びを深めた。

#### ○島田市緑茶化縁日の見学・体験

8月11～12日にKADODE OOIGAWAにおいて開催される「カドデの夏祭り」&「お化け屋敷」に向け、島田市観光協会と島田商業高等学校の生徒（夏まつり実行委員会ボランティアメンバー60人）が連携し、当日に向け、チケットの作成やお化け屋敷の準備を行った。

岡山の高校生や引率者が、観光名所である蓬莱橋を模した射的や実際のお寺を会場としたお化け屋敷の開催について興味・関心をもったことから、地域PRには有効であることが分かった。

なお、12月には島田商業高校生徒が岡山へ赴き、訪問してくれた高校生との交流をはじめ、白石踊会や観光協会との交流も行った。

- 日時：令和5年12月16～17日 笠岡地区開催  
参加者：地方創生SHIMASHOチーム（課題研究・珠算部）  
内容：  
・倉敷翠松高校訪問及びおかやま山陽高校訪問（各校の取り組み紹介） 5時間  
・白石踊会 定期練習、笠岡市観光協会訪問、倉敷美観地区視察 6時間  
（視察先：倉敷翠松高校及びおかやま山陽高校、笠岡市民会館、笠岡市観光協会、美観地区）



白石踊り講習会の様子  
（笠岡市民会館）

#### ▶生徒コメント

・私たち、島田商業高等学校の生徒による、フィールドワークや縁日などに参加してもらい、島田の魅力を伝えることができたほか、自分たちも改めて島田の名所・旧跡や祭典について考える機会となった。

また、12月に訪問した倉敷翠松高校では、白石踊と抹茶について学ぶことができたほか、私達も実際にお茶を淹れ、島田市のお茶について説明することができた。おかやま山陽高校では、プレゼンテーションを聞き、プレゼン方法に感銘を受けた。特に、食品ロスの取り組みについては、紙芝居を作り小さい子どもでも楽しく学べる工夫がされており、私達はまだまだ改善していかなければと実感した。

・白石踊会との交流では、実際に踊りを体験した。簡単そうに見えたが、右と左を間違えてしまった。しかし、優しく教えていただき最後まで楽しく踊ることができた。

ただ、参加者は高齢者が多く、倉敷翠松高校の生徒もいたが、若者の参加者は少なかった。「白石踊」という今までに体験したことない伝統芸能に触れた機会を、今後の地方創生の活動に繋げたい。今回の訪問により、他の県でも自分たちと同じような活動をしていることがわかり、課題や改善策を共有することでこれからのつながることができると思った。

※笠岡市のホームページに12月16日定期練習会での様子が掲載された。（次項参照）

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告 I - ①

#### 笠岡市ホームページの掲載内容（抜粋）

##### 白石踊会笠岡支部 定期練習会

###### 1. 定期練習会

令和5年12月16日（土）に練習会がありました。この日は笠岡中央公民館が使えなかったため、笠岡市民会館の舞台を使用しました。公演の際にはこの舞台で白石踊を踊りますが、練習で舞台に上がるのは初めてです。何となく晴れやかな気持ちで練習できました。

この日は静岡県島田市から島田商業高校の生徒が、笠岡市に来られました。最初に舞台でご挨拶をいただきました。島田市には江戸時代から続く島田大祭という伝統行事があり、今回は源平水島合戦以来の伝統を持つ白石踊の継承の様子を学ぶことや実際に白石踊を踊れるようになることを来訪の目的に挙げておられました。

島田市は緑茶生産が盛んだそうです。参加者全員にお茶を配っていただきました。家に帰って飲んだところ、とてもコクのある美味しいお茶でした。

今年の最後の練習会でしたが、広いステージで楽しく踊ることができました。

皆様、良い年をお迎えください。



島田商業高校の皆さん



参照元 : <https://www.city.kasaoka.okayama.jp/uploaded/attachment/45830.pdf>

###### ▶ 協議会構成員からのコメント

地域の異なる高校生同士が、伝統芸能の継承という共通の課題について取り組む内容を、互いに交流しながら話げできたことは貴重な経験になっている。300年以上続く島田大祭の継承について、改めて考える機会となった。

また、KADODE夏まつりでは、真夏の酷暑の中、事前準備、当日対応、片付けまで、来場者に喜んでいただけるようにと、生徒たちは自らも楽しみつつ、一所懸命頑張っていた。このイベントの参加経験が、今後の活動の企画・運営の基礎となっていくと考えられる。

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告 I - ②

取り組み項目名称	I 伝統芸能の継承、イベントの継続実施に向けた地域と高校生のかかわり 「竹あかりプロジェクト Bambooこども縁日」の企画・運営
実施日・実施期間	令和5年11月3～4日「蓬莱橋」(準備期間は8～11月)
参加者	地方創生SHIMASHOチーム(課題研究・珠算部) 竹あかりプロジェクト実行委員会(商工会) 一社) 島田市観光協会、島田市観光課
実施内容	・高校生自らが企画したイベントを実際に催し、市内の小中学生とその父母・祖父母に、竹を使った縁日や昭和の遊びを提供し、世代間交流を図った。 ・市外・県外の観光客に島田の来訪を促し、魅力をPRした。
場所	イベント：蓬莱橋 準備：学校・本通商店街・島田市菊川



放置竹林の整備  
(島田市菊川)



Bambooこども縁日  
(蓬莱橋)



竹馬の準備風景  
(蓬莱橋)

#### ▶活動実施内容の詳細

- ・10月5日 イベント実施に向けた打合せ
- ・10月12日 放置竹林を活用したイベント「bambooこども縁日」の準備  
NPO法人丸子まちづくり協議会の指導のもと竹玩具(竹馬・竹とんぼ)を製作  
ご当地スマートボールの製作を観光協会と島田商業高校生で実施
- ・10月21日 「ふじのくに実学チャレンジフェスタ」参加  
①地域連携の取り組みについてステージで発表  
②島田市緑茶化縁日を会場で実施
- ・10月22日 大阪OAPタワー秋の物産展参加【行政主催】  
①島田市緑茶化縁日を会場で実施  
②静岡県・島田地域のPR、竹あかりイベント紹介  
(島田市・観光協会・島田商業高等学校)
- ・10月29日 蓬莱橋にて現場確認と会場整備(除草作業)
- ・11月3・4日 蓬莱橋にて、「Bambooこども縁日」開催
- ・11月6日 生徒アンケートの実施

イベント当日は、放置竹林を活用した「竹わなげ」「竹竿金魚釣り」「竹ボーリング」「竹馬・竹とんぼ」「竹射的」を実施。商工会青年部と島田商業高等学校が中心となり、島田市内の事業者、島田市、観光協会などが協力。島田商業高等学校も、担当生徒だけでなく、学校全体に声をかけ、ボランティアによる運営を実施。

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告 I - ②

#### ▶活動実施結果

#### Bamboo子ども縁日～蓬莱橋竹あかりプロジェクト～

11月3・4日、天候にも恵まれ、蓬莱橋の897.4茶屋にて、「竹あかりプロジェクト」が開催された。島田商業高等学校では、3年生の課題研究（地域観光経済）のメンバーが、地元の放置竹林の竹を使った縁日イベント「Bamboo子ども縁日」を企画・運営した。

この取り組みは、ギネス認定である木造の貸取橋「蓬莱橋」を後世に残すことと、世代間交流を図ることを目的として実施したイベントの1つである。発案者である3年生の生徒を中心に、竹の射的・竹ボウリング・竹の輪投げ・竹馬・竹トンボのほか、自作の竹竿による金魚釣などを企画し、放置竹林の問題に触れながら、懐かしの昭和玩具で世代間交流を生み出すことを目的とした。

初の試みであること、世代間交流を目指していることから、市内の各小中学校にポスター及びチラシの配布も行った。その結果、親子で楽しむ風景も多く見られた。アンケート調査において、イベントを知ったきっかけは、子どもが学校からもらったチラシと答える方が多く、広報戦略は効果があった。当日は、多くの家族連れで賑わい、世代間交流の目的を達成することができた。

縁日イベント終了の16時から、並べた竹の中にLEDライトを点灯させ、ギネス認定の蓬莱橋の袂を竹あかりで演出するお手伝いを行った。

※椋山女学園「ビジネスプランコンテスト」最終審査会出場

#### ▶次回以降の課題等

行列の回避、継続に向けた費用積算、スタッフの適正配置、継続的な実施のための資金集め。



#### ▶生徒・協議会構成員からのコメント

##### 【高校生】

- ・たくさんの人たちや大人の方々の協力でこのような良い縁日を開けたと思う。
- ・チラシの効果が想像以上に大きく、商店街に配ったポスターやチラシが効いた。
- ・地域住民との関わりを通して楽しさを感じた。
- ・地域の活性化に役立った。
- ・色々な人と交流できて、島田市という街がよい街だと知った。
- ・多くの人に来てもらい島田市を知ってもらおうきっかけになった。

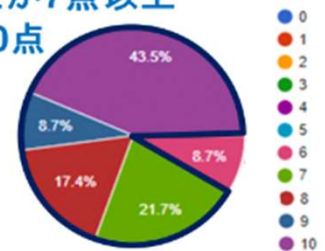
##### 【協議会メンバー】

- ・参加した生徒のコメントにより、蓬莱橋の来訪や世代間交流の目的が達成できたこと、生徒の自己評価より、企画・運営が無事できたことなど、充分活躍できたことがうかがえる。
- ・企画したイベント収益について、今回は主催団体へ寄付をしたが、次につなげていくことを視野に入れ、今後は有効な扱い方についても検討していきたい。
- ・単独のイベントとしてだけでなく、中長期的な視点も持てるようにしたい。
- ・KADODE夏まつりで行った、準備、本番、片付けまでの一連の経験を活かしながら、今回の「Bamboo子ども縁日」を企画し成功させたことは、地方創生活動として素晴らしい。

#### 生徒の自己評価

自分の取り組みの評価（10点中）

9割以上が7点以上  
4割が10点



## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告Ⅱ-①

取り組み項目名称	Ⅱ 島田ならではの銘産、オリジナル商品の開発、 オリジナル体験に高校生の発想を採用 全国SBP交流フェア参加 及び 島田市認知度調査（県外旅行会社）
実施日・実施期間	令和5年8月19日9:00 ～ 令和5年8月21日18:00
参加者	3年生「広告と販売促進」、珠算部、一社）島田市観光協会
実施内容	○全国SBP交流フェア参加 開会式 1時間、SBPアワード決勝（取り組み発表） 3時間 実践発表交流会 2時間 ワークショップ・SBPセミナー 3時間、表彰式・審査員交流 2時間 ○県外旅行会社を訪問し、島田市認知度調査実施
場所	全国SBP交流フェア：皇學館大學（三重県） 島田市認知度調査：東武トップツアーズ・HIS・名鉄観光（名古屋市）



全国SBP交流フェア  
(NEXCO中日本賞)



実践販売会の様子  
(島田の銘産品)



蓬萊橋射的の様子  
(島田市緑茶化縁日)

#### ▶ 活動実施内容の詳細

三重県の皇學館大學で毎年開催されている「全国SBP交流フェア」に参加。大井川と大井川鐵道、島田の名産をちりばめた大井川スマートボールや、蓬萊橋を模した台での射的、島田の名産品の販売を実施した。

この取り組みは、「道つながり」ということもあり、NEXCO中日本賞をいただくことができた。

SBP参加の後、名古屋市の旅行会社を3社まわり、島田市の認知度調査をした。

今までの取り組みについて紹介 2023年8月21日

### 名古屋市内の旅行会社へ訪問

- ・ 貸切旅行・教育旅行など、幅広い旅行をサポートする  
**東武トップツアーズ 名古屋支店**  
河合中部統括部長・福崎様・塚田様  
鈴木様・江上様 5名ご対応
- ・ 若者に人気！  
**エイチ・アイ・エス 名古屋国内バス事業部**  
ツアー造成部 鈴木様
- ・ バסטゥアの国内大手！  
**名鉄観光バス (ドラゴンズバック) 旅行企画部**  
旅行企画課 雲井様

自分達だけで考えた島田市の魅力を旅行造成のプロに提案。果たして、結果は。。。

旅行会社訪問時の様子

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告Ⅱ-①

#### ▶活動実施結果

名古屋市の旅行会社3社で、島田・藤枝など志太榛原地区の認知度調査を行った。ギネス認定という事もあり、流石に蓬萊橋は皆さん知っていたが、川越遺跡や蓮華寺池公園は、訪問したことはないだけでなく、名前も知らない人も多く、認知度が低いことがわかった。

あわせて、ツアー企画立案のための注意点や要望などを聞くことが出来た。旅行会社からは、ツアーに参加する若者が少ないのでその理由や魅力の掘り起こしがほしいとの事であった。

そのため、認知度のアップと合わせて、若者がツアーに参加するために、ツアーに参加しない理由、若者への訴求方法の検討などが必要だと感じた。

#### ▶次回以降の課題等

今回は、ツアー企画のプレゼンではなく、ツアー企画立案のために、島田市の認知度調査を行うとともに、旅行会社の要望などを聞くことが出来た。旅行会社からは、若者がツアーに参加しないので、その需要の掘り起こしや、若者向けのツアーの掘り起こしを期待された。

#### ▶生徒・協議会構成員からのコメント

##### 【生徒のアンケート、反省】

「全国SBP交流フェア」及び「旅行会社」で島田をPRするため、第8回全国高校生SBP交流フェア（8月19～20日三重県伊勢市 於：皇學館大学）に今年も参加した。「SBP」とは、高校生が地域の課題をビジネス手法を用いて解決していく取り組みのことである。

本校では、330年続く伝統芸能「島田大祭」、ギネス認定の有料木橋である蓬萊橋を後世に残すためのイベント「ぼんぼりまつり」「竹あかりプロジェクト」「島田市緑茶化計画」のPRなど、地域の祭典やイベントを高校生が継承していくための取り組みを行っている。

全国各地でSBP活動に取り組んでいる生徒たちの実践交流会や研修が行われ、本校は、島田の銘製品の売や大井川スマートボール、蓬萊橋射的による島田のPRを行った。国産花火の7割を島田市で生産していることから、国産花火のPR・販売を行ったところ、多くの方に興味・関心を持って頂き、その結果、企業賞として、ネクソコ中日本賞を受賞した。

また、帰路の途中に、名古屋市にある旅行会社（東武トップツアーズ・HIS・名鉄観光）の3社を訪問し、志太榛原地区の名所旧跡の紹介と認知度調査を行った。この結果を参考に、バスツアーや遠足などのモデルコースを作成していく予定である。

##### 【同行した観光協会のコメント】

全国SBP交流フェアでは、全国の高校生が取り組んでいる活動内容を見られたこと、そして、最終選考に残った学校の創意工夫が詰まったプレゼンやアピール方法を見学できたことは非常に貴重な体験である。たくさん吸収し今後に活かしてほしい。

旅行会社訪問では、生徒自身が考えたツアーや島田市のおすすめスポットを旅行会社の方に伝え、感想を聞くことで、今まで持ち得なかった新たな視点からの発見が得られたと思う。

また、旅行会社側の課題や悩みを伺い、それを解決するための宿題も提示され（課題&悩み：若い年代の方がバスツアーにあまり参加していただけないため、どうしたら若い人もバスツアーに参加してもらえるのか？）、旅行会社にも少し貢献することができたのではないかと思います。



## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告Ⅱ-②

取り組み項目名称	Ⅱ 島田ならではの銘産、オリジナル商品の開発、 地域の特産を使った生徒開発商品案の試作
実施日・実施期間	令和5年7月3日(月)～令和6年1月31日(水) (授業展開)
参加者	2年生「商品開発と流通」、(一社) 島田市観光協会
実施内容	商品開発の手順、地域の課題、オリジナル商品アイデア、試作
場所	校内(授業)

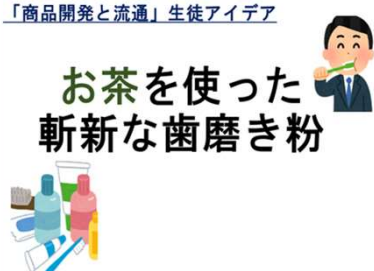
「商品開発と流通」生徒アイデア



バラの日焼け止め

ばらを使った商品  
(薔薇の日焼け止め)

「商品開発と流通」生徒アイデア



お茶を使った  
斬新な歯磨き粉

お茶を使った商品  
(斬新な歯磨き粉)

「商品開発と流通」生徒アイデア



しいちゃけお茶漬け

コンセプト: 「朝をおいしく健康に」  
ターゲット: 女性・観光客・地元の人

その他の商品  
(しいちゃけお茶漬け)

#### ▶活動実施内容の詳細

- ・商品企画書の作成 (地域の特徴を活かした各自の商品開発の提案)
- ・商品開発の意義、開発プロセス、地域の課題
- ・環境分析、開発方針とテーマ、探索的調査、アイデアの創出、商品コンセプト
- ・企画書の見直し(仮説)、プレゼン作成、検証的調査
- ・プレゼン発表(相互評価)、賞品仕様書の作成、コンテストの応募
- ・事業計画書の立案、試作品の作成、評価、流通・広報に向けて

2年生の科目に「商品開発と流通」が設定されているため、学習指導要領や教科書の内容に照らし合わせ授業として実施。アイデア創出、商品コンセプトにおいては「地域の特産×地域の課題」を結びつけた商品開発について取り組んだ。

学習指導要領や教科書の内容に沿い、地域の課題を見つけ、地域の特産品を活用した商品企画書を作成するとともに、プレゼンテーションをおこなうPDCAサイクルによる取り組みを実施した。発表することで、自分の意見をまとめるとともに、他の生徒からアドバイスをもらうことで、改善点を見つけることができるなど、PDCAサイクルによる活動ができる。企画したアイデアについては、校内での発表にとどまらず、観光協会への提案や各種コンテストへの応募により、生徒の可能性を拡げている。

観光協会では、商品化に向けたアドバイスや試作の作品、関連企業の紹介などを協力をしていただき、生徒の商品開発の具現化に向けた取り組みをアシストしてもらった。



## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告Ⅱ-②

#### ▶活動実施結果

アイデア創出、商品コンセプトにおいては「地域の特産×地域の課題」を結びつけた商品開発について取り組んだ。地域の課題として、全国の共通課題である「少子高齢化」、地方都市の抱える「人口減少」、それに加え志太榛原地区は知名度も低いことが旅行会社への認知度調査から分かった。

そこで、地域の名産として有名な「緑茶」「みかん」「バラ」などを活用し、地域の課題解決の商品企画書を作成。あわせて、その経緯や目的などをプレゼンテーションを使って発表するとともに各種コンテストにも応募、発表した。発表することで、自分の意見をまとめるとともに、他の生徒からアドバイスをもらうことで、改善点を見つけることができるなど、PDCAサイクルによる活動が出来た。

名古屋産業大学「輝け未来の専門職！ -未来へのビジネスデザインコンテスト2023-」の選考に選ばれた生徒作品については、8月26日名古屋産業大学で発表した。ビジネスアイデアの部において、経営専門職賞に島田商業高等学校「おしまみかん」が選ばれた。

また、観光協会からは、企画書の中から実現できそうな商品、面白そうな商品について、市試作品の協力をしていただけることになった。

#### ▶次回以降の課題等

コンテストや試作を通し、見つけた課題や反省点を精査し、商品化に向けた取り組みを目指す。



#### ▶生徒・協議会構成員からのコメント

##### 【高校生】

「商品開発」授業にて、実際に「しいちゃけお茶漬け」実演試食会を実施した。他の生徒たちに試食してもらい、賛否両論具体的な意見がたくさん出たことで、今後の展開に参考になった。アイデアから実物を作って試食し、次につながる意見集約もでき、大変いい経験となった。

##### 【協議会メンバー】

今回、商品化に向けたアドバイスや試作の協力を行うとともに、関連企業の紹介なども実施した。その中で、「地域の特産を使ったアイスクリーム」と「しいちゃけ茶漬け」については、面白味や需要もあるのではと考え試食のお手伝いを行った。まず、自分たちの考えたものを実演することに対して、生徒のテンションがとても高く、盛り上がりのある授業となった。普段は机上で考えて終わりになってしまいがちだが、地域の事業者と組み、試作→商品化→販売ができれば、このプロセスも話題性があり、とても良い取り組みとなる可能性を秘めているように感じた。その事業者と学校との架け橋を、行政や観光協会が担い、仕組み化できれば、双方にとって、そして地域にとってもメリットのある取り組みであると感じた。

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告Ⅲ

取り組み項目名称	Ⅲ同世代が考える島田を味わう体験・食事を盛り込んだツアープラン 【地域ブランディング】
実施日・実施期間	令和6年1月29日（月） 10:00～16:00
参加者	「広告と販売促進」選択者（3年生）、島田市観光協会、島田市観光課 協力：しまだきものさんぽ、スルガ観光、八木秀、松月堂、さすき園
実施内容	仮装体験、名所・旧跡見学、昼食、おやつ、お買い物 『志太榛原まち歩き』～お気に入りの衣装で今昔茶屋めぐり～
場所	「川越遺跡（着物・仮装散策）→小山城→八木秀（昼食）→ 松月堂（どら焼）→お茶のさすき園（お茶とジェラート）→蓬莱橋」



川越遺跡散策



小山城



昼食会場

#### ▶活動実施内容の詳細

「広告と販売促進」では、生徒が夏季休業中に、身近な地域の魅力の発信に向けた調査研究を課題に、地域の魅力PRポスターを作成。その後、点在している魅力的なスポットを結び、繋げた周遊プランの作成を行い、島田市観光協会に報告するとともに、静岡理工科大学の「ものづくり・ことづくりプランコンテスト」に応募した。



その中から、『志太榛原まち歩き』～お気に入りの衣装で今昔茶屋めぐり～が選ばれたため、島田市観光協会やスルガ観光の協力を得て、コンテスト参加に向けて生徒がコースを練り、授業選択者を対象にモニターツアーを実施した。

STP分析により、島田市にはまだ知られていない魅力的なスポットがあるが、山城は人気はあるものの交通不便な場所にあること、季節により来訪者数が減ってしまう観光地があることがわかった。然しながら、歴女は観光客で人気を博している場所よりも、まだまだ有名でない山城や史跡を訪問したいということ、コスプレイヤーは、周囲に気を遣うことなくコスプレや写真撮影を行いたいことが分かった。そのため、歴女やコスプレイヤーをメインターゲットにした「かゆい所に手が届く」おもてなしができるよう検討した。

当日は島田商業を貸切バスで出発し、「島田商業→川越遺跡（着物散策）→小山城→八木秀（昼食）→松月堂（どら焼）→お茶のさすき園（お茶とジェラート）→蓬莱橋→島田商業」というコースを巡った。生徒は、川越遺跡で思い思いの着物や衣装を選び、散策やグルメを楽しんだ。

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告Ⅲ

#### ▶活動実施結果

モニターツアーを通し、改善点はいくつかあったが、高校生は知らなかった地域の魅力について考える機会となった。

今回、「人が少ない」が利点となり、チャンスになる場合もあること、企画力・段取りの大切さに気が付き・プレゼン力・コミュニケーション能力が身についた。



#### ▶次回以降の課題等

モニター終了後、コンテストに向け、参加者にアンケートを実施、回収したほか、島田市観光課や観光協会と生徒でブラッシュアップを行った。

コスプレイヤーの皆さんにも企画に向け、ばらの丘公園、蓬莱橋、川越遺跡について、アドバイスを聞いた。「ばらの丘公園」は知名度はない反面、広い公園で、人が少ないため撮影向きでよさそう、全体的に和装系の作品なら今回の撮影地にあっていると思う、洋装（ドレス）を着たいときはばらの丘公園を選ぶとの意見をいただいた。「川越遺跡」も、いくつか建物があり撮影場所を分散でき、普段撮影できないところ、立ち入りできないところなどは人気がある。なお、「蓬莱橋」は、雰囲気はとて素晴らしいが写真の背景にほかのコスプレイヤーが映り込まないようにするのが難しそうとのアドバイスをいただいた。

#### ▶生徒・協議会構成員からのコメント

##### 【高校生】

モニターツアーを通し、

- ・まだまだ知らない地域の魅力があった
- ・個人では仮装する機会もない
- ・コアなファンの存在を知った

↓

高校生が、知らなかった地域の魅力について考える機会となり、「地域の商店」「地域とのつながり」などに気づくとともに、「企画力」「プレゼン力」「コミュニケーション力」が身についた。

仮装という点は同じであったが、歴女とコスプレイヤーは、分けてツアーを提案したほうが良いと感じた。実際にコスプレイヤーの方にもお話が聞けたので、次回はターゲット向けのモニターツアーを実施し、より本格的にしたい。オプションを提案し、収益化を目指したい。

##### 【同行した観光課、観光協会のコメント】

着物が「川越街道」や「蓬莱橋」「小山城」の雰囲気にマッチしており、コスプレも非日常感を出しやすいことを生徒たちと共有した。生徒たちも自撮りでたくさん写真を撮っていた。歴史やストーリーを感じられるものと一緒に写真を撮ると面白いというポイントを伝えたり、お客さんが何かに気が付いたり発見できたりする仕掛けを考えておくことと印象や記憶に残りやすいことなどを伝えていきたい。「松月堂」では、たくさんの種類から選べる楽しさがあるが、あまり大人気向きではない。

全体を通して、ツアーのスポットとしてはいい並びではあったと思うが、今回巡るスポットの一貫性もしくはストーリー的な部分が薄いと感じたため、もう少し内容をわかりやすくした方がよい。その方が、伝わりやすくなり、商品としても売り込みやすい事を伝えることで、検討していく機会を作り、実現に向けて取り組みたい。

#### 参加生徒評価

行先	よかった点	改善点
川越遺跡	写真がとりやすい。 和の雰囲気とあう	歴史やストーリーをもっと感じたかった
小山城	散歩に適している	ストーリーがあると○
八木秀	メニューは満足できた	事前予約ができない
松月堂	たくさんの種類から選べる 楽しさがあってよかった。	大人数向きではない コスプレしながらだと△
お茶のさすき園	ジェラート2種類選べる	コスプレしながらだと△
蓬莱橋	着物の雰囲気とあう コスプレも非日常感が○	冬場は強風が多いため要注意、割と疲れる

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告Ⅳ

取り組み項目名称	協議会
実施日・実施期間	①第1回協議会：令和5年 8月29日（火） 13：00～14：00 ②第2回協議会：令和5年10月 3日（火） 14：30～15：50 ③第3回協議会：令和5年11月16日（木） 13：50～14：50
参加者	①第1回協議会：協議会メンバー ②第2回協議会：協議会メンバー ③第3回協議会：協議会メンバー、生徒
実施内容	協議会の開催
場所	①第1回協議会：島田商業高等学校 ②第2回協議会：島田市民総合施設「プラザおおるり」 ③第3回協議会：島田商業高等学校



第1回協議会の様子



第2回協議会の様子



第3回協議会の様子

#### ▶第1回協議会の実施内容

- ①島田地域、構成メンバーの紹介
- ②取り組み内容・趣旨
- ③有識者・観光庁からのコメント、アドバイス

#### ▶第2回協議会の実施内容

- ①島田地区の取り組み
- ②生徒による地域活性化に向けた島田市PR事業
- ③有識者・観光庁からのコメント、アドバイス

#### ▶第3回協議会の実施内容：生徒の取り組み紹介を中心とした活動報告

- ①島田市緑茶化計画によるツアー企画  
（お茶に関する体験・学習）
- ②県外高校生の体験談（岡山県の高校生との交流会）
- ③観光協会・観光課より
- ④有識者・観光庁からのコメント、アドバイス

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告Ⅳ

#### ▶活動実施結果

第1回協議会で、島田地域の構成メンバー、取り組み内容・趣旨を紹介し、有識者・観光庁から今後の取り組みに向けたコメントやアドバイスをいただいた。その内容に従い、一部計画を修正し活動を実施。

第2回協議会では、生徒による地域活性化に向けた島田市PR事業について、有識者・観光庁を招き、意見交換を直接行うことができた。

第3回協議会では、生徒による島田茶の紹介やお茶の淹れ方講座、県外高校生の体験談を、直接、観光協会や観光課、有識者・観光庁に向けて紹介することができた。人前で発表することや、コメントやアドバイスを受けることで、生徒は取り組み内容の見直しや理解を深める機会となった。

#### ▶次回以降の課題等

進捗状況の確認を行い、未実施の内容や事業について協議。有識者や観光庁よりいただいた、大人が先回りしてルールを引いたり、準備をしすぎないように注意し、失敗を恐れず取り組めるように地域の役割分担を行う。

また、地区発表会や全国シンポジウムに向け、発表資料の作成に向け、データの共有の仕方、リハーサル日程の調整を行う。

#### ▶生徒・協議会構成員からのコメント

##### 【生徒のコメント】

茶業青年団による島田市の「おいしい淹れ方講座」を実施して、お茶の淹れ方について再認識していたと思っていたが、実際に多くの人の前で説明し、お茶を淹れてみるとスムーズにできなかつたり、うまく説明できないことが分かった。

##### 【協議会メンバーのコメント】

生徒の意見を尊重し、大人が先回りせずに見守る事の重要性を認識できた。大人の経験上、これは失敗するかもしれないと感ぜられることも、それをストレートに伝えるのではなく、失敗を経験させることも大切であることを学んだ。

「おいしいお茶の淹れ方」については、静岡出身者として社会に出た後に、お客様や取引先に対して美味しいお茶を淹れることで、とても感動いただき、役に立った経験がある。プロから学んだこの知識や経験をこの場限りとするのは勿体無いので、回数を重ね人前でもスムーズに淹れられるよう、今後はイベントなどを通じて機会を設けていきたいと感じた。

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告 V

取り組み項目名称	地域発表会
実施日・実施期間	令和6年1月31日(水) 13:10~13:30
参加者	保護者、生徒、学校関係者、市役所、観光協会、地元企業 (約500名)
実施内容	地域発表会
場所	島田市民総合施設「プラザおおり」



地域発表会の様子



地域発表会の様子

学年	授業科目	主な取組内容
1年生	「ビジネス基礎」 150人(全員参加)	→ 様々な地域の魅力と課題、地元企業と語る会
2年生	「マーケティング」 184人(全員参加)	→ 観光地マーケティング
	「商品開発と流通」 70人(選択履修)	→ 地域特徴×地域課題解決 ⇒ 商品開発
3年生	「課題研究」 172人(全員参加)	→ 地域活性化アプリ・藤枝MYFC連携・MER(経営哲学)・中国語・地域経済(地方創生)
	「広告と販売促進」 25人(選択履修)	→ 地域の魅力発信ポスター 生徒考案ツアー企画

地域発表会の内容

#### ▶ 活動実施内容の詳細

##### 【産業界との連携強化・地域活性化のための観光教育推進事業の取り組みについて】

今年度、学校全体(情報ビジネス科及び総合ビジネス科、商業科)で取り組んだ地域連携の取り組みについて、趣旨説明の後、実際に取り組んだ生徒による発表を実施した。

スクールミッションである、「身近な課題を発見し、解決に向けて主体的にチャレンジする教育活動を通じて、地域社会で活躍できる生徒の育成を目指す」という目標のもと、1年生から3年生まで学校全体で取り組んでいることを説明した。

そのあと、3年生が「課題研究」と「広告と販売促進」で取り組んだ地域との連携事業について、説明を行った。

日程 令和6年1月31日(水)  
12:50 受付  
13:10~13:15 開会  
13:15~13:30 プレゼンテーション

島田商業高校の取組
② 「広告と販売促進」
<input type="radio"/> フィールドワーク
<input type="radio"/> 全国SBP参加
<input type="radio"/> 旅行会社訪問・認知度調査
<input type="radio"/> 志太榛原まちあるき モニターツアー実施

島田商業高校の取組
① 「課題研究」地域観光経済の取組
<input type="radio"/> 現状分析・講話・視察
<input type="radio"/> フィールドワーク
<input type="radio"/> イベント企画・実施 「蓬莱橋竹あかりプロジェクト」

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 活動報告 V

#### ▶活動実施結果

全校生徒や地域の皆さん、有識者、観光庁の方々に取り組んできた内容や成果を発表することができた。全員の前で発表することで、より取り組んだ内容について、再度認識することができた。

#### ▶次回以降の課題等

取り組んできた生徒たちが、卒業後も何らかの形で考え、地方創生に役立ててほしい。また、継続するため、後輩への引継ぎを行うとともに、先輩としてイベントや祭典にかかわっていく体制を確立したい。

今回企画した商品開発案とツアー案を発表したことから、観光に関するステークホルダーからの意見をいただくとともに、次年度以降実現に向けどうすれば連携していけるかが課題である。

#### ▶生徒・協議会構成員からのコメント

##### 【生徒のコメント】

校内での取り組み発表に続き、おおりのホールを借りて、観光協会、観光課、学校関係者、地域のみなさんなど多くの人前で発表し緊張した。しかし、取り組んできた内容を皆さんに知っていただくことができて良かった。

また、この取り組みを後輩たちにも続けてほしいことから、発表の最後にメッセージを送ることができて良かった。

##### 【協議会メンバーのコメント】

おおり発表会当日には地域の方々にも参加いただき、私たちの取り組みを紹介することができた。地域の方々にも活動内容を知っていただくことにより、来年度以降には協力依頼などもしやすくなり、継続していくための良き機会となった。

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 事業実施結果

#### ① 産学官の連携について

本事業を通じて得られた成果として、主に以下のような点が挙げられる。

- 従前より各組織間でやりとりはあったが、新たに協議会を設立したことで、情報共有や協力依頼等の相互連携がより円滑になった。
- 生徒のアイデアについて、関連する地域事業者の紹介を行い、実証に向けたアシストを行うなど、伴走しながら具現化することができた。
- 生徒が旅行会社に訪問して島田市の緑茶の産地と特徴、観光地の認知度調査など、直接対話ができただことで、島田市の魅力を発信するツアー企画の仮説の立案の幅が広がった。
- 今回関わりの多かった観光協会への就職を希望する相談が複数あり、観光産業の担い手の育成につながった。
- 同時に、この組織を継続していく上での課題も多く見つかった。例えば、三者の勤務体系や費用面の調整がある。また、生徒は定期試験や検定、部活動など活動に制限があることや、校外活動の保険加入、移動手手段の確保などが課題である。

以上のように、本事業を進める上で、島田商業高等学校・島田市観光協会・島田市観光課の三者を構成員とする「島田市観光教育推進協議会」を設立したことで、情報共有など三者の動きが見えやすくなり、以前よりも円滑に相互連携できるようになった。観光協会や市が直接授業に入るなど、生徒たちとの距離間も近くなり、生徒たちのアイデアの幅も広がったと思われる。地域事業者を交え、一部のアイデアを具現化するところまで取り組めたことはよかった。

また、取り組みの中で、実際に観光協会への就職を希望する生徒の就職相談があり、観光に関わる分野への進学を決めた生徒もいた。地域事業者や学校外の方たちと関わる頻度や時間が多かったことが、生徒の地域や観光に対する関心度の向上に繋がったのではないかと感じている。

生徒の事後アンケートからも、今回の取り組み内容で、貴重な経験ができたという声が多く、よい機会を提供できたと感じている。今後もやり方をブラッシュアップしつつ継続していきたい。



## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 事業実施結果

#### ② 地域で観光教育を進める上で課題となることは何か

今回の事業を通じ、今後も持続的に取り組んでいくための課題が複数浮かび上がった。  
主な課題は以下の点である。

- 予算の確保（実働経費、商品開発や実証に係わる投資的経費等）

今回、予算があったから実施したわけではなく、地方創生に向けた地域との連携活動ではあるが、予算があるから実現できたプロジェクトや実証調査がある。そのため、今後も実施する際の実働経費であったり、新たなチャレンジをする際の投資的経費など、予算がないと活動できることが限られてくる。

例えば、生徒が地域へ出てフィールドワークを実施するための交通費や保険料など、少額ではあるが予算が必要となる。予算があると活動を展開できる幅が広くなり、その後の展開も可能性が広がる。

- 学校の授業枠に捉われない中長期的なプロジェクトの計画、進行管理、組織のシステム化

学校の授業の枠は限られており、生徒は毎年学年が変わり卒業もしていく。しかし、地域はずっと続いていくため、短期間では達成できないことや時間をかけて取り組むべきプロジェクトなどは、中長期的な計画と進行管理が必要になる。

そのため、この産学官が連携した協議会組織が、地域と学校を繋いでいく役割を担う重要な存在となってくる。ただし、教員や行政の担当者の転退職もあるため、属人的な動きではなく、ある程度システムの的に運営ができるような仕組みづくりの必要性も強く感じた。

- 生徒のモチベーション、主体性の維持

取り組みを進める中で、生徒の主体性やモチベーションを維持させることも、地域の人材育成という観点で重要である。民間や大人たちが道筋を示しすぎず、生徒が考える余白をしっかりと確保すること、失敗も含めて経験を積んでもらうことが次に繋がると考え、関わる関係者が共通認識をもつことが大切である。

- 授業対応と地域ボランティア対応について

地方創生活動を行うにあたり、出前講座や打合せなど、校内で実施する場合は、学習指導内容と一致していることが大切である。また、校外での活動や土日などの活動については、学校の責任者や保護者の許諾が必要となることが分かった。部活動での参加は土日も可能であるが、引率教員が必要である。

なお、ボランティア活動による地域イベントや祭典などの参加は、その特性上、生徒のみの参加は可能であるが、引率者が不在なこともあるため、保護者の承諾や保険の加入など、安全管理が肝要であった。

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 事業実施結果

#### ③ 持続的に取り組むために求められることは何か

今後もこの観光教育推進事業を持続的に取り組んでいくためには、前頁で上げた課題を少しずつ解消していくこと、主に以下の点を意識することが重要だと考える。

- 島田市観光課、島田市観光協会、島田商業高等学校の各組織内における「観光教育」に対する深い理解  
組織全体で理解がされていないと、調整に時間がかかったり、情報の行き違いが生じてしまうことがある。学校・行政・民間事業者のそれぞれの組織内において、「観光教育」についての理解を深めることが重要だ。一部の担当者のみが理解している状況をさけるために、まずは地域関係者の理解を深め、進めやすい環境を構築していきたい。
- 今回の取り組みを継続するにあたり、生徒が考えた開発商品やイベントの実現化に向けた地域への周知と協力体制の確保  
「地域の課題 × 地域の特産品」を使った開発商品や、生徒企画イベントの地域連携、実施にむけた地域への周知のため、取り組み内容を積極的に地域へ発信し、観光教育の必要性や取り組みを認識してもらうことでより円滑な連携ができるようになっていく。地域から共感されることで、持続的に取り組んでいけるようになって考えられるため、小さなことでも情報発信し、取り組みを知ってもらうことが大切である。
- 産業界の「観光教育」に対する理解促進  
取り組み内容の幅を広げていくという観点では、特に地域の民間事業者・団体などに対して「観光教育」の理解を促し、連携先を広げていくことも重要であるため、裾野を拡大していくことが今後の展開幅にも繋がると考える。
- 地域との関わりを提供していく  
当協議会としては、先に挙げた内容について取り組むことで、今後もあらゆる面で地域と協働連携し、取り組みを行っていく。

## (2) 観光教育の取り組み 3. 島田地域

### 事業実施結果

#### 次年度の取り組みに向けた課題や取り組んでみたい事業内容

今年度実施した取り組みの中で、生徒自ら企画・運営し実施した縁日イベントや、実現をめざした商品開発、モニターツアーなどは、今回実施したことによっていくつかの課題点が見つかった。

商品開発では、地域の特産品を用いるための原材料の仕入先、商品化に向けた商品の製造を請け負ってくれる企業を見つける事が課題点として挙げられる。さらに、商品の販売についても、行政機関や学校などは、原則として利潤追求活動を行えないため、流通経路や販路が課題である。

また、イベントやツアーの実施に向けた連携先や広報活動なども課題となっている。しかしながら、次へつながるポイントが見えているため、今年度の実績や課題を先輩から後輩へしっかりと引き継いで、また次年度体制を整えて検討していきたい。

今年度はイベントの企画・運営・商品開発に取り組んだ結果、イベントは島田市のPRに効果があることや、生徒のコミュニケーション能力・企画力が向上するため、島田市緑茶化縁日などのイベントは新年度に継続実施していけるよう、地域と学校が連携して取り組む予定である。

そして、「商品開発」や「ツアー企画」においては、特産品も観光資源として捉え、地域の観光事業者だけでなく、地場産業の事業とも連携し、お茶摘み体験、急須づくり陶芸体験など、島田地域を訪問しないと得られない体験プログラムを造成し、プロモーションや販売まで展開した。

これらを継続的に取り組みつつ、まずは連携事例を積み上げていく。そして、それらの取り組み内容を地域に周知していくことも重要なため、ローカルメディアや学校・行政・観光業界の各種媒体等を利用して積極的に発信もしていく予定である。学校と地域が連携して取り組んでいる様子が少しずつ地域全体に認知されていけば、新たな協力事業者とのつながりが構築できたり、裾野が広がることで事業展開の幅も拡大できると考える。事例の積み上げや情報発信などが、地域における未来の人材育成につながる種まきだと考え、今後も取り組んでいきたい。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果

#### 地域向け事業取り組み前後のアンケート実施

アンケート対象	(1) 採択地域で観光教育を受ける生徒 (2) 採択地域の自治体・地域事業者・教員など	
実施期間	事業前 (第1回)	令和5年10月17日 (火) ~10月31日 (火)
	事業後 (第2回)	令和6年1月23日 (火) ~2月9日 (金)
実施方法	ウェブアンケート (グーグルフォーム) 作成	
地域への展開	依頼書面にて告知、QRコードでWEBアンケートページに移動する	

#### グーグルフォーム (生徒向け・地域関係者向け それぞれ設問13問)

**観光の学びプログラム\_実施アンケート**

皆様の学校で、地元が元気になるための観光の学習に取り組んで頂く予定となっております。

今後の学校での観光の学び、観光学習プログラムを作る等の取り組みをより良いものとするために、アンケートへ早速のご意見を伺うさせていただきます。ご協力の程宜しくお願い致します。

個人情報の取扱について同意確認を以下の通り実施致します。当社は、「個人情報の保護に関する法律」ならびに「当社個人情報保護方針」に基づき、お客様の個人情報を規定通りの取扱し、保護に努めております。規定詳細は弊社プライバシーポリシーをご確認ください。

実施者：地域活性化のための観光教育推進事業事務局 (東武トップツアーズ株式会社)

2023kankoukyouiku@gmail.com アカウントを切り替える

\* 必須の質問です

メールアドレス\*

メールアドレス

弊社の個人情報の取扱規定をご確認の上、個人情報の取り扱いについて\*

個人情報の取扱に同意します。

学校名をお選び下さい\*

北海道ニセコ高等学校

岩手県立釜石南高等学校

静岡県立島田南高等学校

(1)自分の地元での観光面での魅力はどのようなものがあるか、考えることがありますか?

選択

(2)自分の地元での観光面の課題について考えることがありますか?\*

選択

(3)自分の地元の魅力を、「地域外からの日本人旅行者」「外国人旅行者」「学校の団体行事」「イベント等を開催する方々」等の様々な立場として考えることがありますか?

選択

4)自分の地元が観光により元気になるために、自分に何が出来るかを考えることがありますか?\*

選択

(5)観光に活かすことが出来る地元の魅力はどのようなものがあると思いますか? \*複数選択でも可。その他がある場合はお書きください。

郷土料理、グルメ

自然、風景

遺跡や史跡

伝統文化、工芸

神社仏閣

入場施設

体験アクティビティ

地場産業

祭り、イベント

歴史、伝統

交通事業者

宿泊施設

買い物

温泉

地域住民との交流

その他

(6)観光によって地元を元気にする取り組みを考える時、自分の地元が好きになり、誇りを感じられますか? \*

10段階評価 (10が最も高い評価) でお答えください。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果

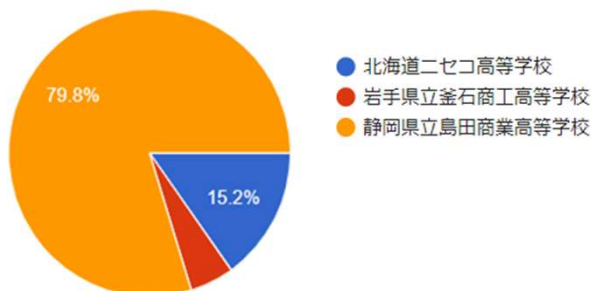
#### 地域向け事業取り組み前後のアンケート実施

##### 事業実施前

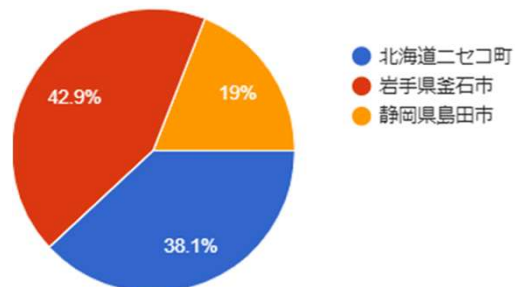
アンケート回答数（第1回）

区分	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計
生徒	15	5	79	99
自治体・地域事業者・教員など	8	9	4	21
合計	23	14	83	120

生徒の回答数 99  
地域別の比率



自治体・地域事業者・教員などの回答数 21  
地域別の比率

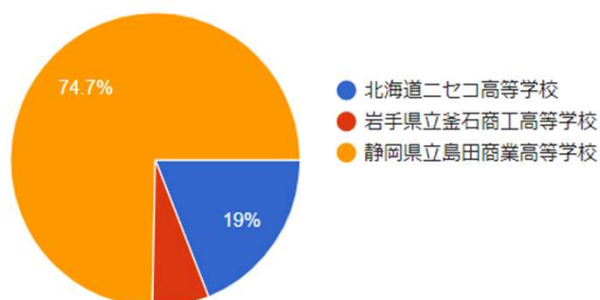


##### 事業実施後

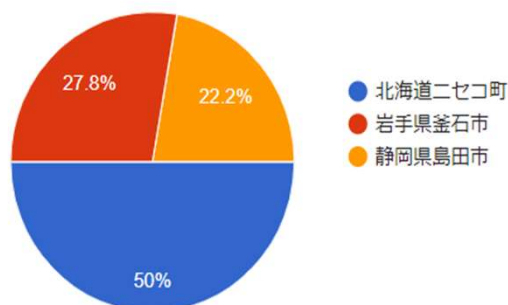
アンケート回答数（第2回）

区分	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計
生徒	15	5	59	79
自治体・地域事業者・教員など	9	5	4	18
合計	24	10	63	97

生徒の回答数 79  
地域別の比率



自治体・地域事業者・教員などの回答数 18  
地域別の比率



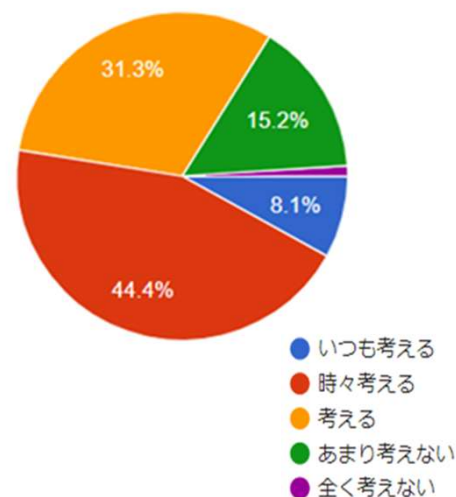
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

#### 事業実施前

#### (1)自分の地域の観光面での魅力はどのようなものがあるか、考えることがありますか？

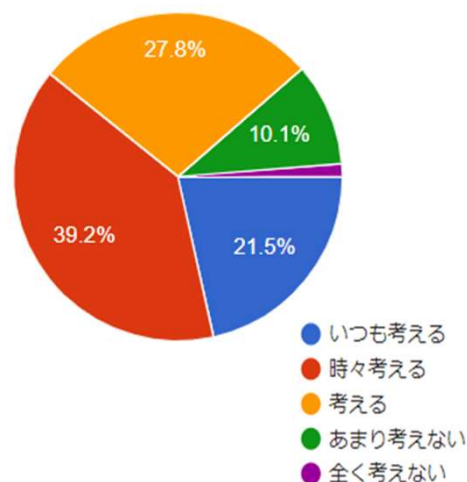
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	6		2	8	8.1%
時々考える	6	3	35	44	44.4%
考える	3		28	31	31.3%
あまり考えない		2	13	15	15.2%
全く考えない			1	1	1.0%
	15	5	79	99	



#### 事業実施後

#### (1)この半年の学習を通じて、自分の地域の観光面での魅力はどのようなものがあるか、考えることがありますか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	11	3	3	17	21.5%
時々考える	3	2	26	31	39.2%
考える	1		21	22	27.8%
あまり考えない			8	8	10.1%
全く考えない			1	1	1.3%
	15	5	59	79	



#### 【分析】

第1回と第2回のアンケート結果を比較すると、島田地域を除いて、「時々考える」から「いつも考える」へ、「あまり考えない」から「考える」へ、それぞれ生徒の意識の変化が見て取れる。島田地域については調査対象者数が第1回と第2回では異なるため単純比較はできないが、総人数の減少幅を鑑みると相対的に生徒の意識向上が見られる。

一方で、学習後でも、「あまり考えない」「全く考えない」と回答した生徒の意見もヒアリングし、その原因を解析することで、地域魅力のさらなる認知度向上につながると考えられる。

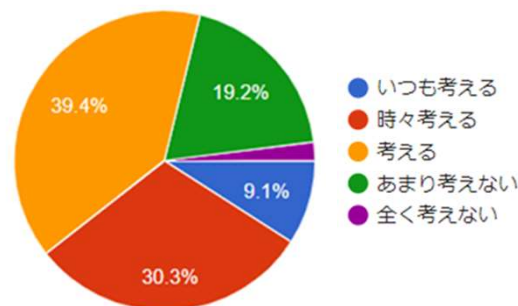
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

#### 事業実施前

#### (2)自分の地元での観光面の課題について考えることがありますか？

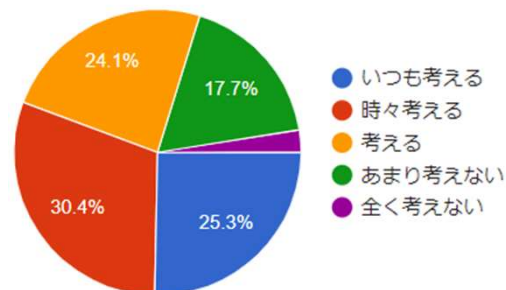
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	8		1	9	9.1%
時々考える	3	2	25	30	30.3%
考える	2	1	36	39	39.4%
あまり考えない	2	2	15	19	19.2%
全く考えない			2	2	2.0%
	15	5	79	99	



#### 事業実施後

#### (2)この半年の学習を通じて、自分の地元での観光面の課題について考えることがありますか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	12	3	5	20	25.3%
時々考える	2	2	20	24	30.4%
考える	1		18	19	24.1%
あまり考えない			14	14	17.7%
全く考えない			2	2	2.5%
	15	5	59	79	



#### 【分析】

二セコ、釜石両地域では、第1回調査時は課題について「あまり考えない」が2ポイントあったが、第2回調査では「考える」以上に意識が向上した結果がうかがえる。また、両地域では「いつも考える」のポイントが前回より増えている。一方、島田地域は、調査対象者数の減少があった中でも「あまり考えない」と「全く考えない」の数に大きな変化が見られなかった。

地元における観光面での課題抽出においては、授業だけではなく、観光産業に携わる地元の人々との交流機会を増やし、彼らから「生の声」を聴く機会を増やすことで、課題意識を高めることができる。

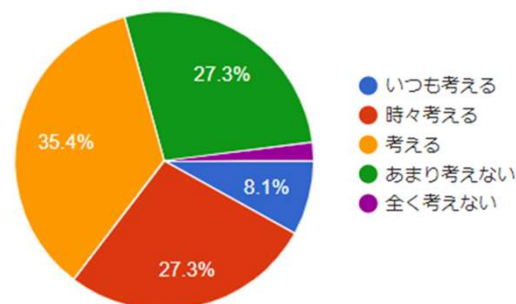
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

#### 事業実施前

(3)自分の地域の魅力を、「地域外からの日本人旅行者」「外国人旅行者」「学校の団体行事」「イベント等を開催する方々」等の様々な立場として考えることができますか？

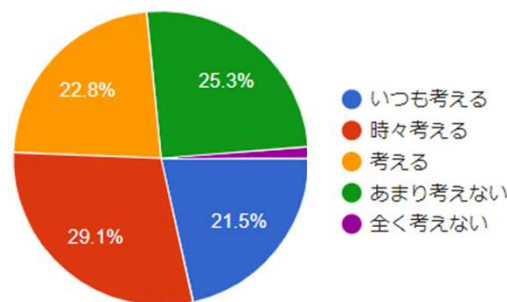
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	7		1	8	8.1%
時々考える	2	2	23	27	27.3%
考える	4	1	30	35	35.4%
あまり考えない	2	1	24	27	27.3%
全く考えない		1	1	2	2.0%
	15	5	79	99	



#### 事業実施後

(3)この半年の学習を通じて、自分の地域の魅力を、「地域外からの日本人旅行者」「外国人旅行者」「学校の団体行事」「イベント等を開催する方々」等の様々な立場として考えることができますか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	12	3	2	17	21.5%
時々考える	2	2	19	23	29.1%
考える			18	18	22.8%
あまり考えない	1		19	20	25.3%
全く考えない			1	1	1.3%
	15	5	59	79	



#### 【分析】

二セコ地域と釜石地域でそれぞれ「いつも考える」が大幅に増えている。特に釜石地域は、「あまり考えない」と「全く考えない」生徒がいたのが、観光教育を受けたことにより「時々考える」または「いつも考える」に大きく変化している。

地域の観光面の魅力を自分自身が認知することも必要であるが、国内外の人に「自分の地元をもっと知ってもらいたい」という意欲を喚起し、自ら観光素材の商品化や磨き上げを経験することで、生徒自身の観光教育への取り組みのモチベーションにつながると考えられる。



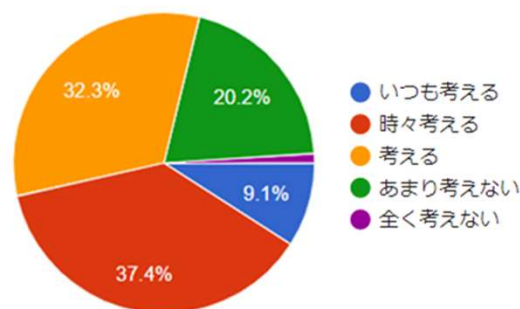
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

#### 事業実施前

(4)自分の地元が観光により元気になるために、自分に何が出来るかを考えることができますか？

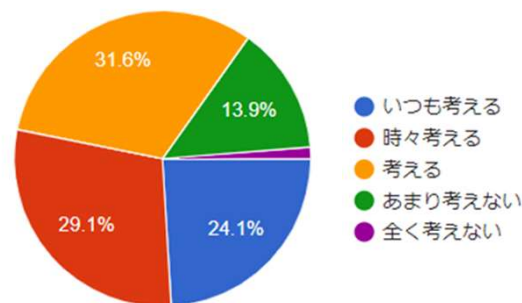
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	7		2	9	9.1%
時々考える	2	2	33	37	37.4%
考える	5	1	26	32	32.3%
あまり考えない	1	2	17	20	20.2%
全く考えない			1	1	1.0%
	15	5	79	99	



#### 事業実施後

(4)この半年の学習を通じて、自分の地元が観光により元気になるために、自分に何が出来るかを考えることができますか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	13	3	3	19	24.1%
時々考える	1	2	20	23	29.1%
考える	1		24	25	31.6%
あまり考えない			11	11	13.9%
全く考えない			1	1	1.3%
	15	5	59	79	



#### 【分析】

二セコ地域と釜石地域でそれぞれ「いつも考える」が大幅に増えている。特に釜石地域は、第1回に「あまり考えない」と「全く考えない」と答えた生徒が、観光教育を受けたことにより「時々考える」または「いつも考える」と大きく変化している。島田地域は数値による単純比較はできないが、「あまり考えない」生徒の割合が第2回調査時は減少していることを考えると、観光教育により意識の変化が起きたと考えられる。

観光教育人材の育成のためには、このように考えるきっかけを作る学習プログラムの磨き上げが重要である。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

#### 事業実施前

(5)観光に活かすことが出来る地域の魅力はどのようなものがあると思いますか？複数選択でも可。その他がある場合はお書きください。

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
郷土料理、グルメ	12	3	34	49	41.9%
自然、風景	14	3	48	65	55.6%
遺跡や史跡	2	4	21	27	23.1%
伝統文化、工芸	1	3	13	17	14.5%
寺社仏閣	1		4	5	4.3%
入場施設	1		5	6	5.1%
体験アクティビティ	13	1	9	23	19.7%
地場産業	4		2	6	5.1%
祭り、イベント	11	3	57	71	60.7%
歴史、伝統	3	2	27	32	27.4%
交通事業者			2	2	1.7%
宿泊施設	11		7	18	15.4%
買い物	6		8	14	12.0%
温泉	13		29	42	35.9%
地域住民との交流	11		8	19	16.2%
その他：農業体験	1			1	0.9%
その他：緑茶			1	1	0.9%

#### 事業実施後

(5)この半年の学習を通じて、観光に活かすことが出来る地域の魅力はどのようなものがあると思いますか？複数選択でも可。その他がある場合はお書きください。

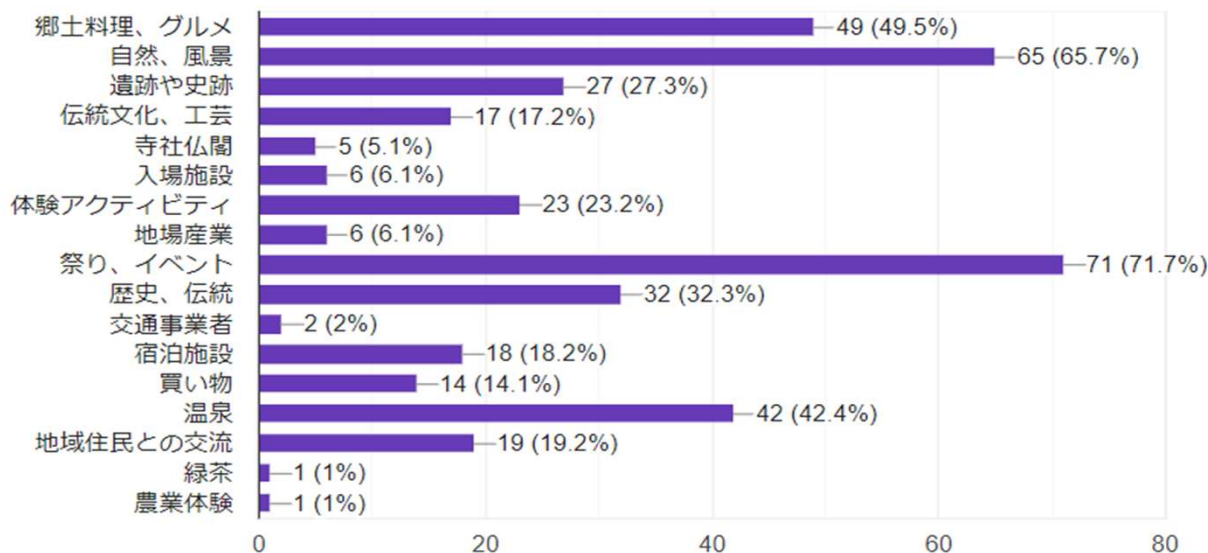
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
郷土料理、グルメ	12	3	32	47	59.5%
自然、風景	15	4	36	55	69.6%
遺跡や史跡	1	3	26	30	38.0%
伝統文化、工芸	3	1	15	19	24.1%
寺社仏閣			7	7	8.9%
入場施設	3		4	7	8.9%
体験アクティビティ	14	3	8	25	31.6%
地場産業	9	1	1	11	13.9%
祭り、イベント	10	2	43	55	69.6%
歴史、伝統	4	2	16	22	27.8%
交通事業者	3			3	3.8%
宿泊施設	14	1	2	17	21.5%
買い物	5		5	10	12.7%
温泉	12		18	30	38.0%
地域住民との交流	9	1	3	13	16.5%

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

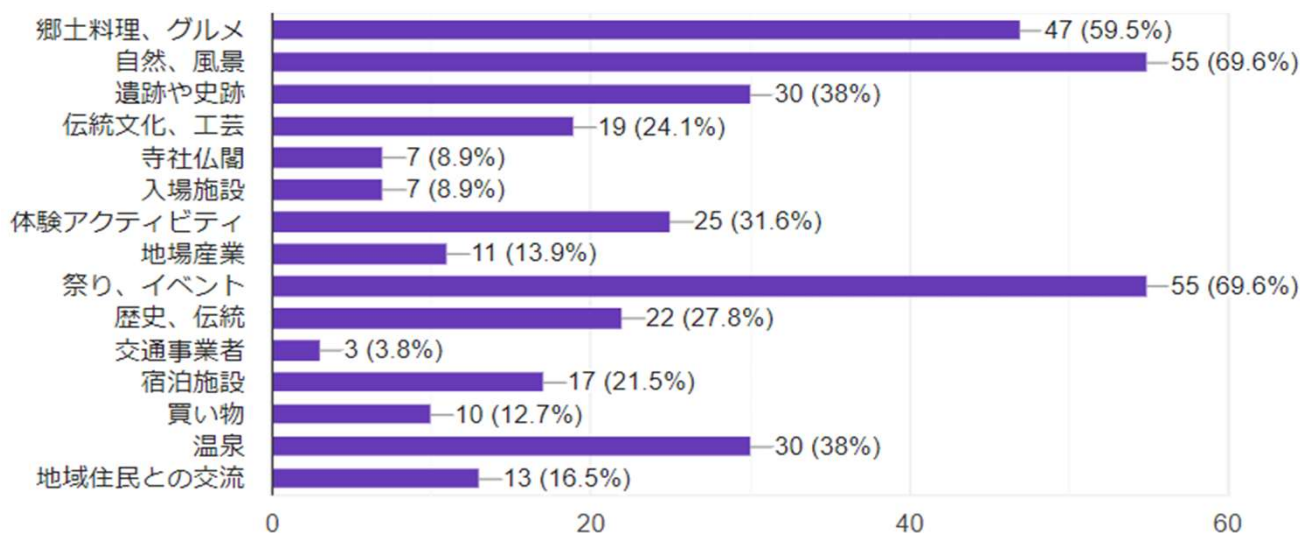
#### 事業実施前

(5)観光に活かすことが出来る地域の魅力はどのようなものがあると思いますか？複数選択でも可。その他がある場合はお書きください。



#### 事業実施後

(5)この半年の学習を通じて、観光に活かすことが出来る地域の魅力はどのようなものがあると思いますか？複数選択でも可。その他がある場合はお書きください。



#### 【分析】

第2回のアンケート調査で対象者数が変わっているため、人数を表す数字ではなく%の数値を比較すると、総じて第2回のアンケートでは「郷土料理、グルメ」や「遺跡や史跡」などの観光素材各種の割合が増えている。複数回答有りの条件を鑑みると、生徒の地元観光に関する興味関心の幅が広がったことが表れているといえる。

地域の観光素材やその魅力が、生徒たちに認知され、またそれらの素材を地域外に発信することで、郷土愛や地元への帰属意識に繋がるものと考えられる。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

#### 事業実施前

(6)観光によって地元を元気にする取り組みを考える時、自分の地元が好きになり、誇りを感じられますか？ 10段階評価（10が最も高い評価）でお答えください。

10段階	二セコ地域	釜石地域	島田地域	3地域回答数	比率
10	3		2	5	5.1%
9	2		3	5	5.1%
8	6	1	15	22	22.2%
7	2		21	23	23.2%
6		1	18	19	19.2%
5			2	2	2.0%
4	1	2	14	17	17.2%
3	1	1	3	5	5.1%
2				0	0.0%
1			1	1	1.0%
10段階での加算	117	25	498	640	
回答者数	15	5	79	99	
地域ごとの平均値	7.80	5.00	6.30	6.46	

#### 事業実施後

(6)この半年の学習を通じて、観光によって地元を元気にする取り組みを考える時、自分の地元が好きになり、誇りを感じられますか？ 10段階評価（10が最も高い評価）でお答えください。

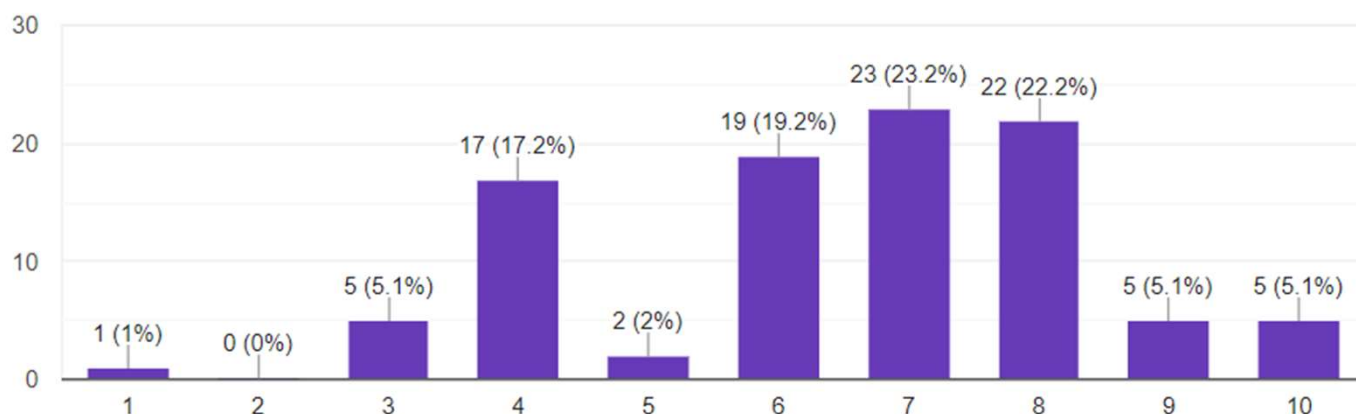
10段階	二セコ地域	釜石地域	島田地域	3地域回答数	比率
10	6	2	3	11	13.9%
9	3		1	4	5.1%
8	4	1	14	19	24.1%
7	1	1	13	15	19.0%
6			8	8	10.1%
5		1	6	7	8.9%
4			12	12	15.2%
3			2	2	2.5%
2				0	0.0%
1	1			1	1.3%
回答者数	15	5	59	79	
地域ごとの平均値	8.47	8.00	6.34	6.85	

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

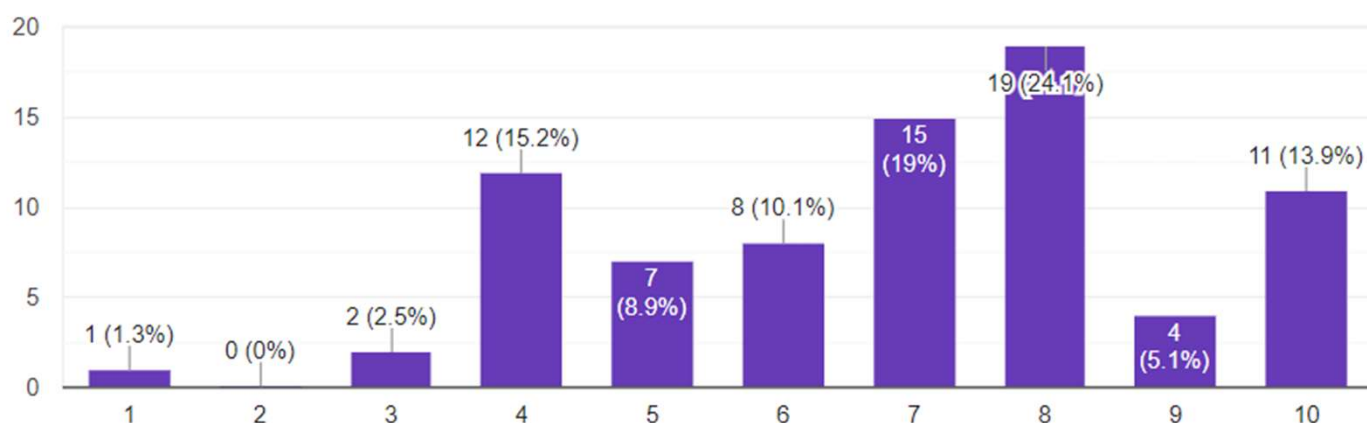
#### 事業実施前

(6)観光によって地元を元気にする取り組みを考える時、自分の地元が好きになり、誇りを感じられますか？



#### 事業実施後

(6)この半年の学習を通じて、観光によって地元を元気にする取り組みを考える時、自分の地元が好きになり、誇りを感じられますか？



#### 【分析】

設問（6）に関して、事業取り組み前後の生徒の意識変化については、第1回、第2回それぞれの記述回答を集約すると次のとおりとなる。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

(6)で、10段階で10～5と答えた方は、なぜそのように感じたか理由を記入して下さい。

〔記述式回答の要約〕

第1回のアンケートでは、二セコ地域の生徒からは、「地元の魅力を調べていくにつれ、どんどん可能性を感じていった」「地元の魅力がより明確になり、その魅力をいろいろな人に伝えることができると思うと、地元を誇りを感じる」など、二セコの魅力に気づいたり、新たに見出したりした様子が見られた。また、「授業を通して文化的サステナビリティについて学んだときにもっと町のイベントに積極的に参加しようと思った」というような、自ら行動に移す意欲を見せる生徒もいた。さらには、「二セコ町の魅力はそれぞれ観光地の力もあるが、何より町民の人のシビックプライドの高さにあると思う」というように、既に地域観光や郷土愛などへの関心と知識が高いことをうかがわせる回答もあった。

その他2地域の生徒たちからは、地元の自然の豊かさを改めて実感する回答や、地元の人々の優しさや温かさを地域の特徴として挙げるなど、共通する回答が複数あった。また、二セコの生徒と同様、「今まで知らなかった地元の魅力を知ることができたから」というように、観光によって地元を元気にするということを考えることで、地元の魅力や良さを再認識するきっかけとなり、それにより誇りを持ったという回答が多く見られた。

第2回のアンケートでは、「三年間二セコ町で観光を学んで二セコのポテンシャルをとて大きく感じることができました」「調べれば調べるほど二セコ町の魅力を知ることができ、さらに二セコ町のことが好きになれたから」など、地元の魅力を再認識するとともに、そのさらなる可能性を実感した様子が伝わる回答がいくつか見られた。また、地元の魅力を再発見・再認識したという生徒の数も第1回アンケートよりも大きく増加している。「地元が嫌いで興味がなかったため、地元の魅力に気づけなかったが、この半年の観光の授業を通じて、地元の魅力に触れる機会が増えて、魅力を再発見できた」というような、「田舎な地元が嫌い」あるいは「あまり魅力を感じなかった」というネガティブな印象だったが、地元の魅力を再認識した例も二セコ地域と島田地域に1名ずついた。

また、第1回では見られなかった「魅力を多くの人に伝えたい」「ほかの地域の方に知ってもらいたい」という他者に伝えたいという思いを含めた回答もいくつか見られた。

そのほか、「企業の方や大学生、他地域の高校生など同い年の高校生から多くの経験を積んできた大人の方まで幅広く交流することができ、自分自身の考え方が周りから見るとどのように見えるかを知ることができた」という、体験的学習の経験から学んだことを記す生徒もいた。

なお、どの地域の生徒にも言えることとして、たとえば10を付ける生徒と7を付ける生徒で回答はほぼ同内容である例もいくつか見られるなど、10段階で回答するもののその段階の認識には違いが見られた。

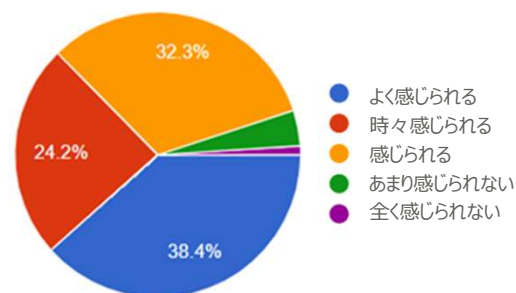
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

#### 事業実施前

(7)観光によって地元が元気になるために、地元の様々な業種・立場の方々と協働する必要があると感じますか？

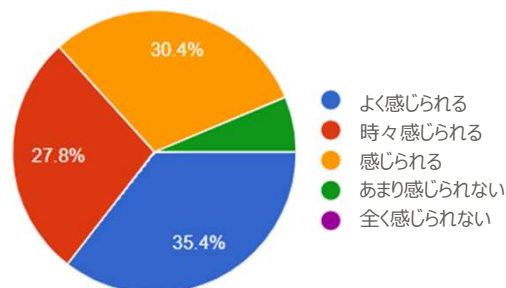
	ニセコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく感じられる	12	3	23	38	38.4%
時々感じられる	3		21	24	24.2%
感じられる		1	31	32	32.3%
あまり感じられない		1	3	4	4.0%
全く感じられない			1	1	1.0%
	15	5	79	99	



#### 事業実施後

(7)この半年の学習を通じて、観光によって地元が元気になるために、地元の様々な業種・立場の方々と協働する必要があると感じますか？

	ニセコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく感じられる	15	4	9	28	35.4%
時々感じられる		1	21	22	27.8%
感じられる			24	24	30.4%
あまり感じられない			5	5	6.3%
全く感じられない				0	0.0%
	15	5	59	79	



#### 【分析】

ニセコと釜石地域で生徒の意識向上を示した。島田地域は、「よく感じられる」と答えた生徒数が大幅に減少しているように見えるが、アンケート対象生徒数が20名減っていることを鑑み、さらに、「感じられる」「時々感じられる」「よく感じられる」を一括りに捉えると、9割以上が「地元の様々な業種・立場の方々と協働する必要性」を以前から感じていたことがわかる。

一方で、必要性を感じながらも行動に移せない場合もあるため、学習カリキュラムや課外授業にて「協働」のやり方などを実体験できる教育プログラムがあると良い。

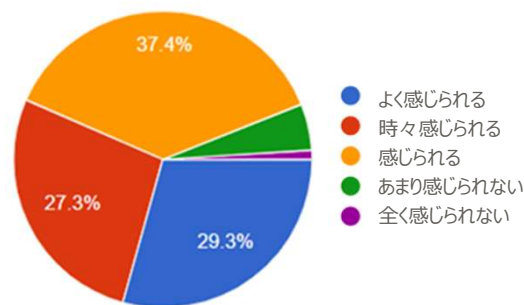
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

#### 事業実施前

(8)学校の授業の一環として、観光によって自分の地元が元気になることを学ぶことに意義を感じられますか？

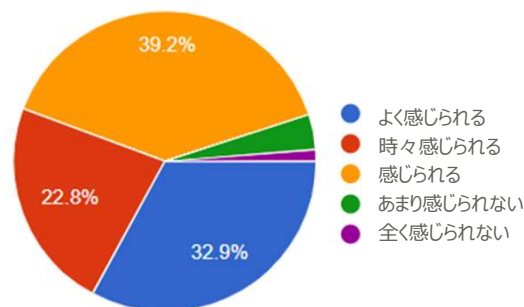
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく感じられる	13	3	13	29	29.3%
時々感じられる	1		26	27	27.3%
感じられる	1	1	35	37	37.4%
あまり感じられない		1	4	5	5.1%
全く感じられない			1	1	1.0%
	15	5	79	99	



#### 事業実施後

(8)この半年の学習を通じて、学校の授業の一環として、観光によって自分の地元が元気になることを学ぶことに意義を感じられますか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく感じられる	14	4	8	26	32.9%
時々感じられる	1	1	16	18	22.8%
感じられる			31	31	39.2%
あまり感じられない			3	3	3.8%
全く感じられない			1	1	1.3%
	15	5	59	79	



#### 【分析】

第1回の調査時点で、地元が元気になることの意義を「全く感じない」「あまり感じない」と答えた生徒は3地域合わせて全体の6%しかいなかったことから、もとより地元地域への愛着があり、観光振興によって地元を元気にしたいとの思いを大半の生徒がもっていたことがわかる。

地元を元気にするための観光振興に生徒により積極的に参加してもらう為には、産・学・官が連携の上、地域が実施する観光振興施策を教育プログラム化し、施策の立案から実施、効果検証までを実体験させることも有効であると考えられる。



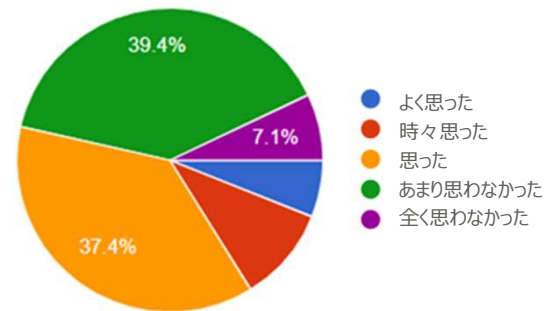
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

#### 事業実施前

(9)自分の地元が観光によって元気になることを考えた時、将来、大学や専門学校等に進学して、観光関連の学業をさらに学びたいと思いましたか？

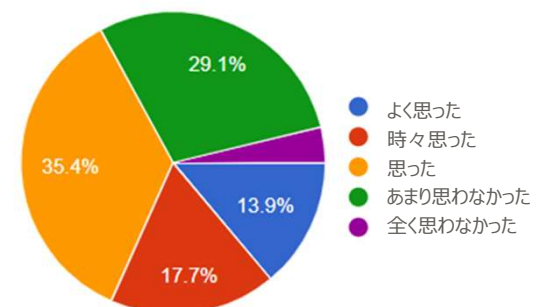
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく思った	5	1		6	6.1%
時々思った	4		6	10	10.1%
思った	4	1	32	37	37.4%
あまり思わなかった	1	3	35	39	39.4%
全く思わなかった	1		6	7	7.1%
	15	5	79	99	



#### 事業実施後

(9)この半年の学習を通じて、自分の地元が観光によって元気になることを考えた時、将来、大学や専門学校等に進学して、観光関連の学業をさらに学びたいと思いましたか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく思った	8	1	2	11	13.9%
時々思った	3	1	10	14	17.7%
思った	3	2	23	28	35.4%
あまり思わなかった	1	1	21	23	29.1%
全く思わなかった			3	3	3.8%
	15	5	59	79	



#### 【分析】

この設問に対しては回答にばらつきが多く見られるが、「よく思った」「時々思った」「思った」との回答を合わせて比較すると、第1回の調査時の53.6%から第2回調査では67.1%と大幅に増加している。このことから、半年間の学習を通して、生徒が観光関連分野への進学を積極的に考えるようになったことがうかがえる。

ただし、「あまり思わなかった」「全く思わなかった」の回答もみられるため、観光業界への興味を喚起するための、観光業そのもののプロモーションも必要であると考えます。

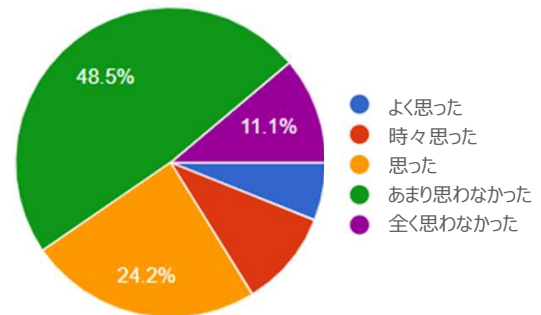
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

#### 事業実施前

(10)自分の地元が観光によって元気になることを考えた時、将来、観光関連の職業に就きたいと思いましたか？

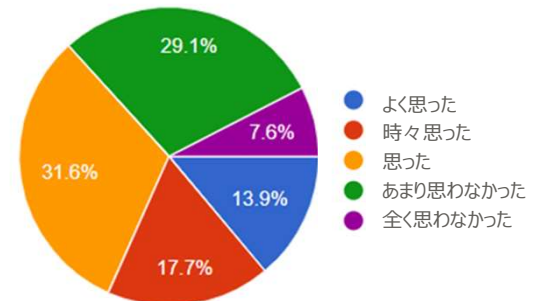
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく思った	5	1		6	6.1%
時々思った	4	1	5	10	10.1%
思った	4	0	20	24	24.2%
あまり思わなかった	2	3	43	48	48.5%
全く思わなかった			11	11	11.1%
	15	5	79	99	



#### 事業実施後

(10)この半年の学習を通じて、自分の地元が観光によって元気になることを考えた時、将来、観光関連の職業に就きたいと思いましたか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく思った	9	1	1	11	13.9%
時々思った	4	2	8	14	17.7%
思った	2	1	22	25	31.6%
あまり思わなかった		1	22	23	29.1%
全く思わなかった			6	6	7.6%
	15	5	59	79	



#### 【分析】

設問9の見方と同様に、観光関連の職業に就きたいと前向きに思う生徒の割合は、観光教育を重ねた後で増加している。設問9の進学よりもこの設問にある就職のほうが、生徒にとってはもともと縁遠く感じていたことが示されているが、観光教育実施後の増加幅は進学よりも著しい。

一方で、「あまり思わなかった」、「全く思わなかった」という回答もあるが、観光関連の職業も多岐にわたるため、旅行業、宿泊業、飲食業、観光施設等、業種の細分化を行ったうえでのヒアリングも必要であると考えられる。

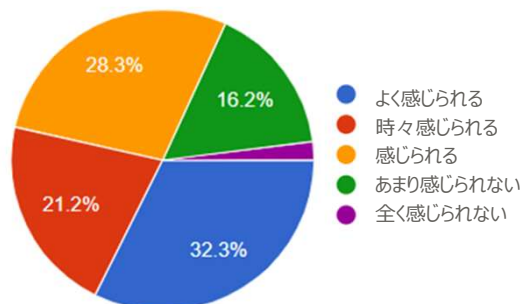
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

#### 事業実施前

#### (11)自分の地元が元気になることについて、観光（産業）は必要だと考えますか？

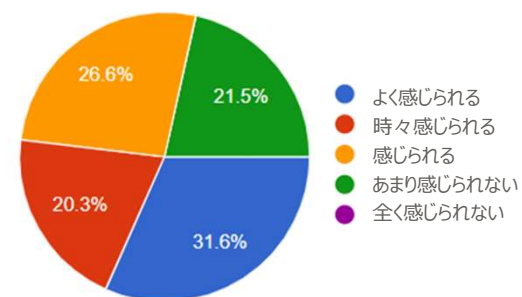
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく考える	11	2	19	32	32.3%
時々考える	2		19	21	21.2%
考える	1	1	26	28	28.3%
あまり考えない	1		15	16	16.2%
全く考えない		2		2	2.0%
	15	5	79	99	



#### 事業実施後

#### (11)この半年の学習を通じて、自分の地元が元気になることについて、観光（産業）は必要だと考えますか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく考える	13	3	9	25	31.6%
時々考える	1	1	14	16	20.3%
考える	1	1	20	22	27.8%
あまり考えない			16	16	20.3%
全く考えない				0	0.0%
	15	5	59	79	



設問（11）に関して、事業取り組み前後の生徒の意識変化については、第1回、第2回それぞれの記述回答を集約すると次のとおりとなる。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

**(11)で、よく考える・時々考える・考える と答えた方は、なぜそのように答えたか理由を記入して下さい。**

〔記述式回答の要約〕

生徒に対して観光産業の必要性を問うこの設問では、第1回のアンケートで既に観光の必要性を認める回答が多く見られ、「地域の経済を潤す方法として観光はとても必要だと感じるから」「釜石目的で来る人がいることで地元経済が潤うと思ったから」「地元の人以外でも経済を回す必要があると思うから」など、3つの地域でそれぞれ観光の経済効果に触れている回答が複数見られた。

そのほか、「観光が盛んになることで、より自分の地元が発展」「たくさんの方が観光に売ることでもちも元気になる」「観光客が増えれば地域の活性化につながると思ったから」など、地域の活性化や活気をもたらすものとして必要性を感じている生徒や、「少子高齢化」や「過疎化」との言葉を使って回答する生徒が島田地域に5名いた。一方で、地元地域に対する思いだけでなく、「地域の魅力をいろいろな人に知ってもらいたい」という主旨の回答も島田地域に5名ほどあった。

また、地元が観光失くしては成り立たないと感じている様子が見える回答として、「ニセコ町は観光と農業で成り立っている町なので」「観光客のおかげでSLや商業施設が成り立っているから」「観光がないと地元が元気がならないと思ったから」「観光がなければ魅力がなくなるから」「観光がないと島田市はやっていけないと思う」というような、観光の必要性を認識している生徒が複数見られた。

半年間の学習に取り組んだ第2回アンケートの結果でも、第1回と大きく変わらず観光はプラスの影響をもたらすものとしての認識を表す回答がほとんどを占める中で、第1回よりもはっきりとその必要性を表す傾向が見られた。例えば、「地元を活性化させていくためにはやはり観光が一番わかりやすく伝わりやすいかなと感じた」「観光客の増加によって地域が活性化されると思ったから」「観光があることで地元が活性化されると思った」などは、その顕著な例といえる。

その他、「観光があるからこそ地元の人たちも地域の良さを知ることができるから」「地元の人にも知ってもらいたいし、他県の人にも地域の魅力を知ってもらいたいから」「観光を盛り上げることで地元住民自身も地域の魅力を再確認することができてよいと思うから」というように、おそらく生徒自身がこの半年間の学習を通して感じたであろう、自分の地域の良さを地元民は意外と知らない、ということに対する思いが込められたと思われる回答もいくつか見られた。

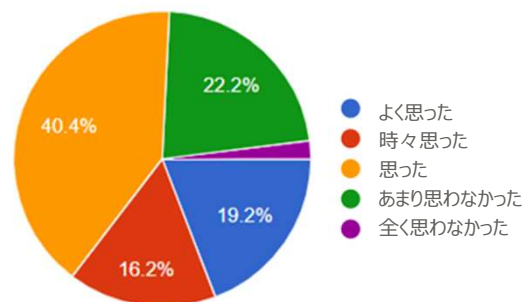
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

#### 事業実施前

(12)自分の地元が元気になる観光（産業）の発展のために自身も行動したいと思いましたが？

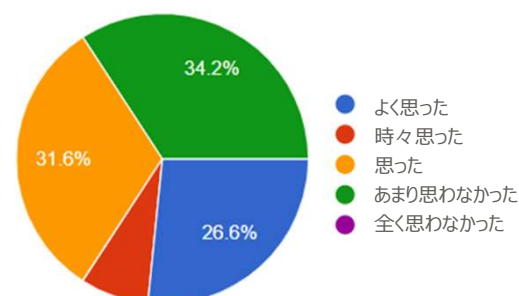
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく思った	9	3	7	19	19.2%
時々思った	3		13	16	16.2%
思った	2	1	37	40	40.4%
あまり思わなかった	1	1	20	22	22.2%
全く思わなかった			2	2	2.0%
	15	5	79	99	



#### 事業実施後

(12)この半年の学習を通じて、自分の地元が元気になる観光（産業）の発展のために自身も行動したいと思いましたが？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく思った	12	4	5	21	26.6%
時々思った	1	1	4	6	7.6%
思った	2		23	25	31.6%
あまり思わなかった			27	27	34.2%
全く思わなかった			0	0	0.0%
	15	5	59	79	



設問（12）に関して、事業取り組み前後の生徒の意識変化については、第1回、第2回それぞれの記述回答を集約すると次のとおりとなる。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

**(12)で、よく思った・ほぼ思った・思った（よく思った・時々思った・思った） と答えた方は、なぜ、そのように答えたか理由を記入して下さい。**

〔 記述式回答の要約 〕

生徒自身も観光または観光産業のために行動したいと思う理由を記述式で答える設問に対して、第1回アンケートでは、「地元貢献したい」「自分が地元を盛り上げたい」「地域を元気にしたい」という思いを表す生徒が多く見られた。また、「地元の良さを知ってほしいから」という地元の魅力発信を理由とする生徒も複数名いた。この記述式回答の前段の設問で「あまり思わなかった」との回答が地域内で45%程度あった島田地域の生徒たちも、「思った」「時々思った」「よく思った」と答えた生徒たちは、総じて観光のために自身も行動することに意欲的な姿勢がうかがえた。「地元が元気になるのはとても嬉しいから」「地元が活性化されたら嬉しいから」「地元が好きだから力になりたい」という、郷土愛を表す回答もいくつか見られた。「自分も活動することで、自分の考える観光の発展した姿に近づけることができるかなと思ったから」「高校生という肩書があるのでそれを利用することで、より新しいアイデアを生み出せると思ったから」「自分自身で行動して発展を実感したいから」といった、クリエイティブな発想による回答もあった。

第2回アンケートでは、「自分自身が観光に関するプロジェクトに参加したことで、観光業への興味関心が芽生えたから」「この授業で学び得た地元についての知識を地元で貢献できるのは、とてもうれしいと感じたから」など、本事業の学習を経て自身が行動することへの思いを抱いた生徒がいた。また、「沢山の課題と解決策を自分の中で見つけて、それを解決したいという目標があるから」「地域の魅力に改めて気づいて、さらに課題について話し合うことがあり解決していきたいと思った」など、学習を通じて地元地域の課題を見出し、解決に向けて行動しようとする姿勢が醸成されたことがうかがえた。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（生徒向け）

**(13) これから観光によって地元が元気になるかということを知り、取り組むことについて意見・感想を記入して下さい。（第1回アンケート）**

**(13)この半年の学習を通じて、観光によって地元が元気になるかということを知り、取り組んだことについて、特に印象に残った学び、自分にどのような変化があったか、疑問点、やり残したこと、今後どう生かしていきたいか等々、意見や感想を記入して下さい。（第2回アンケート）**

〔記述式回答の要約〕

今回の学習を実践前の印象を問う第1回アンケートでは、「もっとニセコ町の価値を沢山の人の人知ってもらいたいのので学ぶのが楽しみ」「観光により地域活性化などにも繋がると思うし、街の魅力なども発信していけると思う」「積極的に観光について学んで、地域を明るくしてみたい」「マーケティングの学びを活かしながら色々な方たちの意見に基づいた活動をしていきたい」「たくさんの観光客に来てもらえるように、授業を通して具体的に考えていきたい」といった、これから取り組む学びに対する意欲や期待に溢れた回答が多数見られた。

また、「これからの地元の観光について学び、取り組むことによって自分自身がシビックプライドを持つことができるからとてもいいと思うし、それによって地元ために活動しようと思う気持ちを抱くことができるから自分のスキルをのぼすという点でもとても効果的な活動だと思う」「自分たちが考えたアイデアが採用され、地元がよりよく活性化される取り組みをしているので、いいアイデアを出せるように頑張りたい」など、既に学んできた観光に関する知識や経験を踏まえて、より深く学ぼうという姿勢を示す生徒もいた。

一方、実践後の第2回アンケートでは、「観光について学ぶことができ、地元について見直すきっかけになった」「今まで全く知らない地元の魅力がたくさん見えてきて、ようやく地元の魅力について正しく知ることができた」「観光の学習や実習を通して、新たに生まれた疑問や、観光の授業を通して新たに知れたことがたくさんあり、地域と交流も深くかわることができた」など、観光を学ぶ中で地元の魅力を再認識したことを示す回答がいくつか見られた。また、「これからも地元の魅力についてもっと理解を深め、そしてその魅力を他の人にも伝えていきたい」「あまり地元のイベントとかに参加することがなかったから、地元を元気にしていくために積極的に参加していきたい」「ボランティア活動やイベントごとにも積極的に参加していきたい」「実際に体験してみたり、様々なお話をきいて、もっと深くまで知りたいことが沢山あったし、釜石をより良くするために行動したいと思った」など、学習を通して地域の観光に積極的に関わろうとする意欲を見せる回答も複数あった。

さらには、地域の方とのワークショップで様々な人と深く話をする経験を通して、自分にはない考え方に触れ、多面から考えることの大切さを知った生徒や、「ひとつのことを企画するにも、たくさんのことを調べ、問題点などを出すなど様々な面から考えなくてはならないことを知った」というような、企画立案の実践から観光に留まらないキャリアスキルに触れたことを回答に挙げる生徒もいた。

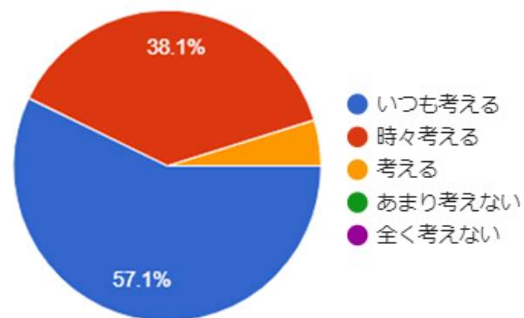
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

#### 事業実施前

#### (1) 自分の地域の観光面での魅力はどのようなものがあるか、考えることがありますか？

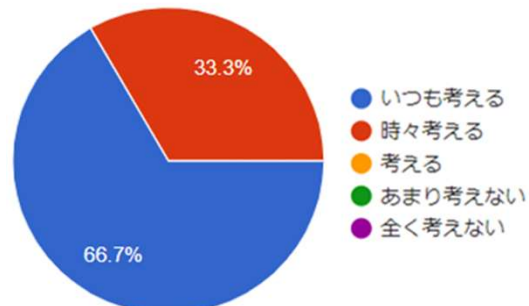
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	6	4	2	12	57.1%
時々考える	2	4	2	8	38.1%
考える		1		1	4.8%
あまり考えない				0	0.0%
全く考えない				0	0.0%
	8	9	4	21	



#### 事業実施後

#### (1) この半年の事業を通じて、自分の地域の観光面での魅力はどのようなものがあるか、考えることがありますか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	7	2	3	12	66.7%
時々考える	2	3	1	6	33.3%
考える				0	0.0%
あまり考えない				0	0.0%
全く考えない				0	0.0%
	9	5	4	18	



#### 【分析】

第1回調査結果にも表れているように、3地域とも元より観光に対する意識を持っている回答者を対象とするアンケートということもあるが、第2回の調査で「いつも考える」との回答の3地域合計割合が前回より9.6ポイント増えたことから、観光教育に関わる中で地元観光に対する意識が醸成され、以前より積極的に考えるようになったことがうかがえる。

生徒側に指導する側に立場としては、大人の側も常にモチベーションをもって地域の観光振興に携わる姿勢が重要である。



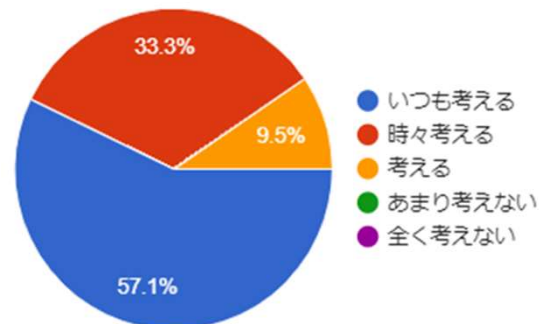
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

#### 事業実施前

#### (2)自分の地元での観光面の課題について考えることができますか？

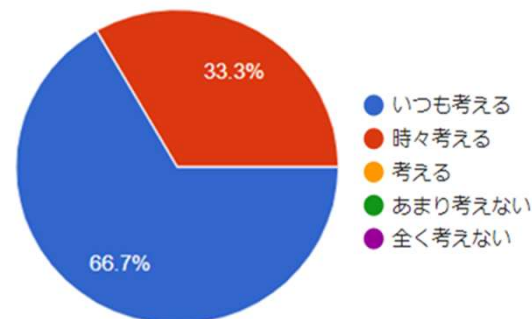
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	6	4	2	12	57.1%
時々考える	2	4	1	7	33.3%
考える		1	1	2	9.5%
あまり考えない				0	0.0%
全く考えない				0	0.0%
	8	9	4	21	



#### 事業実施後

#### (2)この半年の事業を通じて、自分の地元での観光面の課題について考えることができますか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	7	2	3	12	66.7%
時々考える	2	3	1	6	33.3%
考える				0	0.0%
あまり考えない				0	0.0%
全く考えない				0	0.0%
	9	5	4	18	



#### 【分析】

設問1の結果と同様に、観光に対する意識醸成の結果が表れている。元よりアンケート対象者数が多くはない中、第1回より第2回が3名少ないため、単純比較はできないが、観光教育に関わる中で総じて地元観光の課題に対する底上げが行われたことが見て取れる。

課題の抽出のみならず、その課題をどう解決していくか、というソリューションを産・学・官の横連携により、検証することも必要であり、そうしたプロセスを教育の現場に落とし込むことで、地域課題を解決する観光人材の育成につながるものと考えられる。

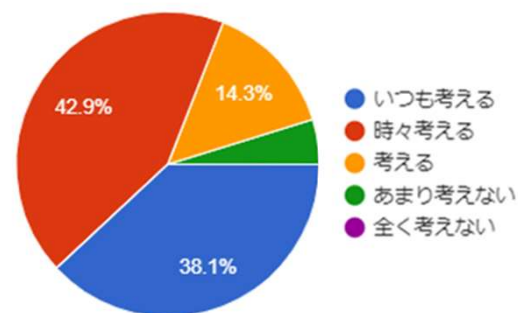
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

#### 事業実施前

(3)自分の地域の魅力を「地域外からの日本人旅行者」「外国人旅行者」「学校の団体行事」「イベント等を開催する方々」等の様々な立場として考えることができますか？

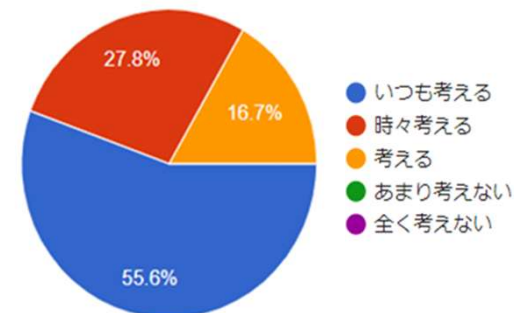
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	4	3	1	8	38.1%
時々考える	3	3	3	9	42.9%
考える	1	2		3	14.3%
あまり考えない		1		1	4.8%
全く考えない				0	0.0%
	8	9	4	21	



#### 事業実施後

(3)この半年の事業を通じて、自分の地域の魅力を「地域外からの日本人旅行者」「外国人旅行者」「学校の団体行事」「イベント等を開催する方々」等の様々な立場として考えることができますか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	6	2	2	10	55.6%
時々考える	3	1	1	5	27.8%
考える		2	1	3	16.7%
あまり考えない				0	0.0%
全く考えない				0	0.0%
	9	5	4	18	



#### 【分析】

「いつも考える」との回答が第1回より第2回が17.5ポイント増加しており、第1回に「あまり考えない」との回答が釜石地域で1名あったが、第2回では消極的な回答者はいなかった。

地域での取り組みを通して、様々な目線で客観的に地域を見ることの重要性を認識した結果だといえる。

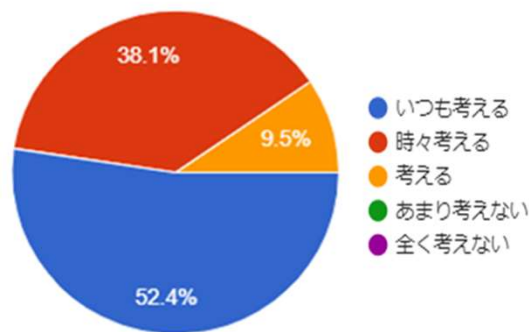
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

#### 事業実施前

(4)自分の地元が観光により元気になるために、自分に何が出来るかを考えることがありますか？

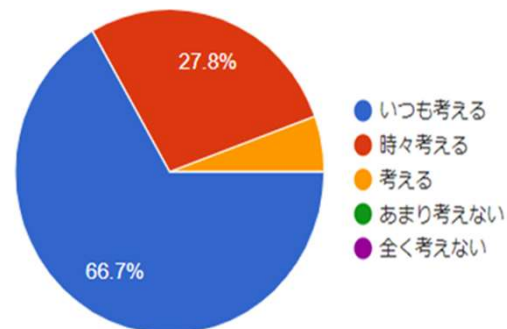
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	5	4	2	11	52.4%
時々考える	3	3	2	8	38.1%
考える		2		2	9.5%
あまり考えない				0	0.0%
全く考えない				0	0.0%
	8	9	4	21	



#### 事業実施後

(4)この半年の事業を通じて、自分の地元が観光により元気になるために、自分に何が出来るかを考えることがありますか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	7	3	2	12	66.7%
時々考える	2	1	2	5	27.8%
考える		1		1	5.6%
あまり考えない				0	0.0%
全く考えない				0	0.0%
	9	5	4	18	



#### 【分析】

元より地元観光への貢献について意識が高い結果が第1回調査で出ている中、第2回調査では若干変化が見られるものの、ほぼ同様の結果となっている。

これは、地域の関係者が常に自地域をより良い地域にしていきたいというモチベーションの表れであり、観光教育推進モデルの先進地域として、引き続き、他の地域への横展開を図っていくことが重要である。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

#### 事業実施前

(5)観光に活かすことが出来る地元の魅力はどのようなものがあると思いますか？ 複数選択でも可。その他がある場合はお書きください。

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
郷土料理、グルメ	6	7	1	14	66.7%
自然、風景	7	9	4	20	95.2%
遺跡や史跡		6	4	10	47.6%
伝統文化、工芸		3	4	7	33.3%
寺社仏閣		2		2	9.5%
入場施設	2	2	1	5	23.8%
体験アクティビティ	7	9	2	18	85.7%
地場産業	3	6	2	11	52.4%
祭り、イベント	3	6	3	12	57.1%
歴史、伝統	1	5	2	8	38.1%
交通事業者	1	3	2	6	28.6%
宿泊施設	7	2		9	42.9%
買い物	3	0	1	4	19.0%
温泉	8	0	4	12	57.1%
地域住民との交流	7	5		12	57.1%
その他：震災学習		1		1	4.8%

#### 事業実施後

(5)この半年の事業を通じて、観光に活かすことが出来る地元の魅力はどのようなものがあると思いますか？ 複数選択でも可。その他がある場合はお書きください。

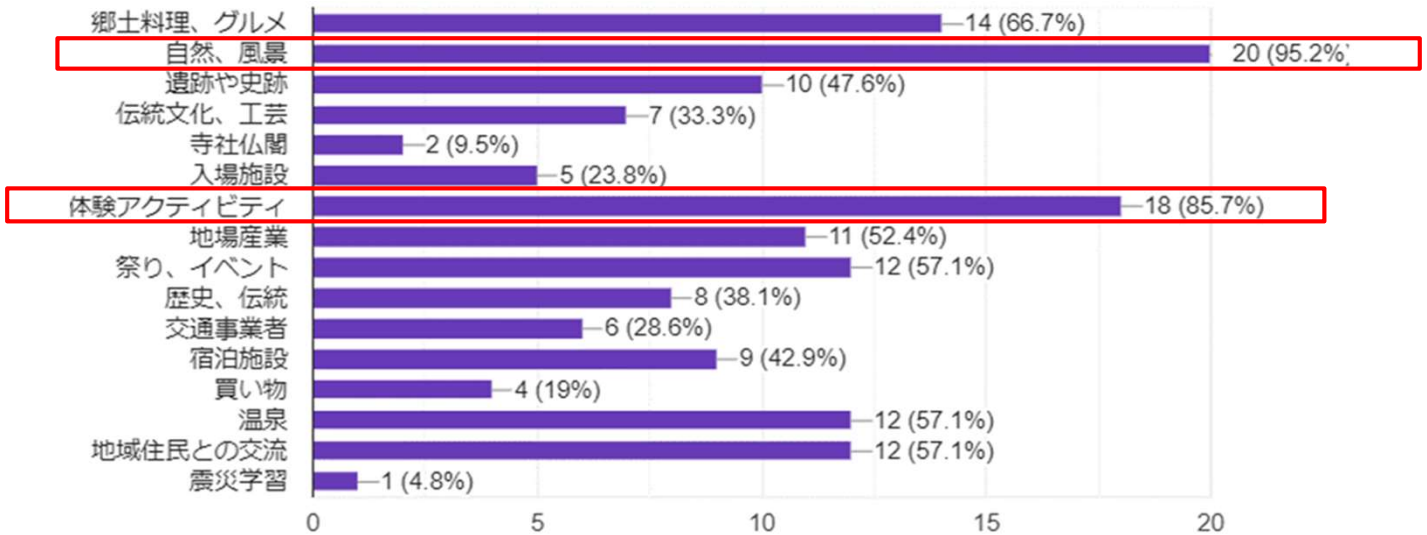
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
郷土料理、グルメ	5	4	2	11	61.1%
自然、風景	7	5	4	16	88.9%
遺跡や史跡		4	4	8	44.4%
伝統文化、工芸		3	4	7	38.9%
寺社仏閣		1	1	2	11.1%
入場施設	2	2		4	22.2%
体験アクティビティ	7	5	3	15	83.3%
地場産業	2	3	2	7	38.9%
祭り、イベント	2	3	4	9	50.0%
歴史、伝統	1	3	2	6	33.3%
交通事業者	3	2	2	7	38.9%
宿泊施設	5	3	1	9	50.0%
買い物	1		1	2	11.1%
温泉	6		4	10	55.6%
地域住民との交流	5	5	2	12	66.7%
その他：震災学習		1		1	5.6%
防災学習(医療含む)		1		1	5.6%
二セコ高校観光学科の取組	1			1	5.6%
持続可能な観光を推進するまちづくり	1			1	5.6%

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

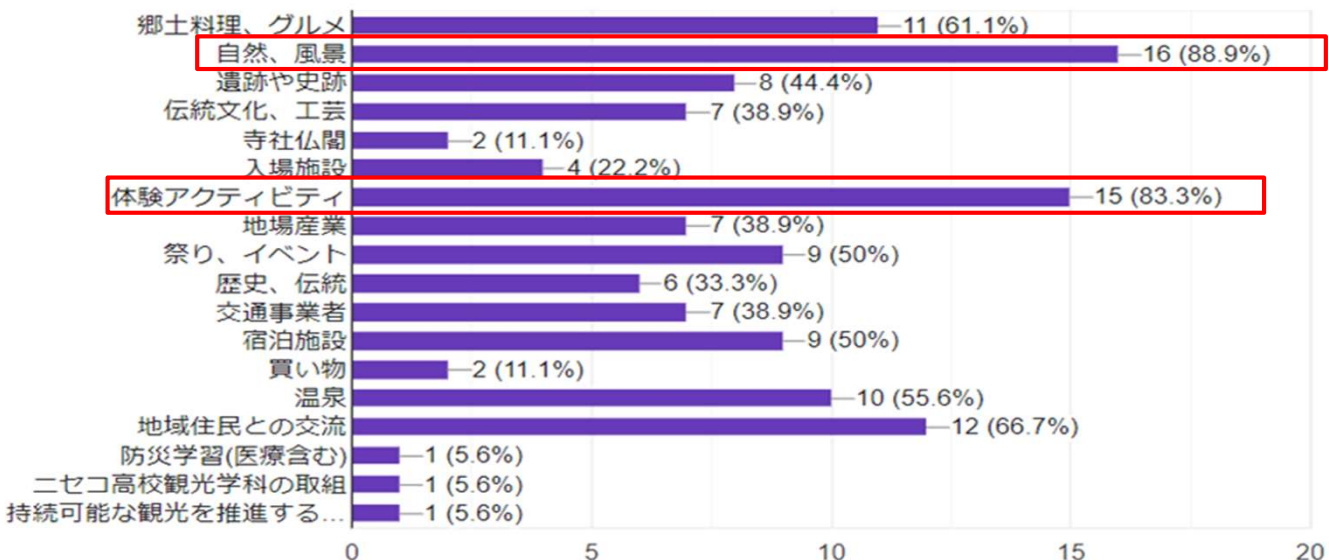
#### 事業実施前

(5)観光に活かすことが出来る地域の魅力はどのようなものがあると思いますか？ 複数選択でも可。その他がある場合はお書きください。



#### 事業実施後

(5)この半年の事業を通じて、観光に活かすことが出来る地域の魅力はどのようなものがあると思いますか？ 複数選択でも可。その他がある場合はお書きください。



#### 【分析】

調査対象者総数に第1回と第2回で多少差がある中での複数回答可の条件による回答では、回答数に大きな違いは見られなかった。記述式の「その他」の欄で、第2回調査の際に新たな観光の魅力が示された。

本事業での取り組みを通じて、地域の知られざる魅力を発見できたことは、本事業の成果の一つであるといえる。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

#### 事業実施前

(6) 観光によって地元を元気にする取り組みを考える時、自分の地元が好きになり、誇りを感じられますか？

10段階評価（10が最も高い評価）でお答えください。

10段階	二セコ地域	釜石地域	島田地域	3地域回答数	比率
10	3	1	1	5	23.8%
9		1	1	2	9.5%
8	2	2		4	19.0%
7	2	4	2	8	38.1%
6			0	0	0.0%
5	1			1	4.8%
4		1		1	4.8%
3			0	0	0.0%
2			0	0	0.0%
1			0	0	0.0%
回答者数	8	9	4	21	
地域ごとの平均値	8.13	7.44	8.25	7.86	

#### 事業実施後

(6)この半年の事業を通じて、観光によって地元を元気にする取り組みを考える時、自分の地元が好きになり、誇りを感じられますか？

10段階評価（10が最も高い評価）でお答えください。

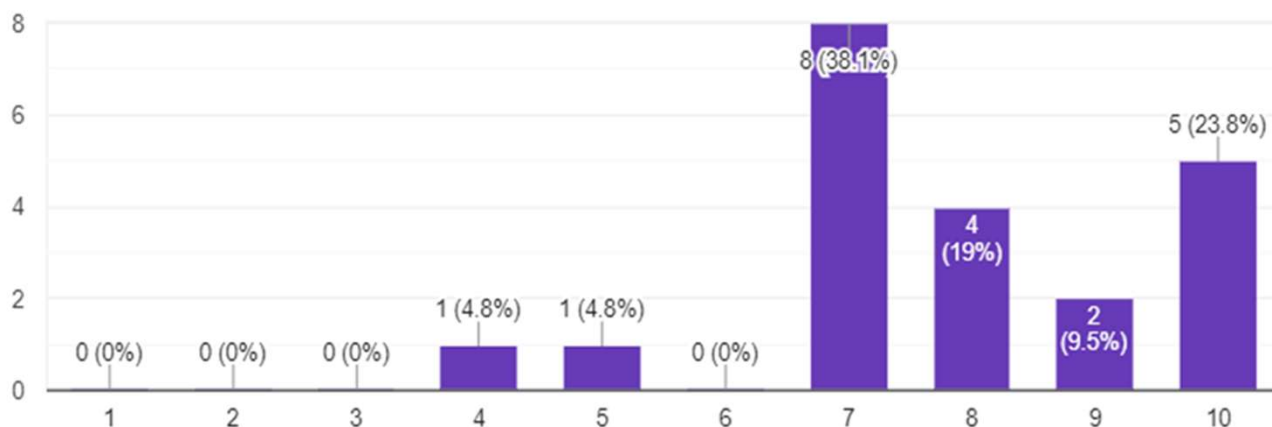
10段階	二セコ地域	釜石地域	島田地域	3地域回答数	比率
10	4	2	1	7	38.9%
9			3	3	16.7%
8	2			2	11.1%
7	1	3		4	22.2%
6	1			1	5.6%
5	1			1	5.6%
4				0	0.0%
3				0	0.0%
2				0	0.0%
1				0	0.0%
回答者数	9	5	4	18	
地域ごとの平均値		8.20	9.25	4.33	

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

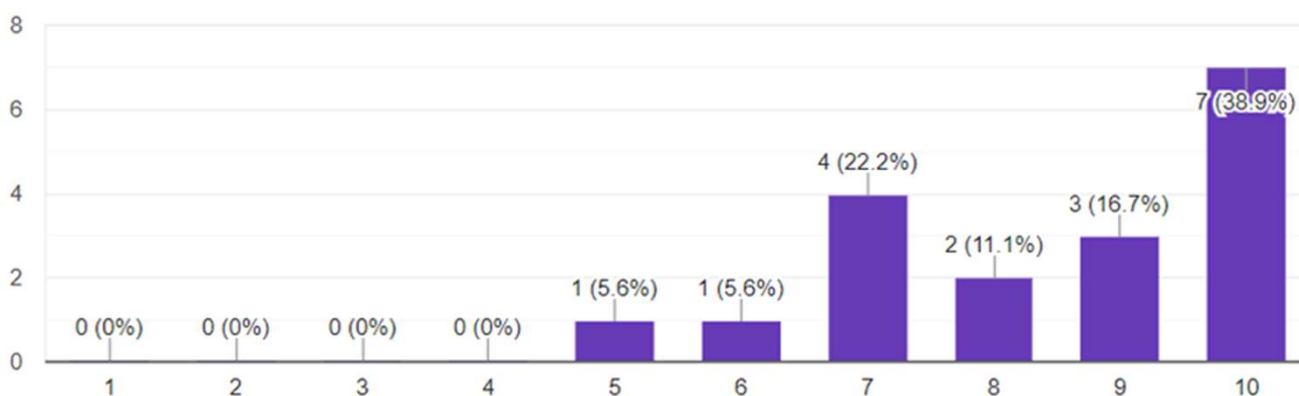
#### 事業実施前

(6)観光によって地元を元気にする取り組みを考える時、自分の地元が好きになり、誇りを感じられますか？10段階評価（10が最も高い評価）でお答えください。



#### 事業実施後

(6)この半年の学習を通じて、観光によって地元を元気にする取り組みを考える時、自分の地元が好きになり、誇りを感じられますか？



設問（6）に関して、事業取り組み前後の地域関係者の意識変化について第1回、第2回それぞれの記述回答を集約すると次のとおりとなる。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

**10段階で10～5 と答えた方は、なぜそのように感じたか理由を記入して下さい。**

〔記述式回答の要約〕

第1回アンケートの「観光によって地元を元気にする取り組みを考える時、自分の地元が好きになり、誇りを感じられますか?」という設問に関する記述式回答では、「地元が元気になることで地域の活性化や賑わいの創出につながり、地元に対する愛着度の向上、当地に暮らしていることへの誇りにつながるものと感じるから」「各観光施策は、持続可能な地域づくりに不可欠であると考えており、各施策の成功は地域づくりに貢献していると感じられるため」など、観光がもたらす効果や影響を理由とする例が見られた。

また、「地域と連携し、取り組むことが楽しいと感じるから」「魅力的な資源が多く、いろいろなイベントを企画しやすいため、考える側・参加する側どちらの視点からも楽しめるため」など、観光によって地元を元気にする取り組みそのものに意義を見出している回答もあった。

ほかには、「純然たる地元民ではないが、自然や産業面で魅力がある。潜在能力があると思えるから」「地元地域の方々が自分の地元を好きで誇りを持っている姿を見て触発されたため」といった、地元出身者以外の関係者として、地域を好きになり、誇りに思う理由を回答する例も見られた。

第2回アンケートでは、「地域全体で観光教育を推進することにより、高校生だけではなく大人も共に考えるようになったため」「学生への観光教育プログラム提供を通じて、改めて釜石の地域資源・人の価値を再認識することができました」「様々な角度から魅力について考えることで、改めて深い理解ができたため」といった、生徒と共に自身も学んだことを表す回答があった。また、「この地域は、工業都市の面と自然が残る面があり、人口減少を逆手に取って何か仕掛けが出来るのではと感じる」「地域住民が地元の良さを知ることが出来ると良いおもてなしに繋がりリピーターが増えると思う」「既に観光としては盛り上がり、環境意識とニーズに見合った内容を展開することで何かゲームチェンジのようなソーシャルインパクトが与えられるのではないかとワクワク感から」本事業に半年間携わったことで、地域観光に対する期待感を新たに示す回答も見られた。



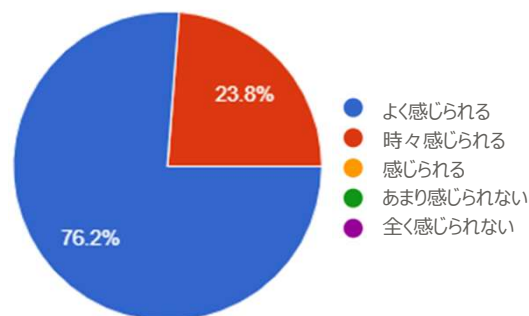
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

#### 事業実施前

(7)観光によって地元が元気になるために、地元の自治体、地域事業者、学校等が協働する必要があると感じますか？

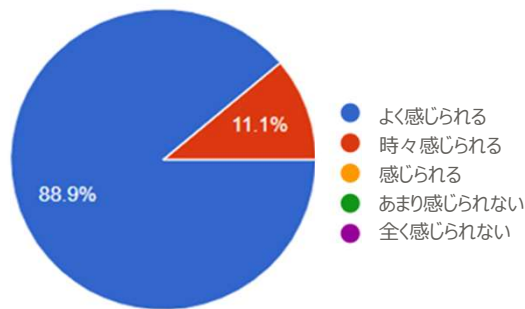
	ニセコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく感じられる	7	7	2	16	76.2%
時々感じられる	1	2	2	5	23.8%
感じられる				0	0.0%
あまり感じられない				0	0.0%
全く感じられない				0	0.0%
	8	9	4	21	



#### 事業実施後

(7)この半年の事業を通じて、観光によって地元が元気になるために、地元の自治体、地域事業者、学校等が協働する必要があると感じますか？

	ニセコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく感じられる	8	5	3	16	88.9%
時々感じられる	1		1	2	11.1%
感じられる				0	0.0%
あまり感じられない				0	0.0%
全く感じられない				0	0.0%
	9	5	4	18	



#### 【分析】

第1回調査より5つの選択肢のうち「よく感じられる」「ほぼ感じられる」の2つしか回答が見られず、観光において地元自治体と地域事業者、そして学校等の協働の必要性を感じている回答者で占められる中、「よく感じられる」との回答が第1回調査の76.2%から第2回調査ではほぼ9割となる88.9%を占め、観光教育に関わる中でその思いをより強めたことがうかがえる。

引き続き、観光に携わる地域内のステークホルダーの連携と、継続的な観光振興事業の実施が必要である。

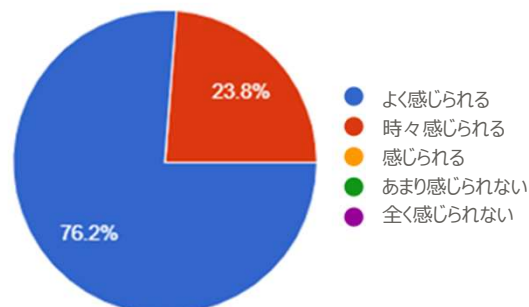
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

#### 事業実施前

(8)地域の学校の授業の一環として、観光によって生徒の地元が元気になることを学ばせることに意義を感じられますか？

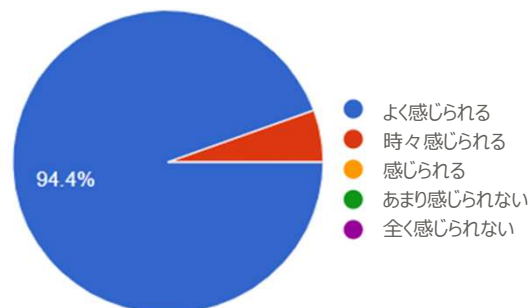
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく感じられる	7	6	3	16	76.2%
時々感じられる	1	3	1	5	23.8%
感じられる				0	0.0%
あまり感じられない				0	0.0%
全く感じられない				0	0.0%
	8	9	4	21	



#### 事業実施後

(8)この半年の事業を通じて、学校の授業の一環として、観光によって生徒の地元が元気になることを学ばせることに意義を感じられますか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく感じられる	8	5	4	17	94.4%
時々感じられる	1			1	5.6%
感じられる				0	0.0%
あまり感じられない				0	0.0%
全く感じられない				0	0.0%
	9	5	4	18	



#### 【分析】

この設問では、第1回調査より「よく感じられる」と「ほぼ感じられる」の2つに集中しつつも、前者は7割5分程度にとどまっていたが、第2回調査では9割5分が「よく感じられる」と回答している。観光教育に関わる中で、その意義の大きさを地域や支援者が実感した結果といえる。

この結果は、地域の関係者のモチベーションの高さがうかがえる。取り組みに参加した生徒が地域の観光素材とその魅力を発見し、その魅力を地域外に発信することで、域内における交流人口、関係人口の増加を図る好循環の仕組みづくりを続けていくことが重要である。

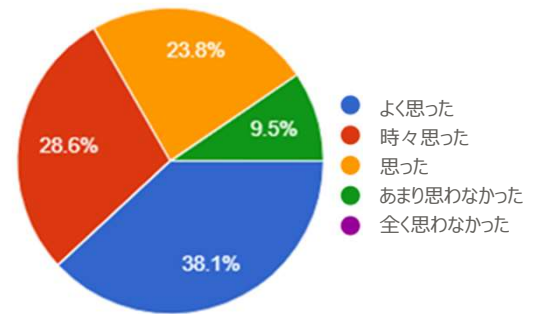
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

#### 事業実施前

(9)自分の地元が観光によって元気になることを考えた時、将来、大学や専門学校等に進学して、観光関連の学業をさらに学びたいと考える生徒が増えると思いますか？

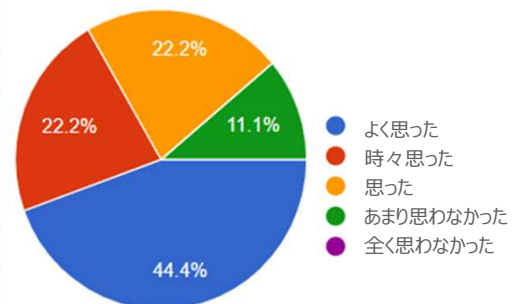
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく思った	5	3		8	38.1%
時々思った	2	2	2	6	28.6%
思った		3	2	5	23.8%
あまり思わなかった	1	1		2	9.5%
全く思わなかった				0	0.0%
	8	9	4	21	



#### 事業実施後

(9)この半年の事業を通じて、自分の地元が観光によって元気になることを考えた時、将来、大学や専門学校等に進学して、観光関連の学業をさらに学びたいと考える生徒が増えると思われましたか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく思った	4	3	1	8	44.4%
時々思った	1	1	2	4	22.2%
思った	3		1	4	22.2%
あまり思わなかった	1	1		2	11.1%
全く思わなかった				0	0.0%
	9	5	4	18	



#### 【分析】

この設問は、生徒向けアンケートの設問9と関連するものであるが、生徒たちが総じて観光関連の学業をさらに続けたいとの意欲を示す一方で、地域関係者側では「あまり思わなかった」の回答が2地域で見られるなど、やや相違が見られたことは興味深い。生徒とそれと関わる大人との間の認識の違いが浮き彫りになった結果ともいえる。

観光産業の良い面だけではなく、自然災害や戦乱によって業績が左右されるデメリットも含め、観光産業そのものの実態を知ってもらうことも必要であると考えます。

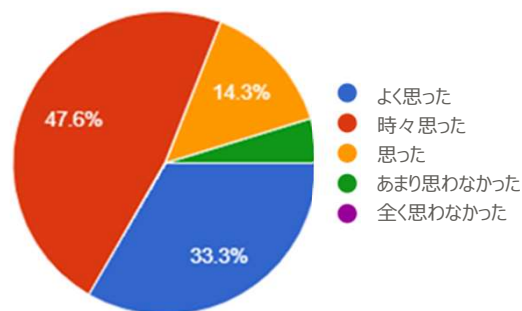
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

#### 事業実施前

(10)自分の地元が観光によって元気になることを考えた時、将来、観光関連の職業に就きたいと考える生徒が増えると思いますか？

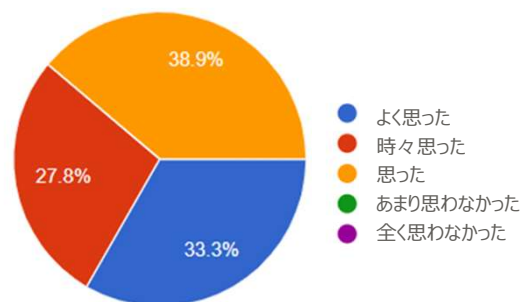
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく思った	4	2	1	7	33.3%
時々思った	3	6	1	10	47.6%
思った	1		2	3	14.3%
あまり思わなかった		1		1	4.8%
全く思わなかった				0	0.0%
	8	9	4	21	



#### 事業実施後

(10)この半年の事業を通じて、自分の地元が観光によって元気になることを考えた時、将来、観光関連の職業に就きたいと考える生徒が増えると思われましたか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく思った	3	2	1	6	33.3%
時々思った	2	1	2	5	27.8%
思った	4	2	1	7	38.9%
あまり思わなかった				0	0.0%
全く思わなかった				0	0.0%
	9	5	4	18	



#### 【分析】

設問9と同様に生徒向け質問と相関する内容であるが、生徒の回答と傾向の異なる結果となっており、それがより鮮明に表れている。生徒からは第1回調査より第2回調査で観光関連への就職に対して大幅に意欲の向上が見られた一方で、大人の関係者からは第2回調査の回答が第1回より総じて比較的低い評価になっている。

観光による地域活性化という良い面のみならず、一方で、オーバーツーリズム等の観光公害によって地域に不利益をもたらすケースもあり、観光業における清濁の両面を理解してもらうことも、観光教育には必要な要素であると考えられる。

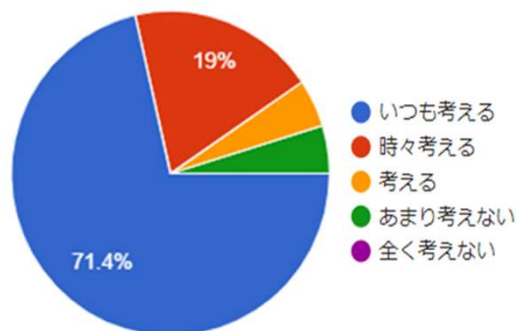
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

#### 事業実施前

#### (11)自分の地元が元気になることについて、観光（産業）は必要だと考えますか？

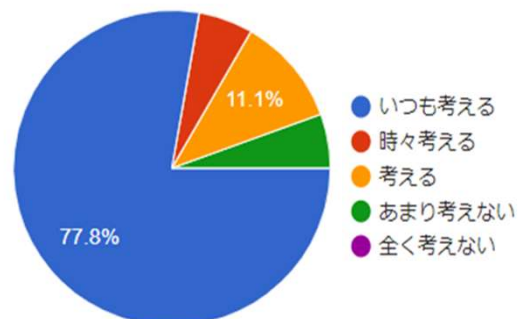
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	6	6	3	15	71.4%
時々考える	2	1	1	4	19.0%
考える		1		1	4.8%
あまり考えない		1		1	4.8%
全く考えない				0	0.0%
	8	9	4	21	



#### 事業実施後

#### (11)この半年の事業を通じて、自分の地元が元気になることについて、観光（産業）は必要だと考えますか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
いつも考える	6	4	4	14	77.8%
時々考える		1		1	5.6%
考える	2			2	11.1%
あまり考えない	1			1	5.6%
全く考えない				0	0.0%
	9	5	4	18	



設問（11）に関して、事業取り組み前後の地域関係者の意識変化について第1回、第2回それぞれの記述回答を集約すると次のとおりとなる。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

**(11)について、よく考える・時々考える・考える と答えた方は、なぜ、そのように答えたか理由を記入して下さい。**

〔記述式回答の要約〕

第1回アンケートでは、既に観光の重要性を認める回答が多く、「観光によって地域が活性化されるから」「観光（産業）は裾野が広く、様々な業種や業界とつながりがあるから」「伸び代がある業界だと考えるため」「地域経済を、地元人口だけではなく域外人口も含めて支えるために、その入り口にもなる観光は重要だから」など一定の効果に着目するものから、「固定人口の減少が避けられない中、観光産業の活性化は必須だと考えるから」「観光無しで、地元が元気になる事は現状考えづらいと思います」など、より重要視していることがうかがえる回答もあった。

第2回アンケートでは、概念的あるいは一般的な表現も散見された第1回と比べて、より具体的な事柄に触れている回答が増えた。「雇用の受け皿、域外からの消費喚起のために必要だと考えます」「DMCが行っていることを継続すると釜石の観光業はより発展すると考えるから」「特に宿泊業など、地元経済に影響が大きい。また飲食はペンション、体験事業など、個人起業の機会も多い」などの回答は、その代表例といえる。

ほかには、「地域の主産業であるから」「町にとって観光産業は大きな魅力を作り出すことが可能だから」「観光によって外部の方からのフィードバックをもらい、自己肯定感や地元の肯定感が高まるため」「地域の存続、発展には交流人口を増やすことが不可欠だと思うから」など、改めて観光が地元にもたらす影響が大きいことを表す様々な回答が出された。

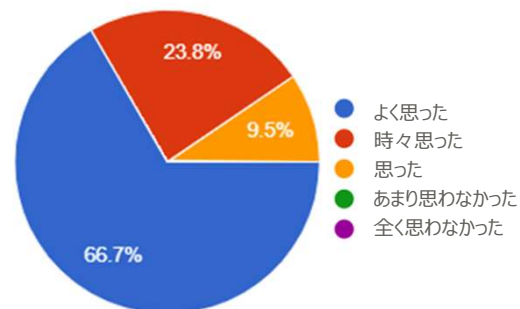
## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

#### 事業実施前

(12)自分の地元が元気になる観光（産業）の発展のために自身も行動したいと思いましたか？

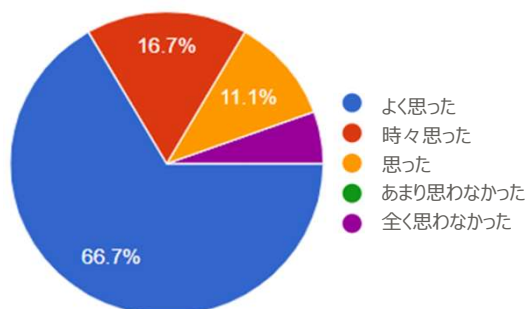
	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく思った	6	5	3	14	66.7%
時々思った	2	2	1	5	23.8%
思った		2		2	9.5%
あまり思わなかった				0	0.0%
全く思わなかった				0	0.0%
	8	9	4	21	



#### 事業実施後

(12)この半年の事業を通じて、自分の地元が元気になる観光（産業）の発展のために自身も行動したいと思いましたか？

	二セコ地域	釜石地域	島田地域	小計	比率
よく思った	6	3	3	12	66.7%
時々思った	1	1	1	3	16.7%
思った	2			2	11.1%
あまり思わなかった				0	0.0%
全く思わなかった		1		1	5.6%
	9	5	4	18	



設問（12）に関して、事業取り組み前後の地域関係者の意識変化について第1回、第2回それぞれの記述回答を集約すると次のとおりとなる。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

**(12)について、よく思った・時々思った・思った と答えた方は、なぜ、そのように答えたか理由を記入して下さい。**

〔記述式回答の要約〕

第1回アンケートの「自分の地元が元気になる観光（産業）の発展のために自身も行動したいと思う」理由を問う設問では、「生業であるから」「観光協会に勤めているため」「漁業体験を通して観光産業に携わっているため」「自身が国際観光認証取得に向けての活動をしているため」といった、既に職務や自身の活動に関わる中で行動している回答者が複数名いることがうかがえた。

ほかには、「地域の一員として取り組むことが重要だから」「持続可能な地域づくりに貢献したいため」「自分のできることを何かのために役立てたいと思ったから」「微力でもできることがあると思うから」「観光に限らず町を活気づける取り組みに興味関心があるから」など、社会貢献や地域おこしの精神で観光の発展に貢献したいとする回答も複数あった。さらには、経験に即した「東日本大震災からの復興に際しても、観光（産業）の力や地域に与える影響は大きいと感じたから」という答えも見られた。

一方で、第1回の回答では「役立てたいと思ったから」「関わることができると考えている」「貢献できれば」「行動することが必要」「取り組むことが重要」など漠然とした思いからくるであろう言葉が使われていたのに比べて、第2回アンケートの回答では「自ら積極的に携わりたい」「行動したい」「生徒が活躍できる環境を作っていきたい」など、明確な意思を表す言葉が目立った。また、「生徒」や「若い世代」、「教育」など、本事業に携わる中で高校生と交流し、教育に関わった経験からくると思われる言葉が散見された。

そのほか、第1回アンケート同様に観光に携わることで地域社会に貢献するという観点からうかがえる回答として、「行動することで、地域のことを知り、そのことで協働することで、豊かな社会が実現できると思いました」「観光を通じて地域の発展に協力したいから」「引き続き、持続可能な観光地づくりの必要性を地域の人々と考えていきたい」というような言葉が記された。



## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（自治体・地域事業者・教員など）

**(13) これから地域の様々な連携を経て、観光による地域の活性化を図り、取り組むことについて意見・感想を記入して下さい。（第1回アンケート）**

**(13)この半年の事業を通じて、地域の様々な連携を経て、観光による地域の活性化を図り、取り組んだことについて、特に印象に残った取り組み、自分にどのような変化があったか、疑問点、やり残したこと、今後はどう生かしていきたいか等々、意見や感想を記入して下さい。（第2回アンケート）**

〔 記述式回答の要約 〕

第1回アンケートでは、本事業に参加当初の時期に得られた回答として、「地域との協働は必要で、そのことにより持続可能な地域づくりができるようになる」と考える「観光はとりわけ、様々な分野の方々との連携協力が必要と思う」「大いに推進すべきで、行政・民間一体となって、地域の未来を担う若者の育成につなげてほしい」「観光による地域の活性化を図るため、地元の自治体、地域事業者、学校等が連携して様々な取り組みを実施していきたい」など、地域の様々な連携の必要性や重要性に触れた回答者が多く見られた。

地域の様々な連携を経験した後で実施された第2回アンケートでは、「高校生が地域の観光に真剣に考え、行動すること。また、質の高い課題が数多く取り組まれていることに感銘を受けた」「現在の3年生の思考力、立ち振る舞いのレベルは尋常でない。ニセコブランドが導く多種多様な経験が元と思うが、大げさでなく、奇跡のような教育の成果と思う」「若者の導き出す企画や考えを見ることができ、年長者の意見が優れているという既成概念は打ち壊された。若者をもっと前に出して、年寄りは一歩下がり孫の成長と活躍を見守るべきと社会的にそうなれば時代に最適化されると確信できた」「高校生とのディスカッションを通じて、自身の考えもブラッシュアップできるし、他の大人の考えも吸収できる機会となった」など、高校生の活躍ぶりが大人たちに刺激を与えたことをうかがわせる回答が目立った。

また、「協議会のような中間組織があることで観光教育を推進することができた。今後、持続的に進めていくために、この取り組みの重要性やプロモーションが不可欠だと思います。そのため、観光庁や観光関連（大学・観光機構）からの支援が必要」「教育機関が授業を通じて、行政、事業者と関わり、若者目線の取り組みが期待できると思った」「地域・学校相互により影響を及ぼすにはいいバランスを保つことが大事なのかと感じた」「高校生・学生と地域が上手く関わられるように携わっていきたい」など、地域の中での相互の連携や関係性に対する意見もいくつか見られた。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（総括）

#### この半年の事業を通じて、観光教育に取り組む生徒、地域関係者のアンケート回答集計から見た分析と考察

2度のアンケート結果を比較すると、設問によっては数字的にはあまり変化が見られない回答があったものの、記述式回答では明らかな違いが見て取れるものもあり、回答者の意識の変化や意欲の向上、理解の深まりや成長がうかがえる結果が多く見られた。

特に3地域の参加高校生にとっては、観光と地元地域について理解を深めるとともに、経験を通して大きく成長する機会となったことが、アンケート回答にも表れた。観光に対しては、学習初期段階からその意義や地元にとって必要であるとの認識を持っていることが示されていた。そして、学習や活動を進める中で、地元の魅力を再認識したり新たに発見するとともに、その魅力を他者に伝えたいという思いが醸成されたことがうかがえた。また、地元観光の発展のために自身も行動したいかと問うた設問12においては、第1回アンケートでは漠然と「行動したい」との思いを表す生徒が多かったのに対し、第2回アンケートでは「積極的に行動したい」「もっと地元を盛り上げたい」など、地域の役に立ちたいとの意欲を明確に言葉で表す回答が多く見られた。観光教育によってシビックプライドが生まれ、地域貢献への意欲が導き出されたことの表れといえる。そのほか、地域の課題に向き合い、解決策を考えて取り組む中で育まれた問題解決能力や、幅広い世代の地元地域や他地域の人々との交流を通して育まれたコミュニケーション能力、旅行商品やイベント立案の際に育まれた企画力、企画の際のプレゼン能力など、観光分野のみならず様々な分野で必要とされるスキルを学ぶ機会となったことが回答から読み取れた。

また、3地域の高校生の回答を比較すると、ニセコ地域の生徒は学習当初から観光に対する興味関心が相対的に高く、知識や理解も本事業に取り組む前からある程度持っていることをうかがわせており、第1回アンケートの時点で字数の多い記述で回答する例や、「シビックプライド」や「サステナブルツアー」などの用語を使って答えるなどしていた。一方、釜石地域と島田地域の生徒は、言葉数は少ないものの、地元地域を思う気持ちの強さや地元地域への愛情の深さを素朴に表す回答が多く見られた。特に島田地域の生徒からは、地域の「過疎化」や「少子高齢化」に触れる回答が多く、地元の課題を自分ごととして認識していることがうかがえ、それを観光でなんとかしたいと考えていることが、複数の回答から見て取れた。第1回アンケートで見られた観光に対する意識の差異については、ニセコがインバウンド観光先進地として観光と地域社会が不可分であり、そこで学ぶ生徒たちへの影響力も他の2地域と比べると大きいことがアンケートの回答にも表れたとの見方もできるだろう。釜石地域は、本事業に参加した生徒数は少なかったものの、地元の魅力を伝えたい、観光で地元が元気になってほしいとの願いをもつ姿が第1回・第2回両方の各回答から読み取れた。島田地域の生徒たちは、本事業の参加生徒数が最も多く、その分観光を学ぶことや観光そのものに対する意識や意欲にばらつきがアンケート結果にも表れた。例えば10段階で答える場合は4以下、「考える」かどうかを問う設問では「あまり考えない」など、ネガティブな回答を選ぶ生徒も一定数いたのも他の2地域では見られない結果であったが、多くは前向きに観光を捉える生徒で、記述式の回答では積極的な姿勢が目立った。

## (2) 観光教育の取り組み

### 4. アンケート結果（総括）

一方、地域関係者へのアンケートでは、対象者数が少ないため比較が難しい中、記述式回答では第1回と第2回のアンケートで変化が見られる例もあった。観光産業に従事している回答者も多く、観光が地域にもたらす経済効果や地域創生などに対する認識は既にあることが第1回アンケートにも見られる中、観光を概念的に捉えている傾向も多く、記述式回答では比較的少ない字数で端的に答える例も目立った。第2回アンケートでは、その傾向に変化が見られ、地域を活性化させる観光産業のさらなる可能性や、地域活性化に貢献する高校生や若者への期待、観光教育の意義、地域を支える人材育成のために学校を支援する体制づくりの必要性など、より具体的かつ思いが込められた回答が目立った。観光教育事業に携わる中で、新たな気づきや再認識したことも多かったことが見受けられ、生徒と共に地域関係者も学ぶ経験となったのは間違いない。地域関係者自身の意欲や意識向上につながったことがうかがえる一方で、様々な課題を認識する機会ともなったようだ。

### **(3) 全国シンポジウムの開催**



## (3) 全国シンポジウムの開催

### 1. 概要

開催名：観光庁「地域活性化のための観光教育推進事業 全国シンポジウム」

『地域が学校と取り組み観光教育の未来』

日時：2024年2月8日（木） 10:00～12:00

### 開催の目的

令和5年度「地域活性化のための観光教育推進事業」では、継続的かつ実践的な観光教育推進のため、学校内のみではなく、地域の産学官関係者が連携し一体となって取り組む事により、観光業に対する広く深い学習効果を得る目的で「地域全体に開かれた観光教育」を実施した。今年度事業を実施した北海道二セコ町、岩手県釜石市と静岡県島田市の高校生および各地域の教育関係者、観光関係者から発表いただき、事例の共有・発信を通じて、観光教育の更なる普及・発展を目指す。

### 配信会場

貸し会議施設 AP品川 会議室 Eルーム

〒108-0075 東京都港区港南1-6-31 品川東急ビル 8F 「品川駅」港南口より徒歩6分

### 開催形式

オンライン開催（ZOOM ウェビナー）

※一部登壇者のみ配信会場にてリアル参加

### 参加概要

申込人数：557名様

参加人数：465名様（参加率 83.5%）

アンケート回答人数：226名様（回答率 48.6%）

### 申込受付

開催内容をまとめた告知募集案内を作成し、告知に努め、申込やご案内に記載したQRコード経由でグループフォームに移動し、所定事項を入力して申込とした。

申込期間：2024年1月19日（金）～2024年2月8日（木）10:00迄

# (3) 全国シンポジウムの開催

## 1. 概要

### 申込受付 合計557名

申込の受付時間 令和6年1月19日（金）～2月8日（水）10:00迄  
申込の受付方法 グーグルフォーム

[ グーグルフォーム設問 ]

設問	設問設定	記入方法
(1) 氏名	必須項目	記述
(2) ご氏名フリガナ	必須項目	記述
(3) 勤務先の区分	必須項目	提示項目より単一選択
(4) 勤務先名または学校名	必須項目	記述
(5) 所属部署名	任意記入	記述
(6) 役職	任意記入	記述
(7) 開催情報の入手先	必須項目	提示項目より単一選択
(8) 申込の動機	必須項目	提示項目より複数選択
(9) 観光教育について	任意記入	記述
(10) 所在地	必須項目	都道府県リストより単一選択

「地域活性化のための観光教育推進事業」全国シンポジウム申込

個人情報の取扱について同意確認を以下の通り実施致します。当社は、「個人情報の保護に関する法律」ならびに「当社個人情報保護方針」に基づき、お客様の個人情報を規定通り取扱し、保護に努めております。規定詳細は自社プライバシーポリシーをご確認下さい。  
実施者：地域活性化のための観光教育推進事業事務局（東武トップツアーズ株式会社）  
2023kankoukyouiku@gmail.com アカウントを切り替える

\* 必須の質問です

メールアドレス\*

メールアドレス

弊社の個人情報の取扱規定をご確認の上、個人情報の取り扱いについて\*

個人情報の取扱に同意します。

1 申込者のご氏名をお知らせください。（例：東武 太郎）\*

回答を入力

2 申込者のご氏名フリガナ表記をお知らせください。（例：トウブ タロウ）\*

回答を入力

3 勤務先の区分をお知らせください。\*

学校、教育機関

行政機関（中央官庁、自治体など）

観光協会、DMC、DMOなど

観光関連事業者（交通、宿泊、観光施設、飲食、物販、旅行など）

学生

その他： \_\_\_\_\_

4 勤務先名または学校名をお知らせください。\*

回答を入力

5 所属部署名をお知らせください。

回答を入力

6 役職をお知らせください。

7 シンポジウムの開催情報をどこで入手しましたか。\*

観光庁ホームページ

観光庁からの案内

トラベルボイス

シンポジウムの登壇者（モデル地域）からの案内

シンポジウムの登壇者（コーディネーター、コメンテーター）からの案内

事務局（東武トップツアーズ）からの案内

その他： \_\_\_\_\_

8 シンポジウムに申込みされた動機をお知らせください。（複数回答可）\*

「その他」を選択された方は理由を記載ください。

学校でこれから観光教育に関わる予定で情報を収集中

学校で観光教育に関わっており、他校の取り組みを知りたい

地域で観光教育を始めたいので、情報を収集中

地域ですでに観光教育に取り掛かっており、他地域の情報を参考したい

地域で観光教育を取り入れ、教育旅行を誘致したいと考えている

観光産業に関わっており、観光教育について関心がある

産学官の観光教育の連携事例を知りたい

観光教育を推進しているため

関係者がシンポジウムに参加している

観光ビジネス科目実践の参考にしたい

その他： \_\_\_\_\_

9 観光教育に関するお考えについてお聞かせください。



## (3) 全国シンポジウムの開催

### 3. 実施内容

#### プログラム

時刻	内容	発表者
10:00 ～ 10:03	開会挨拶	国土交通省 観光庁 観光産業課 庄司 郁氏
10:03 ～ 10:08	事業概要の説明	令和5年度「地域活性化のための観光教育推進事業」 東武トップツアーズ株式会社 教育事業推進部 山田 徹氏
10:08 ～ 10:13	セッションの目的	コーディネーター 日本大学 国際関係学部 教授 穴戸 学氏
10:13 ～ 10:43	①ニセコ地域取り組み発表 講評	北海道ニセコ国際観光認証会議 北海道ニセコ高等学校 教員・生徒 コメンテーターより
10:43 ～ 11:13	②釜石地域取り組み発表 講評	釜石持続可能な観光教育協議会 岩手県立釜石商工高等学校 生徒 コメンテーターより
11:13 ～ 11:43	③島田地域取り組み発表 講評	島田市観光教育推進協議会 静岡県立島田商業高等学校 生徒 コメンテーターより
11:43 ～ 11:58	質疑応答・まとめ	コーディネーター 日本大学 国際関係学部 教授 穴戸 学氏
11:58 ～ 12:00	閉会挨拶 アンケート依頼	

#### 【コメンテーター】

四国大学 経営情報学部 准教授 鈴鹿 剛氏  
明昭学園 岩倉高等学校 教諭 大日方 樹氏  
じゃらんリサーチセンターセンター長 沢登 次彦氏



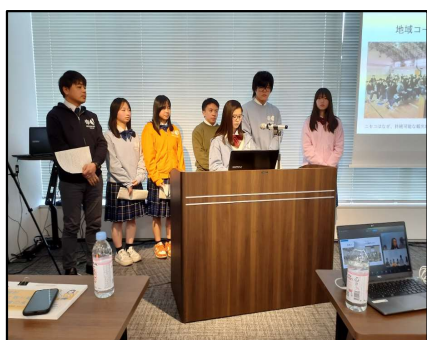
# (3) 全国シンポジウムの開催

## 3. 実施内容

### 開会挨拶・事業説明・セッションの目的



### モデル地域取り組み発表



# (3) 全国シンポジウムの開催

## 4. アンケートの結果

### 全国シンポジウムのアンケート実施

アンケート対象	シンポジウム申込者 557名
実施期間	令和6年2月8日(木) 12:00~2月16日(金) 18:00
実施方法	ウェブアンケート(グーグルフォーム)作成
視聴者向け告知	<ul style="list-style-type: none"><li>・シンポジウム終了時にアナウンスと共に画面上でのQRコード表記、読み込みにより回答ページに移動する</li><li>・シンポジウム実施後、当日14時、申込者向け御礼メール時に回答フォームURLを告知</li><li>・2月14日(水) 申込者向け再度アンケート回答の依頼メールを配信(既に回答済みのアドレスは照会後メール配信せず)</li></ul>

### グーグルフォーム(設問16問)

<p>(1) 今回の全国シンポジウムに参加いただいた理由をご回答ください。(複数回答可)</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 1. 既に観光教育に取り組んでおり他地域の事例を参考にしたい。</li><li><input type="checkbox"/> 2. これから観光教育に取り組みたい。</li><li><input type="checkbox"/> 3. 観光人材育成の観点から観光教育に関心がある。</li><li><input type="checkbox"/> 4. 教育的意義の観点から観光教育に関心がある。</li><li><input type="checkbox"/> 5. 観光振興の観点から観光教育に関心がある。</li><li><input type="checkbox"/> 6. 観光教育の実践例について知りたい。</li><li><input type="checkbox"/> 7. 「観光ビジネス」科目実践の参考にしたい。</li><li><input type="checkbox"/> 8. 「総合的な探求の時間」の参考にしたい。</li><li><input type="checkbox"/> 9. 課外活動の参考にしたい。</li><li><input type="checkbox"/> 10. 教育旅行誘致の施策に役立てたい。</li><li><input type="checkbox"/> 11. 産学官連携の手法や取組を知りたい。</li><li><input type="checkbox"/> 12. 関係者が登壇している。</li><li><input type="checkbox"/> その他 _____</li></ul> <p>(2) 特に印象に残ったプログラムをお知らせください。*</p>	<p>(4) 今回のシンポジウムが、ご自身の仕事や活動において参考になりましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="radio"/> 非常に参考になった</li><li><input type="radio"/> 参考になった</li><li><input checked="" type="radio"/> どちらともいえない</li><li><input type="radio"/> 参考にならなかった</li><li><input type="radio"/> まったく参考にならなかった</li></ul> <p>(5) 上記設問(4)のその理由をお知らせください。</p> <p>回答を入力 _____</p> <p>(6) 今回のシンポジウムに参加したことで、今後、実際の行動に移そうと考えていることはありますか。(複数回答可)</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 1. 自地域(自校、自社)でも観光教育を実施する。</li><li><input type="checkbox"/> 2. 自地域(自校、自社)でも観光教育実践を検討する(具体的に会議などの場で提案する、投げかける)。</li><li><input type="checkbox"/> 3. 自地域(自校、自社)で既に行っている観光教育の参考にする。</li><li><input type="checkbox"/> 4. 観光教育の実践例や意義について周りの人に伝える。</li><li><input type="checkbox"/> 5. 観光教育についてもう少し詳しく調べてみる、知る機会を作る。</li><li><input type="checkbox"/> 6. モデル地域への視察・意見交換を実施する。</li><li><input type="checkbox"/> その他 _____</li></ul>	<p>(13) 勤務先の区分をお知らせください。*</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="radio"/> 学校、教育機関</li><li><input type="radio"/> 行政機関(中央官庁、自治体など)</li><li><input type="radio"/> 観光協会、DMC、DMOなど</li><li><input type="radio"/> 観光関連事業者(交通、宿泊、観光施設、飲食、物販、旅行など)</li><li><input type="radio"/> 学生</li><li><input type="radio"/> その他 _____</li></ul> <p>(14) 参加者の所属異性をお知らせください。*</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="radio"/> 会社役員・経営者</li><li><input type="radio"/> 会社員</li><li><input type="radio"/> 公務員</li><li><input type="radio"/> 団体職員</li><li><input type="radio"/> 自営業</li><li><input type="radio"/> 学生</li><li><input type="radio"/> パート・アルバイト</li><li><input type="radio"/> その他 _____</li></ul>
---	--	--

### 回答者内訳

区分	人数	比率
申込者	557名	
視聴者	465名	83.5%
アンケート回答者	226名	48.6%

### (3) 全国シンポジウムの開催

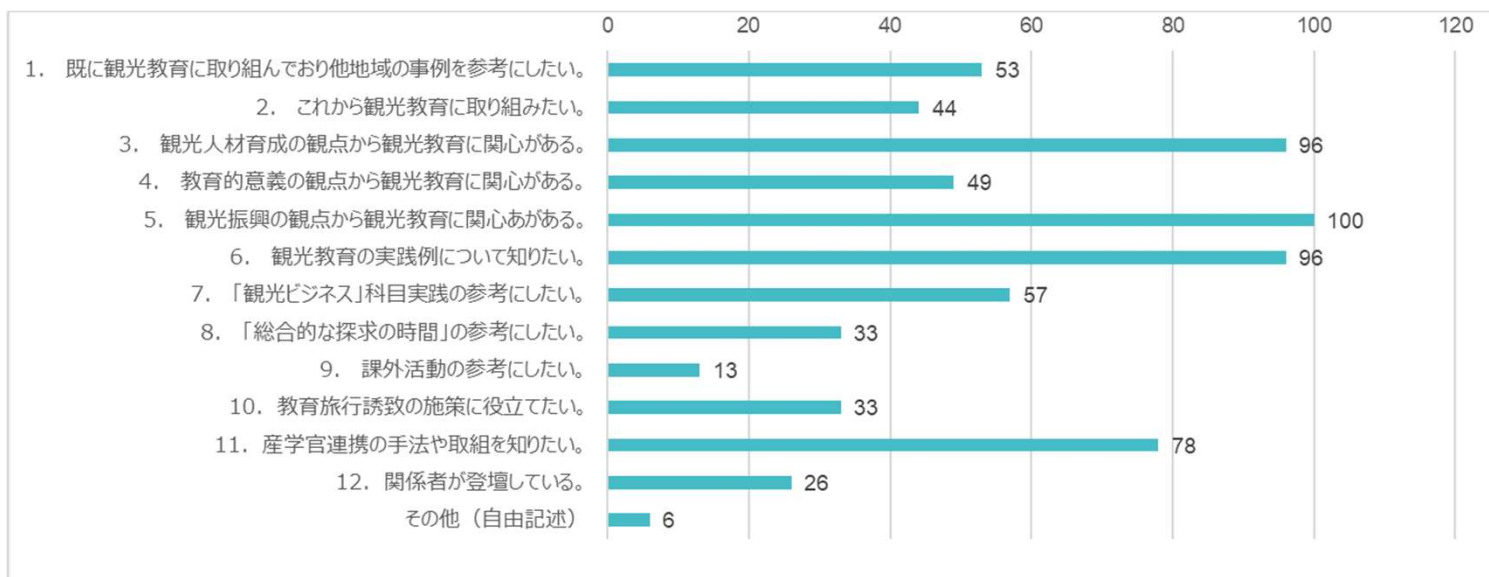
## 4. アンケートの結果

### 2月8日全国シンポジウム オンライン配信

#### (1) 今回の全国シンポジウムに参加いただいた理由をご回答ください。 (複数回答可)

理由	回答数	比率
1. 既に観光教育に取り組んでおり他地域の事例を参考にしたい。	53	23.5%
2. これから観光教育に取り組みたい。	44	19.5%
3. 観光人材育成の観点から観光教育に関心がある。	96	42.5%
4. 教育的意義の観点から観光教育に関心がある。	49	21.7%
5. 観光振興の観点から観光教育に関心がある。	100	44.2%
6. 観光教育の実践例について知りたい。	96	42.5%
7. 「観光ビジネス」科目実践の参考にしたい。	57	25.2%
8. 「総合的な探求の時間」の参考にしたい。	33	14.6%
9. 課外活動の参考にしたい。	13	5.8%
10. 教育旅行誘致の施策に役立てたい。	33	14.6%
11. 産学官連携の手法や取組を知りたい。	78	34.5%
12. 関係者が登壇している。	26	11.5%
その他（自由記述）	6	3%

・現在、旅行会社への就活最中で、何か参考になればいいなと思い参加させていただきました。  
・地域活性化のヒントを得たい  
・観光教育の現状を知るため  
・関係者から勧められたため。  
・中山間の過疎地において、過去の生業が観光資源になりうるかを知りたかった。  
・国際観光（特にインバウンドに興味がある）



#### 【分析】

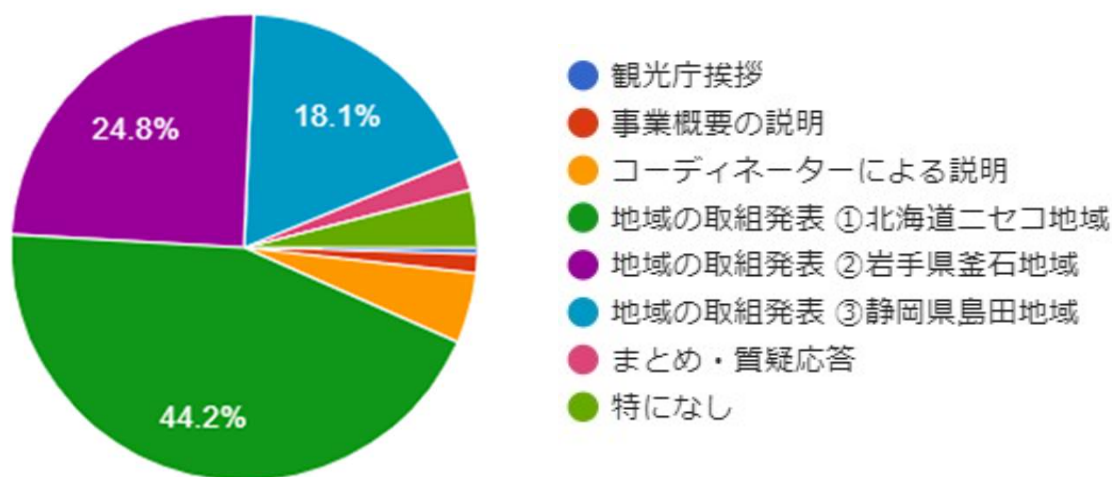
観光振興や観光人材育成という理由での申込者が多く、それにより、インバウンドだけではなく、国内旅行も復活したことにより、地域にとっては観光関連での需要増に伴い、関心が高まっている。

### (3) 全国シンポジウムの開催

#### 4. アンケートの結果

##### (2) 特に印象に残ったプログラムをお知らせください。

プログラム	回答数	比率
観光庁挨拶	1	0.4%
事業概要の説明	3	1.3%
コーディネーターによる説明	11	4.9%
地域の取組発表 ①北海道ニセコ地域	100	44.2%
地域の取組発表 ②岩手県釜石地域	56	24.8%
地域の取組発表 ③静岡県島田地域	41	18.1%
まとめ・質疑応答	5	2.2%
特になし	9	4.0%



##### 【分析】

ニセコ高校では、観光グローバル科を専攻している生徒により、地域のオフシーズンの観光コンテンツ開発など、テーマ選定と分析後、課題を抽出して対策案を想定して検証を行なった内容を発表しているため、教育関係者、自治体や観光業者に幅広く興味をもって聞いてもらえたといえる。

## (3) 全国シンポジウムの開催

### 4. アンケートの結果

#### (3) 特に印象に残ったその理由をお知らせください。

226名から回答があった中で、最も多かったのが④地域の取り組み発表「北海道ニセコ地域」で100名、続いて⑤「岩手県釜石地域」56名、⑥「静岡県島田地域」41名が選択し、それぞれ回答を記している。本シンポジウムのメインともいえる3地域の取り組み発表が印象に残ると答えた視聴者で9割を占める結果は、当然ともいえるが、関心の高さとそれに応えるインパクトを与えたことがうかがえる。

印象に残った理由としては、次のような回答があった。

##### ④地域の取り組み発表「北海道ニセコ地域」（回答者数100名）

まず高校生の主体性や積極性などによるレベルの高い取り組みが印象に残った理由として多く上がった。下記以外にも、「高校生の取り組み」としてインパクトを受けた旨の回答が多かった。

##### <視聴者の回答から抜粋>

- ・ 高校生という若い方々が様々な取り組みを行い、実際にコンテンツを作り出しているという点にとっても感心し、特に将来性が感じられた。
- ・ 高校生の取り組みが多彩で、学校の取り組み姿勢はもちろん、それをサポートする体制ができていることを知り、感銘を受けた。
- ・ 地元高校生が主体となりアドベンチャーツーリズムコンテンツの造成に繋がっている点が大変興味深い。産官学の連携体制作りが最初の課題だが、大変参考となる事例と感じた。
- ・ 観光事業者でもサステナブルツーリズムへの理解が乏しいと感じるなか、GSTC基準に関する質問が出るなど、レベルの高さを感じた。高校生でこままでのレベル感でやられていることに驚いた。

次に、印象に残った理由として上っていたのが「E-Bike」についてで、観光ツールとして活用することに注目を集めたことがうかがえた。以下のほか、回答として単に「E-Bikeの活用」「E-Bikeの契約」と記入した視聴者もいた。

##### <視聴者の回答から抜粋>

- ・ E-Bikeのように新たなものを取り入れることも大事だと思った。
- ・ E-Bikeはとても有効な観光ツールになりうらと思った。
- ・ E-Bikeの導入について参考になる点があった。
- ・ 2次交通で、E-Bikeを活用している点が目からうろこ。
- ・ 同校の二次交通促進の為にE-Bikeを活用しその実証実験を経て今後どのように浸透させることができるか非常に興味をもっている。

そのほか、SDGsや持続可能な観光に触れる回答も多く見られた。

##### <視聴者の回答から抜粋>

- ・ 高校生主体の取り組みと持続可能な観光の視点が強く感じられたから。
- ・ SDGsの観点も入れていたため。
- ・ サステナブルの意義を十分に理解した発表だったから。
- ・ SDGsのゴールにも向かっている取り組みといえるため。

## (3) 全国シンポジウムの開催

### 4. アンケートの結果

#### (3) 特に印象に残ったその理由をお知らせください。

⑤地域の取り組み発表「岩手県釜石地域」（回答者数56名）

回答で多かったのが、地域ぐるみの観光振興や地域の人による体験型観光、さらには、もともと観光地でない地域で観光コンテンツを創出していることなどであった。

<視聴者の回答から抜粋>

- 地域全体で観光に取り組んでいこうという姿勢。
- 体験型と地域の人が観光資源になる軸。
- 体験型の観光が素晴らしいと感じた。
- 観光素材の創出。
- 観光要素が無かった環境の中から、生業を観光のフックに復興推進されている事。
- 地域資源を活用して、地域の人々と企画されてる点。
- ゼロから作り出しているのがすごいなと思った。
- 釜石市では、観光地化されていない町でも、通常の生活の中で観光コンテンツを自覚できること。
- 観光地でない地域の活性化のために、地域ぐるみで観光に尽力している点。
- 先進地域ではないが故に、様々な可能性を感じたこと、また震災からの復興という大きな地域のミッションを抱えていることが伝わってきたため。
- 市役所の研修等で地域の体験プログラムやツアーが活用されていることが良いと思ったため。
- 観光地域づくりを通して、漁業をはじめとした地域の生業が繋がっていることが、地域の再生に向かって印象をうけた。
- 多彩なフィールドワークと産学官・地域の活動が郷土愛をベースに豊かにひろがり、とても参考になった。

また、高校生の取り組み姿勢や主体性に触れる回答も複数見られた。

<視聴者の回答から抜粋>

- 商業を学ぶ生徒さんの取り組み、産業や行政の巻き込み方の事例を知ることができた。
- 高校生ができる地域観光のPR動画作成など身近な事柄からでコツコツと活動されていることに、感銘を受け、本校でできる取り組みを考えるきっかけとなった。
- 高校生の取り組み内容。
- 高校生が自ら考え、行動しているレベルが高いことに驚いた。
- 生徒の主体性が見えたから。

## (3) 全国シンポジウムの開催

### 4. アンケートの結果

#### (3) 特に印象に残ったその理由をお知らせください。

⑥地域の取り組み発表「静岡県島田地域」（回答者数41名）

地域（民間）と行政、そして学校の三者共同による取り組みや、高校生の視点による観光資源の発掘や商品開発などを印象に残った理由とする視聴者が複数いた。また、発表の際にインタビュー形式を途中で取り入れていたことなど、高校生の感性が発揮されていた点も印象に残ったとのことである。

<視聴者の回答から抜粋>

- 自治体が熱心、生徒の実践が参考になった。
- 地域と行政と教育機関が協働で活動しているところ。
- 民間、行政、学校との取り組む姿勢や活動に対してより発展の可能性を感じることができたため。
- 高校生と共同開発。
- 教育(学生)/行政/観光事業者それぞれが一体となった好事例のプレゼンであった。
- 認知度調査や新たな視点からのセールスポイントを見出してよかった。
- 高校生の商品開発がとても印象的だった。
- お茶の淹れ方一つですら、アプローチ次第で観光資源になるというのがとてもいい発見だった。
- 既にある資源だけではなく、自分たちの当たり前を捉え直せば、可能性はまだまだたくさんあるという気づきになった。
- 高校生等身大の仮説、検証による取り組みとして魅力を感じたため。
- 発表の仕方が独特であったことと、内容に興味を持った。
- インタビューみたいな感じで印象に残った。
- インタビュー形式が印象的であったから。

なお、8つの選択肢の上位3つ以外は、人数的には1名～7名の視聴者が選択して回答を入れていたが、主なものとしては次のようなものがあった。

③コーディネーターによる説明（回答者7名）

- 高校生達に向けての温かいねぎらい、そして取り組みについての質問が的確で、答えてる高校生達の素直な言葉が聞けてとてもよかった。
- 各学校への取り組みに対して、しっかりと内容を評価し、子どもの成長に役立てていってほしいのが印象的だった。

⑧特になし（回答者3名）

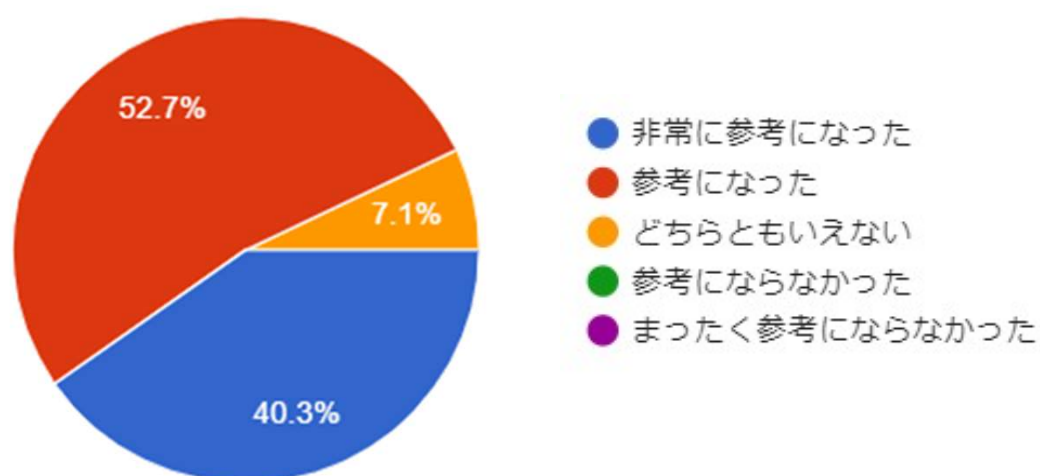
- 特にどこの地域というのはないが、生徒さんは、学業や課外活動がある中、そして生徒数も減少している中、さらに時間を作って取り組んでいて、素晴らしいと思う反面、大変そうにも感じた。
- 高校がある地域外から通っている生徒さんが結構いるようだったので、その点も含めて考えていけないといけないのかと思った。
- ①の途中で退室したが、得るものは何もなく、その先もそうではないかと思わせるような内容だったため。

### (3) 全国シンポジウムの開催

#### 4. アンケートの結果

##### (4) 今回のシンポジウムが、ご自身の仕事や活動において参考になりましたか？

選択肢	回答数	比率
非常に参考になった	91	40.3%
参考になった	119	52.7%
どちらともいえない	16	7.1%
参考にならなかった	0	0.0%
まったく参考にならなかった	0	0.0%



##### 【分析】

視聴者の多くを観光事業関係者や教育関係者が占める中、94%の参加者が「非常に参考になった」と「参考になった」と答えたように、それぞれの業務の参考になったことがうかがえた。



### (3) 全国シンポジウムの開催

#### 4. アンケートの結果

(5) 上記設問「今回のシンポジウムが、ご自身の仕事や活動において参考になりましたか？」その理由をお知らせください。

(選択肢と回答者数)

- ①非常に参考になった 62名
- ②参考になった 65名
- ③どちらともいえない 8名

視聴者の多くが観光事業関係者や教育関係者が占める中、94%の参加者が「非常に参考になった」と「参考になった」と答えたように、それぞれの仕事の参考になったことがうかがえた。「観光教育についてよく知ることができた」「観光・地域振興の知識が増えた」「学ぶことが多々あり」「若い人がどう考えるかが知れた」など、知識や情報を得て理解が深まったことをシンプルな理由に挙げる視聴者がいたほか、「観光教育を導入するにあたり大変参考になった」「自身の学校で活用できそうである」「自分の学校で真似てみたい」「地域活性を教育の部門にも生かしたい」など、視聴者自身にフィードバックさせている例も多く見られた。観光教育の意義を認識した視聴者も複数いた一方で、今後の課題について触れている回答もあった。

また、「どちらともいえない」との回答の中には、短時間しか視聴できなかったなど時間的な都合で判断できないとの回答が複数あったほか、必ずしも参考にならなかった様々な理由が記された。主な回答は次のとおり。

<視聴者の回答から抜粋>

- ①非常に参考になった
  - ・ 当地域でも実装したいと考えているため、非常に参考になった。
  - ・ 地域内のコーディネート力によって、差が出るなどこの場で痛感した。
  - ・ 本校地域、生徒、学校カリキュラムの中でどう向き合うか考えるきっかけとなった。
  - ・ 先進地事例だけでなく、観光地教育の目的が具体的になったため。
  - ・ 観光教育に現在携わっており、地域と連携しながら課題解決に向け取り組む事例が参考になったため。
  - ・ 体験コンテンツを実際販売している者として高校生と協業して活動していくことにとってもメリットばかり感じた。
  - ・ 自身の地域も人口の減少があるが、都会に憧れて離れていく人が多い。地域愛をいかに植え付けていくかが今後の課題。
  - ・ 地域の課題解決のためにソリューション営業を行なっているが、活動をよりビジネス、持続可能な取り組みにしていく事は共通の課題だと感じたため。
  - ・ 観光教育を通じて子どもたちが自分のふるさとに愛着を持ったり、観光という仕事に興味を持ってくれることがわかったので。
  - ・ とくにシビックプライドの文脈における観光教育が担う役割と期待が非常に大きいと考えており、今回の各地域での取り組み、いずれにおいても非常に勉強になった。
  - ・ いずれも学生の皆さんの自主性を尊重されている仕組みにされているところは強い共感があった
  - ・ 大人の世界と学生の世界では見る目が全く違うので、小さいころから観光への関心が高まれば自然と自分たちの町を良くしようと考えるのではないか。
  - ・ これから益々求められてくる観光教育の将来性のヒントになったから。

## (3) 全国シンポジウムの開催

### 4. アンケートの結果

(5) 上記設問「今回のシンポジウムが、ご自身の仕事や活動において参考になりましたか？」その理由をお知らせください。

②参考になった

- ・ 他地域の観光教育の状況が分かり、自身の取り組みとの共通点、足りない点、強みになりそうな点等が把握できたため。
- ・ 色んな地域の特色を生かした取り組みが地元の良さを再確認したり、あらためて観光として生かせる特徴だったり知る機会となった。
- ・ 学校だけでなくかなり大きく組織化して取り組んでいることが分かったため。また、地域が観光を必要としているからこそ産学官連携ができるようになったため。
- ・ 様々な視点で地域の魅力が発信できる。
- ・ 高校生が観光事業に参画できる、また、それが、地元への還元をしていることを理解した。
- ・ 学校だけでなくかなり大きく組織化して取り組んでいることが分かったため。また、地域が観光を必要としているからこそ産学官連携ができるようになったため。
- ・ 高校だけでなく、地域行政や観光機関、住民との共創が重要であることを再認識した。
- ・ ほぼ初めて知ることになった分野だった。
- ・ 自分自身も北海道で自治体の皆さんと地域を盛り上げるような「何か」を考える立場であるが故に、高校生の柔軟な発想で取り組まれている事例は大変勉強になった。
- ・ DMOや観光協会が特定の学校や生徒、市町村と密接に連携した観光教育に取り組んでいることを初めて知ることが出来参考になった。
- ・ 関係の先生方で共有して、今後の学校活動を活性化したい。

③どちらともいえない

- ・ 本講義をどのように活かせるか迷いが残ったため。
- ・ 現勤務校が大都市の私立学校であることから、地域との連携を行うのは難しいと感じた。
- ・ 若者の地元定着と人手不足解消を目指しているが、これが本当に有効なのか確信は持てない。
- ・ 自身の業務と観光教育の間に、直接関わりが生じないため。

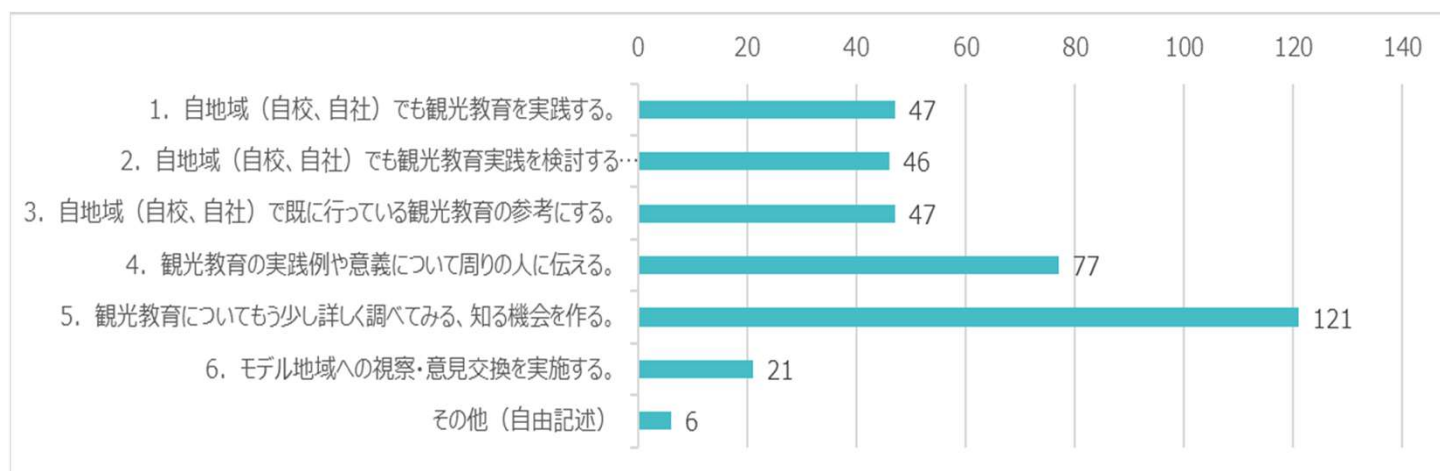
### (3) 全国シンポジウムの開催

#### 4. アンケートの結果

(6) 今回のシンポジウムに参加したことで、今後、実際の行動に移そうと考えていることはありますか。(複数回答可)

選択肢	回答数	比率
1. 自地域（自校、自社）でも観光教育を実践する。	47	20.8%
2. 自地域（自校、自社）でも観光教育実践を検討する（具体的に会議などの場で提案する、投げかける）。	46	20.4%
3. 自地域（自校、自社）で既に行っている観光教育の参考にする。	47	20.8%
4. 観光教育の実践例や意義について周りの人に伝える。	77	34.1%
5. 観光教育についてもう少し詳しく調べてみる、知る機会を作る。	121	53.5%
6. モデル地域への視察・意見交換を実施する。	21	9.3%
その他（自由記述）	6	2.7%

・部活動での地域探求や課題解決の活動に参考にしたい。  
・ニセコ高校と連携しE-Bike浸透の為に協力していきたい。  
・教育旅行誘致の施策を考える  
・地元のワークショップ等で議題に挙げてみたい。など



#### 【分析】

回答者の半分以上が「観光教育についてもう少し詳しく調べてみる、知る機会を作る」と回答しており、今回の発表内容によって、一定の啓蒙、啓発効果を得たと言える。

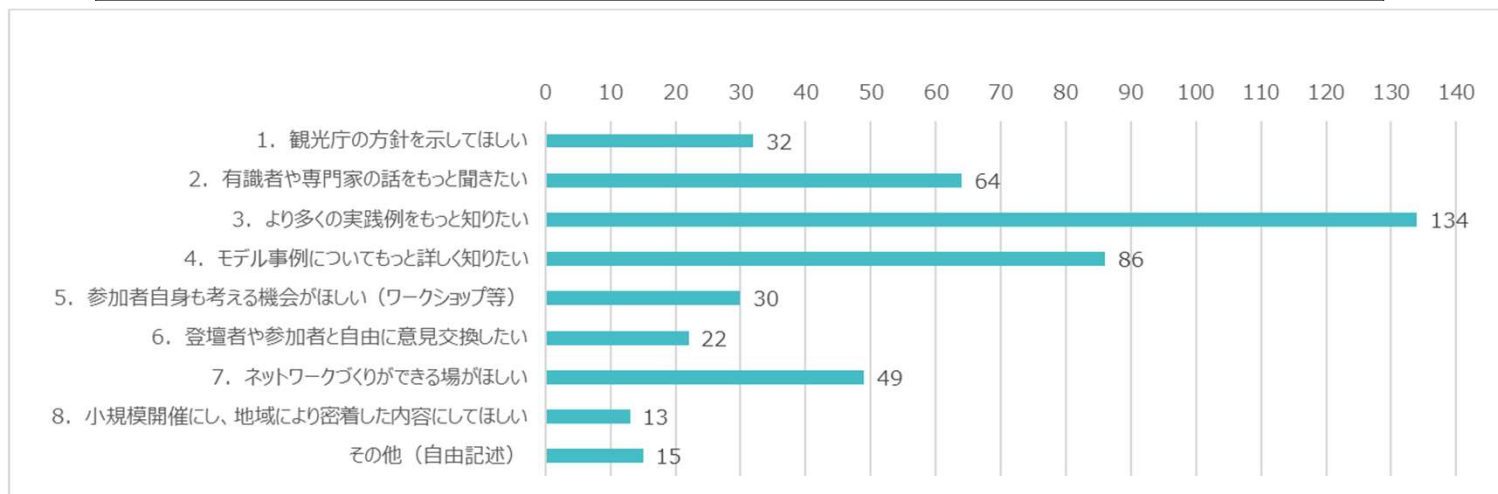
### (3) 全国シンポジウムの開催

#### 4. アンケートの結果

(7) 今回のシンポジウムのプログラム内容についてご意見をお聞かせください。  
(複数回答可)

選択肢	回答数	比率
1. 観光庁の方針を示してほしい	32	14.2%
2. 有識者や専門家のお話をもっと聞きたい	64	28.3%
3. より多くの実践例をもっと知りたい	134	59.3%
4. モデル事例についてもっと詳しく知りたい	86	38.1%
5. 参加者自身も考える機会がほしい(ワークショップ等)	30	13.3%
6. 登壇者や参加者と自由に意見交換したい	22	9.7%
7. ネットワークづくりができる場がほしい	49	21.7%
8. 小規模開催にし、地域により密着した内容にしてほしい	13	5.8%
その他(自由記述)	15	6.6%

・成績として評価する方法を知りたい  
・想像していたような水準の話では無かった  
・質問事項に答えて欲しかった。  
・質疑応答の時間ももっとしっかり取れているとよかった。もしくは、学生の発表を踏まえたコメンテーターのパネルセッションがあるとより深まるのではないかと  
・発表された資料がほしい。広報としても役にたつのでは？  
・午前実施だと、昼食時間で終わらなければならないのがネックかも  
・多くの高校へと事例が展開されていくことを期待しています  
・山間部の再生につながった事例を知りたい  
・現時点での当地域の取組水準を踏まえると十分な内容だった  
・教育現場を中心とした取り組みだけでなく、事業者の取り組みとの連携  
・即座に現地視察できる機会をつくられてはいかがでしょうか？  
・観光教育の目標の1つが観光ビジネスを支える人材の育成である場合には、実際の雇用体系や商慣習など背景を理解する機会があればより充実するよう感じました  
・とても満足でした など



#### 【分析】

回答者のうち、観光教育に取り組みむであろう教育関係者は60名、その人数を超える134名が「実践例を知りたい」、84名が「事例を知りたい」と回答しており、行政機関および観光業者の意欲の高さがうかがえる。

## (3) 全国シンポジウムの開催

### 4. アンケートの結果

#### (8) 全体を通してご意見をお聞かせください。

(回答は自由記述)

回答者数 74名

この設問の回答としては、「とても良かった」「ありがとうございました」「勉強になった」「参考になった」など、総じて好評だったことを表す回答で占められた。視聴者にとって、観光教育について知る貴重な機会となったことがうかがえた。

「継続してほしい(注: シンポジウムのことや地域の取り組みのことが判然としないも回答もあり)」が3名、「次回も参加したい」との声も4名から聞かれた(うち1名は「もっと長時間でも参加したい」との回答)。また、「ぜひ、アーカイブで見られるようにしてほしい(他の教職員にも共有したい)」旨の希望も2名から出していた。

その他、高校生による発表・プレゼンが好印象だったことを表す回答も複数見られた。

一方で、後述するような厳しい意見や課題を呈する意見も少数ながらあった。指摘の中には、時間が十分でなかったことに対するものが複数見られた。

<視聴者の回答から抜粋>

- 地域一体という視点をもって学べた。学校単体の視点だけでなく地域が求めるものを共有できるよう、そして全体で取り組めるようにしたいと思った。
- 高校生が実際に行ったことを知る機会はなかなかなかったので、このような機会を設けてくださるとても参考になった。
- あっという間の2時間だった。コメンテーターの皆様の助言は興味深く、こうして高校生の活動にたくさんの大人が関わることで、観光産業の未来に多くの可能性を感じる。ビジネスとして成り立たせ継続するためには、地域の資源を再認識するとともに、安売りを避けることが大事だと感じた。
- どの産業でも人手不足・高齢化が課題であるため、いかに魅力的な産業としてブランディングしていくか、マーケティング的視点や行動が必要だと感じ、このシンポジウムではそれが実践されていたのがとても良かった。観光教育も、マーケティング人材の育成も、地域が持続していくには義務教育に組み込んでほしいと思う。
- 人口減少、一次産業の衰退は日本が抱える課題である。航空会社の地域事業として人との繋がり、体験、移動する目的をつくることにより人流、商流、物流を産み、そこに住む人々の地域を活性化することを目的に活動しているが、持続性といったところにはまだまだ課題がある。
- 単なるボランティア、協賛、地域貢献を超えた利益をうむことで、それぞれの立場の方々のやりがい、幸せ、自信に繋がり皆が笑顔あふれる社会を目指していきたい。
- 教育における取り組みだと、売上を出すことの是非が議論に上がってくることがあると思うが、講評でもあったように売上が立たないと、取り組みが続かない。
- どのように対応すれば、その点を問題なくクリアできるのかについて、事例があると良いのではないかと考えた。

### (3) 全国シンポジウムの開催

#### 4. アンケートの結果

〈視聴者の回答から抜粋〉

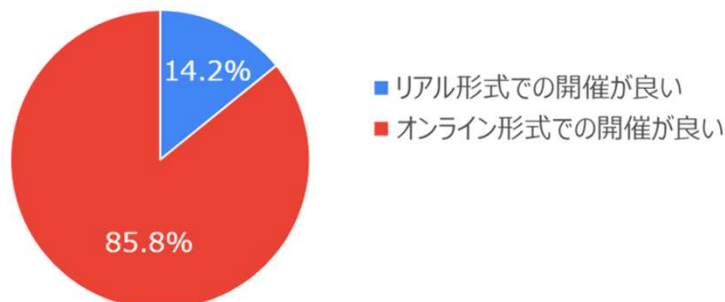
- 観光教育についてあまりに抽象的で曖昧な話が多かった。観光業もビジネスであり、その側面をもう少し掘り下げない事にはとても「教育」と言えるレベルにはならないと思う。
- 生徒の発表を中心にして欲しい。質疑の時間が欲しい。
- 内容は非常に良かったが、時間が不足していた。特に、内容よりも時間内におさめることを優先し、視聴者への配慮がやや不足していると感じた。2事例×複数回の実施でもいいかもしれない。
- 時間がもう少し余裕があった方が良かった。生徒さんも時間を気にしてしまうので。
- 参加者のリアルタイムの質疑応答が時間切れだったのがもったいないと思った。
- 質問の時間は余裕を持っての進行にして欲しい。
- 今回は高校の発表であり、一部の生徒が取り組んだ事例であったが、小中学校の事例も聞きたいし、また学年等の全体で取り組んでいる事例を紹介して欲しい。選択制のコース以外にも有用であるのならば、観光教育を推進、周知していくべきだと思う。
- 生徒の生き生きとした事例発表を見ることができてとてもよかった。ファシリ・コメンテーターすべて男性というのが気になった。女性の視点もほしいし、もっと若い世代もほしい。
- 観光教育は学生との連携も大切ですが、大人も含めた様々な事業者や地域住民全体のボトムアップが必要と考えており、次回は学校や学生以外との取り組みをご教示いただきたい。
- 例えば、以前ブーム的に広まり、後に激減した地域の観光検定は、地元業者や住民からの復活要望も高く、復活に向けては、観光業界のみならず産業界や経済界、教育機関等、地域一体となって重要性を感じ、取り組まないと難しいと思っている。

### (3) 全国シンポジウムの開催

#### 4. アンケートの結果

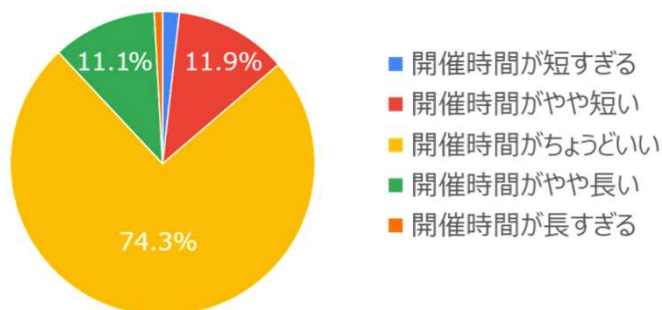
(9) 今回の全国シンポジウムの開催形式について意見をお聞かせください。

選択肢	回答数	比率
リアル形式での開催が良い	32	14.2%
オンライン形式での開催が良い	194	85.8%



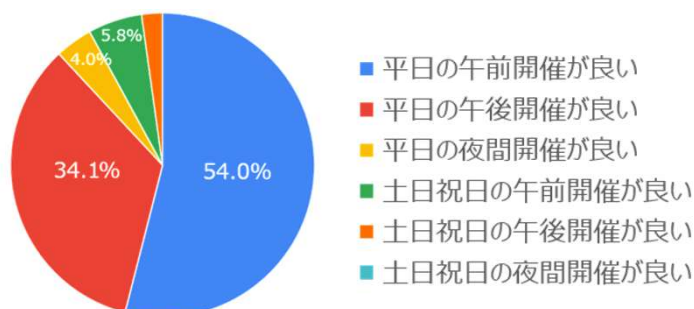
(10) 今回の全国シンポジウムの開催時間について意見をお聞かせください。

選択肢	回答数	比率
開催時間が短すぎる	4	1.8%
開催時間がやや短い	27	11.9%
開催時間がちょうどいい	168	74.3%
開催時間がやや長い	25	11.1%
開催時間が長すぎる	2	0.9%



(11) 今回の全国シンポジウムの開催日について意見をお聞かせください。

選択肢	回答数	比率
平日の午前開催が良い	122	54.0%
平日の午後開催が良い	77	34.1%
平日の夜間開催が良い	9	4.0%
土日祝日の午前開催が良い	13	5.8%
土日祝日の午後開催が良い	5	2.2%
土日祝日の夜間開催が良い	0	0.0%

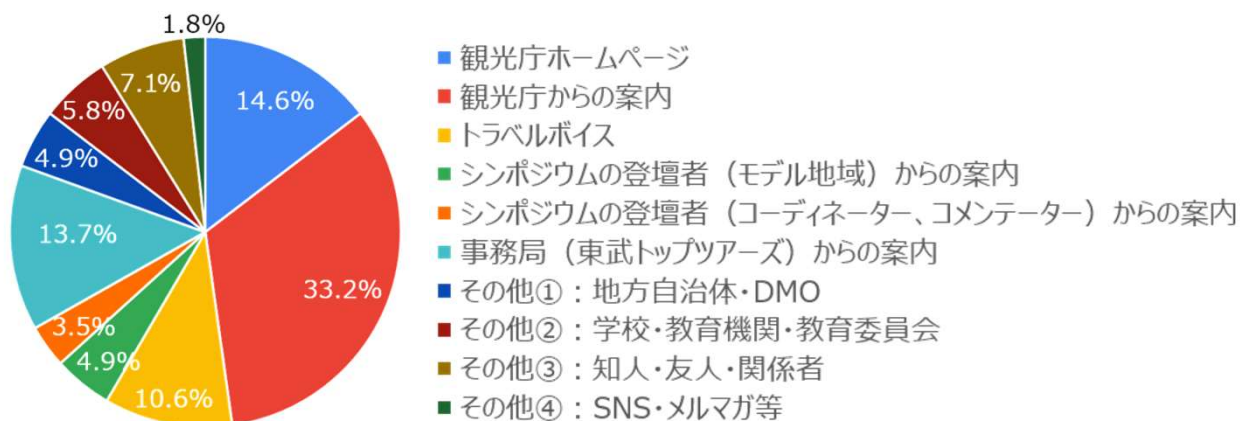


### (3) 全国シンポジウムの開催

#### 4. アンケートの結果

##### (12) シンポジウムの開催情報をどこで入手しましたか。

選択肢	回答数	比率
観光庁ホームページ	33	14.6%
観光庁からの案内	75	33.2%
トラベルボイス	24	10.6%
シンポジウムの登壇者（モデル地域）からの案内	11	4.9%
シンポジウムの登壇者（コーディネーター、コメンテーター）からの案内	8	3.5%
事務局（東武トップツアーズ）からの案内	31	13.7%
その他①：地方自治体・DMO	11	4.9%
その他②：学校・教育機関・教育委員会	13	5.8%
その他③：知人・友人・関係者	16	7.1%
その他④：SNS・メルマガ等	4	1.8%



##### (13) 勤務先の区分をお知らせください。

選択肢	回答数	比率
学校、教育機関	60	26.5%
行政機関（中央官庁、自治体など）	34	15.0%
観光協会、DMC、DMOなど	36	15.9%
観光関連事業者（交通、宿泊、観光施設、飲食、物販、旅行など）	62	27.4%
学生	6	2.7%
その他	28	12.4%



##### 【分析】

産学官からの回答者はそれぞれ30.9%、26.5%と15%。特に行政機関は観光協会やDMC,DMOを加算すると30.9%、告知が偏ることなく、幅広く展開することによりバランスよく参加者を募集できたと言える。

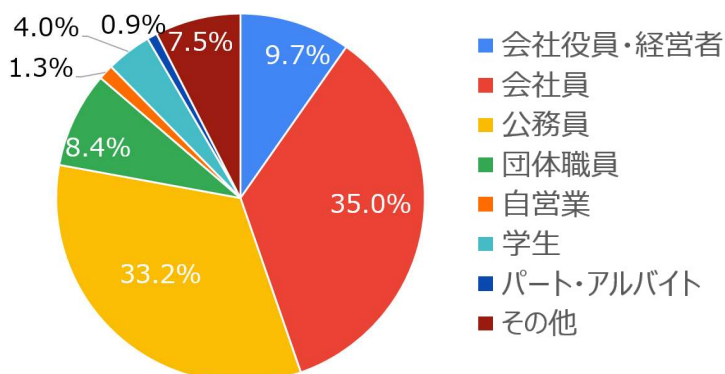


### (3) 全国シンポジウムの開催

#### 4. アンケートの結果

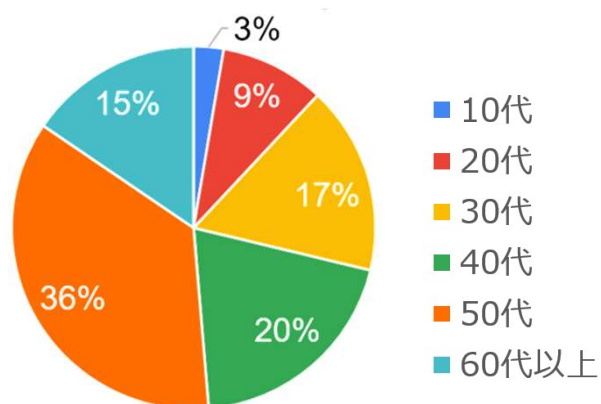
##### (14) 参加者の所属属性をお知らせください。

選択肢	回答数	比率
会社役員・経営者	22	9.7%
会社員	79	35.0%
公務員	75	33.2%
団体職員	19	8.4%
自営業	3	1.3%
学生	9	4.0%
パート・アルバイト	2	0.9%
その他	17	7.5%



##### (15) 参加者の年代をお知らせください。

選択肢	回答数	比率
10代	6	2.7%
20代	21	9.3%
30代	38	16.8%
40代	45	19.9%
50代	81	35.8%
60代以上	35	15.5%



##### (16) 勤務先または学校の所在地をお知らせください

都道府県	人数	比率
北海道	38	16.8%
青森県	3	1.3%
岩手県	14	6.2%
宮城県	6	2.7%
秋田県	0	0.0%
山形県	0	0.0%
福島県	5	2.2%
茨城県	0	0.0%
栃木県	0	0.0%
群馬県	2	0.9%
埼玉県	2	0.9%
千葉県	0	0.0%
東京都	40	17.7%
神奈川県	9	4.0%
新潟県	1	0.4%
富山県	0	0.0%
石川県	3	1.3%
福井県	2	0.9%
山梨県	3	1.3%
長野県	4	1.8%
岐阜県	4	1.8%
静岡県	10	4.4%
愛知県	6	2.7%
三重県	4	1.8%

都道府県	人数	比率
滋賀県	2	0.9%
京都府	6	2.7%
大阪府	10	4.4%
兵庫県	3	1.3%
奈良県	3	1.3%
和歌山県	3	1.3%
鳥取県	0	0.0%
島根県	5	2.2%
岡山県	2	0.9%
広島県	4	1.8%
山口県	2	0.9%
徳島県	0	0.0%
香川県	3	1.3%
愛媛県	3	1.3%
高知県	3	1.3%
福岡県	3	1.3%
佐賀県	0	0.0%
長崎県	4	1.8%
熊本県	2	0.9%
大分県	0	0.0%
宮崎県	4	1.8%
鹿児島県	1	0.4%
沖縄県	7	3.1%

## (3) 全国シンポジウムの開催

### 4. アンケートの結果（総括と考察）

オンラインで配信される本シンポジウムに参加した視聴者が465名に達したことは、教育従事者だけでなく地方行政関係者や、民間企業を含めた幅広い業界からの、観光教育に対する関心の高さがうかがえる。アンケートは視聴者のうち約半数の回答によるものではあるが、大まかな傾向や具体的な声が結果に表れた。

まず視聴者の基本属性として、勤務先は「観光関連事業者」と「学校・教育機関」がほぼ同数でこの2種で全体の半数以上（53.9%）を占め、所属属性は「会社員」と「公務員」がほぼ同数で2種合わせて全体の68.2%を占めた。年代は、50代が最も多い35.8%で、次いで40代が19.9%であった。このことから、観光教育に職務上多少なりとも関連のある経験豊富な世代が多く視聴したことが読み取れる。

また、視聴者の勤務先または学校の所在地では、開催地の東京を筆頭（17.7%）に、このシンポジウムで発表を行った3地域（北海道・岩手県・静岡県）がそれぞれ16.8%、6.2%、4.4%と続いて上位を占めた。そのほかでは、大阪府（4.4%）、沖縄県（3.1%）、京都府（2.7%）が続き、いずれも観光地として人気を集める都市からの参加が比較的多く、とはいえその他の都道府県とも大差はない結果（0.0%～2.2%）となった。

参加理由を複数回答可で答える設問1では、観光振興の観点や観光人材育成の観点から観光教育に関心があるとの回答が多く、観光産業側からの観光教育に対する期待の高さが表れているといえる。一方、それらと同等に高い回答率を示したのが「観光教育の実践例について知りたい」との回答で、その他それよりやや数は減るものの「観光ビジネス科目実践の参考にしたい」「教育的意義の観点から観光教育に関心がある」といった、教育者側や教育的視点に立って関心を示す回答も多く見られた。教育関係者の観光教育への注目度が高まっていることが見て取れる。

自身の仕事や活動に参考になったかとの設問に対しては、「非常に参考になった」「参考になった」で93%を占めたことから見ても、参加者の期待に応える、あるいは期待を超える内容だったと考えられる。

設問6「今回のシンポジウムに参加したことで、今後、実際の行動に移そうと考えていることはありますか」に対しては、複数回答可な中で53.5%が「観光教育についてもう少し詳しく調べてみる、知る機会を作る」と答えている。このことから、今回のシンポジウムが観光教育を知るきっかけとはなったことがうかがえるが、見方を変えると認知はされているがまだ理解が広まるまでには至っていない状況であるといえる。次に回答数が多かった「観光教育の実践例や意義について周りの人に伝える」と答えた人が34.1%に上ったことは、観光教育の広まりに関わりたいという意欲の表れであり、機運が高まっているといえるのではないだろうか。

今回のシンポジウムの肝となる3つの地域の取り組み紹介は、いずれも好評を得たが、「特に印象に残った」という回答では数字的に多少の差が見られた。その差は、発表の内容もさることながら、観光地としての実績や経験値を反映しているとも読み取れ、その違いが各地域の取り組みの充実具合に表れていたことが、視聴者の印象にもつながったと考えられる。

設問3の記述式の回答では、高校生の観光教育そのものに触れる回答は多くはないものの、各発表で示された新しい観光推進の取り組み内容に注目して言及する回答が多かった。その意味では学習発表の域を超えてそれぞれの地域観光を推進する関係者の一員として、視聴者にアピールできたことの表れともいえる。なかには、観光教育的視点は別として、高校生の取り組みとしてレベルが高いことや、主体性を持った取り組み姿勢、若者のアイデアによる商品企画の斬新さなど、「高校生なのにすごい」という見方でインパクトを受けた様子の回答も多かった。

また、各地の取り組み例を視聴者の地元と比較して共通点を見出したり、参考にしたりしてフィードバックさせて捉えている例も見られた。持続可能な観光やSDGsなどに着目し、観光資源の創出や地域の活性化などへの関心の高さも、多くの回答から見受けられた。

## (4) 制作物

---

# (4) 制作物

## 手引書

### 目的・構成

本事業を通して取り纏めた観光教育のノウハウ、重要性を他地域に理解して頂き、広く採用される学校が増えることを目指すための手引書を作成

目的：

- ・観光教育が探究的な学習、及び地域の活性化において重要であることを伝える
- ・先生（教育委員会）と地域の方々に見ていただき、観光教育の取り組みについて理解を促す
- ・地域の「産学官」の関係者が、観光教育を推進するための連携を強化することを促す
- ・観光教育が継続的に長く取り組まれることを目指す

構成：

1. 観光教育の意義
2. 現代観光の状況や今後の可能性
3. 観光教育の地域素材
4. 観光教育の進め方
5. 地域と学校の連携について
6. モデル地域の取り組みについて
7. モデル地域の事業報告、着眼点
8. 学校での観光教育を地域が支えるためには
9. 観光教育を進めるうえでのヒント

### 冊子（抜粋）

The image displays a collage of pages from the 'Tourism Education Handbook'. The pages are arranged in a grid-like fashion, showing various sections of the document. The top left page is the cover, titled '観光教育の手引書' (Tourism Education Handbook) with the subtitle '地域が観光教育を推進するために' (For Localities to Promote Tourism Education). The pages show a mix of text, illustrations, and tables. Some pages have numbered headings, such as '1 観光教育の意義' (Significance of Tourism Education), '2 現代観光の状況や今後の可能性' (Current Status and Future Possibilities of Modern Tourism), '3 観光教育の地域素材' (Local Resources for Tourism Education), '4 観光教育の進め方' (Implementation Methods for Tourism Education), '5 地域と学校の連携について' (Cooperation between Schools and Communities), and '6 三地域の取組みについて' (About the Initiatives of Three Regions). The pages also feature various illustrations, including people, maps, and icons, as well as tables and charts. The overall layout is clean and professional, with a focus on providing practical information and resources for tourism education.

# (4) 制作物

## ワークブック

### 目的・構成

令和3年度観光教育事業における、高校生を対象とした観光教育プログラムの中で「観光コンテンツ開発カリキュラム ワークブック」をアップデートする

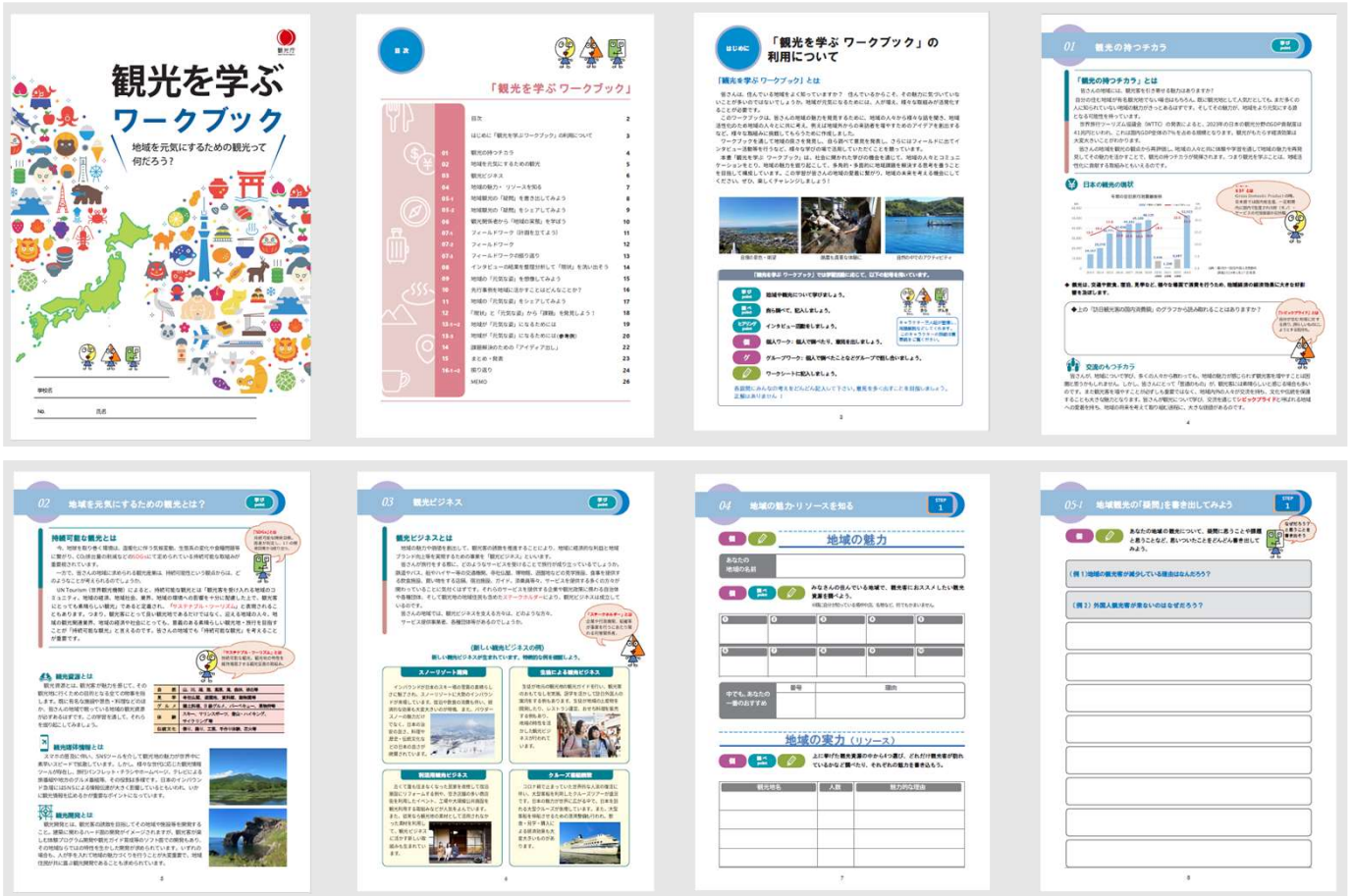
目的：

- ・利用対象者を高校生と想定し、観光教育の教材として活用する
- ・観光教育の重要性について理解を促す
- ・観光教育を推進する地域連携の「産学官」の関係者に、観光教育の実践について理解を促す

構成：

1. 観光ビジネスとは（観光の持つチカラ、地域を元気にするための観光）
2. フィールドワーク（地域の現状を知り、調査テーマを選定、インタビュー、課題抽出）
3. 課題解決のためのアイデア出し
4. まとめ、発表、振り返り

## 冊子（抜粋）



## (5) 総括



## (5) 総括

### 事業の成果

#### 事業の目的（再掲）

観光立国の実現に向けては、観光業を支える人材の育成・確保が不可欠であり、現在の観光人材の育成・確保はもとより、**未来の観光を支える潜在的な人材の掘り起しと多面的な育成にも取り組む必要がある。**

そのところ、地域における観光教育のあり方について、学校内のみで完結するものではなく、**地域の産学官関係者が連携した基盤が主体となり、地域が一体となって取り組むことにより、観光業に対する広く深い学習効果を得ることを目的とした「地域全体に開かれた観光教育」をモデル地域において実施する。**

また、本実施結果を他地域にも広く周知させることで、**地域一体となった観光教育の重要性に対する認知を高め、取り組みを普及させていくことも目的としている。**

#### 事業の成果

上記の目的をふまえ、本事業の成果を下記の通り整理した。

##### ①観光教育の取り組みによる、教育現場における観光事業への興味喚起

採択地域では各学校の学科の教育課程、科目をふまえ、地域性や協議会構成事業者と協議し、各学校の生徒による観光教育への取り組みを開始した。

ニセコ地域では北海道ニセコ高等学校の「観光グローバル科」所属の生徒が参加。二次交通や夏のコンテンツ不足といった地域課題を解消するため、E-Bikeを活用した「サスティナブルツアー」の企画立案と検証を行った。

釜石地域では岩手県立釜石商工高等学校の「総合情報科」の生徒が参加。協議会が構成したプログラムに沿い、観光教育についてオリエンテーションを受け、その後フィールドワークで地域の産業である漁業、林業の現状と観光とのあり方、そして、釜石の「オープン・フィールド・ミュージアム」構想について理解を深め、釜石での体験型コンテンツなどを通じて、地域の魅力を発見した。

島田地域の静岡県立島田商業高等学校では「総合ビジネス科」、「情報ビジネス科」での科目として実施。協議会メンバーによる課題を選定し、生徒は「商品開発と流通」、「広告と販売促進」、「観光ビジネスの課題研究」などを目的として、県外を視察し、地元主催のイベントでのPRなど、観光ビジネスにおける「商品開発」と「販売促進、PR」について取り組んだ。

このように、地域や協議会の方向性、個々の学校の特徴や観光ビジネスの基礎知識の深度、事業の実施主体など、事業を実施する環境は様々であったが、**3校の生徒は今回の事業を通して、自地域の観光資源に触れることで、自地域における観光産業の位置づけやその重要性を認識し、観光資源や観光産業への興味喚起へと繋がったと考えられる。**

##### ②地域の産学官関係者が連携し、地域一体で観光教育へ取り組むことの重要性の顕在化

各地域とも、定期的に協議会主催のグループワークや視察、発表会を通じて、生徒、教員、地域関係者の関係性が密になり、**生徒だけではなく、地域事業者における事業取り組み前後の意識変化もみられ、地域一体での観光教育の重要性と、その取り組みが将来の地域活性化につながることを行政機関や地元の観光産業従事者に広く認知させることができた。**

## (5) 総括

### 事業の課題と解決策

本事業では、大学、高校、観光産業それぞれに知見のある方々を選定し、各分野バランスのとれた有識者をアサインすることで、地域が持つ多様な課題に対応できる体制を整えた。

一方、各モデル地域が実施する取り組みの実行プロセスにおいては、伴走支援として、各有識者との有機的連携が弱かったという課題も見えており、次年度以降の事業においては、事業計画の見直しや、教育プログラム策定の時点から、有識者の意見を取り入れられるよう、事務局と各モデル地域とのコミュニケーションをより密に図り、抽出された課題に対して、各分野の有識者をアサインする仕組みづくりが重要である。

有識者と共同でプロジェクトや教育プログラムを実施することで、教育現場において、より実践的な観光教育の取り組みが実現でき、有識者の専門知識やネットワークを活かした実証実験やフィールドワークなどを通じて、教育現場における被教育者の観光関連産業への興味喚起と、将来的な観光人材の育成と強化に繋がるものと考えられる。

### 次年度の取り組むべき方向性

2023年訪日客の旅行消費額は計5兆2923億円でコロナ禍前の2019年の数値を超え最高記録を更新し、2024年も勢いは継続すると想定されている。更に、国内はアクティブシニア層の旅行意欲も回復し、観光関連事業者においては、現場及びマネジメント層を担う人材の不足がますます顕著となり、観光産業の発展に向けて、土台となる人材育成は今後を見据えて、中期、長期的に取り組むべき課題であり、本事業においても継続的かつ効果的な事業スキームを構築する必要があると考えられる。

以下に、次年度以降、取り組むことが有効であると考えられる施策について考察した。

#### 1. 観光教育横連携プラットフォームの構築

モデル地域だけではなく、他の地域の観光教育の取り組み内容を一元的に情報共有できるプラットフォームを構築し、地域間や学校間の連携や、SNSによる情報発信を行い、自地域の取り組み内容との比較、および検証のための材料として活用する。

地域間でのオンライン交流や、相互の体験授業などを通じ、他地域との比較により得られる自地域のアイデンティティ形成が地域愛、地元愛の醸成につながるものと考えられる。

#### 2. 国際的な視点の強化

観光は国際的な産業であり、インバウンド需要への対応にむけて、国際的な視点を持つ人材の育成が求められる。各校が実施する留学プログラムの活用や、国際交流イベントへの参加、外国人留学生との交流などを通じて、学生の国際的な視野を広げる取り組みを推進することで、自地域へのインバウンド誘客や、自地域の観光魅力を世界に発信できる人材の育成につながるものと考えられる。

以上、これらの方向性を踏まえながら、次年度以降、中長期的な観光教育事業の計画を立てることで、より充実した教育環境を提供し、学生の観光業界への就職や地域への貢献を支援することが出来るだろう。